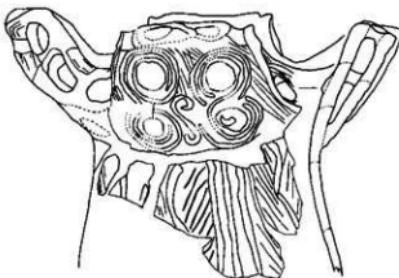


小 関 御 祭 田 遺 跡

大規模林道関ヶ原八幡線建設工事に伴う

緊急発掘調査報告書



1997

森林開発公団 岐阜地方建設部

財団法人 岐阜県文化財保護センター



1

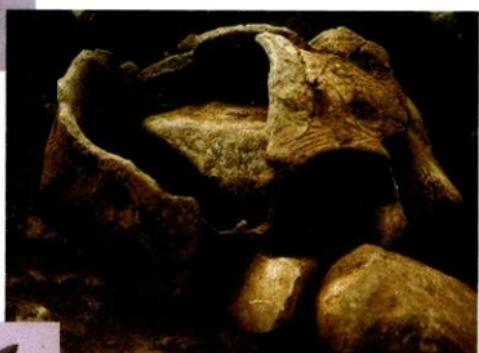


2

1. 小間御祭田遺跡（上空写真、上が北）
2. 遺跡より南を望む



2



3



4



1. 住居跡出土土器 炉内 (4)
2. 住居跡出土土器 埋甕 (1)
3. 埋甕出土状況 (1)
4. 赤彩土器、異形石器 (左から51、3、361)
5. 調査区全景 (上が北)

5

序

昨今は、大規模開発に伴って遺跡の調査面積も増加し、今まで知り得なかつた歴史的事実が次々と明らかにされつつあります。このような中で、今回関ヶ原町の地において、縄文時代の遺跡としては昭和37年度の中野遺跡発掘調査から実に34年ぶりに小関御祭田遺跡の発掘調査が実施されました。小関御祭田遺跡は昭和54年度に行われた分布調査によって発見され、多量の遺物が表採されることで名の知られた遺跡でした。今回は大規模林道関ヶ原八幡線建設工事に伴う工事予定区域内を発掘調査し、その範囲は本遺跡のごく一部ではありましたが、竪穴住居跡が1軒発見され多量の土器も出土しています。まさに今回の発掘調査は小関御祭田遺跡の性格をひもとく第一歩の調査となつたわけで、その意義は計り知れません。

調査の結果、縄文時代中期の貴重な資料を得ることができました。関ヶ原町は古代においても壬申の乱と大きく関わるをもち、また交通の要となった不破の関跡があり、戦国時代には関ヶ原の合戦が行われた歴史的舞台でもあります。また現在の交通事情をもってしても東日本から西日本へ抜けるには必ずと言っていいほど経由する要所です。本遺跡から出土した多くの遺物には、岐阜県内の縄文時代中期の遺跡でよく見られる東と西の文化の交流の様子が見られます。また今回出土した土器には北陸地方や、飛騨地方の土器に類似したものはほとんどなく、小関御祭田遺跡は平野部の東西交流のルート上にあったのかもしれません。

このような成果は、発掘調査のみならず、地域の方々の文化財に対するご理解があつたからこそ導き出されたわけであります。発掘調査および出土品の整理・報告書の作成にあたりましては、関係諸機関・各位の温かいご理解とご協力を頂き感謝申し上げます。また、現地における調査に際しましては、地元の方々の多大なるご協力を賜り厚く御礼を申し上げる次第であります。

平成9年3月

財団法人 岐阜県文化財保護センター

理事長 篠 田 幸 男

例　　言

1. 本書は不破郡関ヶ原町大字関ヶ原字蜻蛉谷に所在する小関御祭田遺跡 (G31S 06966) の発掘調査報告書である。

2. 本調査は大規模林道関ヶ原八幡線建設工事に伴うもので、森林開発公団岐阜地方建設部から岐阜県教育委員会が委託を受けた。発掘調査は財団法人岐阜県文化財保護センターが実施した。

3. 発掘調査は平成8年度に実施し、大知正枝が担当した。

4. 本書に記載した遺物の実測（拓本含む）は、次の者が主に行なった。

　大知正枝 増子 誠 近藤大典 小谷和彦 伊藤節子 進藤有美子 柳橋朝子 酒向邦子
　佐藤まさみ 武藤美和子 杉原麻記 今尾さち子 小木曾美智 國井悦子 蔡下賀代子

5. 実測図等のトレースは次の者が主に行なった。

　大知正枝 増子 誠 伊藤節子 進藤有美子 武藤美和子 今尾さち子 小木曾美智
　國井悦子 蔡下賀代子

6. 遺物の写真撮影は佐藤右文氏に委託して行なった。

7. 本書は大知正枝が執筆した。

8. 事前地形測量、水準測量、空中写真撮影は株式会社イビゾクに委託して行なった。

9. 黒曜石製遺物の原材产地分析は、京都大学原子炉実験所薫科哲男氏に委託して行なった。

10. 発掘調査および報告書の作成にあたって次の方々や諸機関からご助言・ご指導・ご協力を頂いた。

記して感謝の意を表する次第である。（敬称略・順不同）

　大岡明臣 高橋順之 鈴木隆雄 相撲正一 佐野康雄 小谷和彦 飯沼暢康 河村一彦
　竹中一秋 稲川威 松野晶信 藤田英博 春日井恒 近藤大典 小野木学 長谷川幸志
　海道順子 西村市造 関ヶ原町教育委員会 関ヶ原町社会教育課・産業課
　関ヶ原町歴史民俗資料館 関ヶ原町文化財保存審議会 関ヶ原北小学校 林政部林産振興課
　森林開発公団岐阜地方建設部

11. 発掘調査作業ならびに調査記録および出土品の整理等には、次の方々の参加・協力を受けた。（敬称略・順不同）

　鈴木由紀 栄谷朋子 稲葉省吾 谷口純一 山口義夫 今永美砂子 中村ふみ代
　日比野登美子 谷村キヌ子 藤原八重子 小山則子 國枝小夜美 河村節子 松井豊彦
　尾上義信 田中小三郎 田中キシ子 木村 豊 伊藤節子 進藤有美子

12. 調査記録および出土品は、財団法人岐阜県文化財保護センターで保管している。

凡　　例

1. 遺構挿図の縮尺は次のとおりで、それぞれスケールを添付した。

・住居跡	1/40	・炉跡	1/10
・集積遺構 1	1/40	・集積遺構 2	1/40
・その他、遺構全体図や縮尺の異なるものは、添付したスケールのとおりである。					
2. 遺物挿図の縮尺は次のとおりで、それぞれスケールを添付した。

・縄文土器	1/3	・石皿	1/3
・その他の石器	2/3	・陶磁器類	2/3
・その他、縮尺の異なるものは、添付したスケールのとおりである。					
3. 第2図、第6図、第7図、第8図、第9図、第10図、第11図、第12図、第13図、第14図、第15図、第16図の図中の方位は、すべて磁北を示す。
4. 水糸レベルは標高を示し、土層図の右または左肩に記した。
5. 遺構記号は次の通りである。SB：住居跡 SI：集積遺構 SK：土坑 P：ピット
6. 遺物番号は種類によって次のように表記した。なお、本文・挿図・表・図版とも統一してある。

・縄文土器	1 ~	・石器類	301 ~
・その他の時代の遺物 401 ~					
7. 第1図、第3図、第4図に記載の地図は国土地理院発行のものを使用した。

第1図	1/25,000	地形図	関ヶ原
第3図	1/25,000	地形図	関ヶ原、大垣
第4図	1/50,000	地形図	長浜、大垣、彦根東部、津島
8. 土層及び遺物の色調観察は、小山正忠・竹原秀雄『新版標準土色帳』(1995)を参照した。
9. 遺物分布図の赤ドットは土器、黒ドットは石器を表す。
10. 第1図、1/10,000の地図は大岡明臣「関ヶ原町遺跡調査報告」1982より転載した。
11. 第35図石錘重量分布図の表採切目については大岡明臣「関ヶ原町遺跡調査報告」1982の資料を参考した。
12. 第36・37図、第10表は大岡明臣「関ヶ原町遺跡調査報告」1982より転載した。

目 次

序	
例言	
凡例	
第1章 発掘調査の目的と方法	1
第1節 発掘調査に至る経緯	1
第2節 発掘調査の経過	2
第2章 小関御祭田遺跡周辺の立地と環境	4
第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	5
第3章 遺構	10
第1節 基本的層序	10
第2節 遺構と遺物の分布	12
第3節 遺構	18
第4章 遺物	40
第1節 繩文土器	40
第2節 石器	66
第3節 その他の時代の遺物	84
第5章 自然科学的・手法による報告	85
第6章 考察	87
主要参考文献	100

挿図 目次

第1図 遺跡位置図	1	第30図 石器（3）RF UF	74
第2図 地区設定図	3	第31図 石器（4）石核 フレイク 削片	75
第3図 関ヶ原町遺跡位置図	8	第32図 石器（5）石錐	76
第4図 周辺遺跡位置図	9	第33図 石器（6）敲・凹・磨石	77
第5図 土層柱状図	11	第34図 石器（7）石皿 異形石器	78
第6図 遺構全体図	13	第35図 石錐重量分布図	79
第7図 調査区北遺構図	14	第36図 御斎田遺跡出土石器石質の割合 大岡明臣1982より転載	79
第8図 調査区南遺構図	15	第37図 松尾遺跡出土石器石質の割合 大岡明臣1982より転載	79
第9図 遺物分布図 土器・石器分布図	16	第38図 石器石材の割合	79
第10図 住居跡付近遺物分布図	17	第39図 石製模造品、陶磁器	84
第11図 住居跡（遺構平面・断面図）	19	第40図 土器時期別重量分布図（調査区全体）	
第12図 住居跡遺物分布図	20		89
第13図 住居跡・炉（遺構平面・断面・遺物分布図）	21		
第14図 住居跡・埋甕・床面出土土器（出土状況平面・断面図）	22		
第15図 集積遺構1（遺構平面・断面・遺物分布図）	24		
第16図 集積遺構2（遺構平面・断面・遺物分布図）	25		
第17図 住居跡出土繩文土器 埋甕	48		
第18図 住居跡・炉跡出土繩文土器	49		
第19図 住居跡出土繩文土器	50		
第20図 住居跡・住居跡炉内繩文土器	51		
第21図 住居跡覆土・住居跡内SK（1）出土繩文土器	52		
第22図 住居跡内SK出土繩文土器（2）	53		
第23図 住居跡内SK出土繩文土器（3）	54		
第24図 集積遺構1・2・SK・P出土繩文土器	59		
第25図 包含層出土繩文土器（1）	60		
第26図 包含層出土繩文土器（2）	61		
第27図 石錐分類模式図	71		
第28図 石器（1）石錐	72		
第29図 石器（2）石匙 ピエス・エスキュー・スクレイバー	73		

表 目 次

第1表 遺構・遺物番号対照表	23
第2表 土坑・ピット一覧表	26
第3表 住居跡内出土焼礫・石計測表	28
第4表 集積遺構1内焼礫・石計測表	30
第5表 集積遺構2内焼礫・石計測表	38
第6表 底部器形分類表	58
第7表 土器観察表	62
第8表 石錐の石材と形態	67
第9表 敲・凹・磨石石材と形態	70
第10表 小関御斎田遺跡の石器に使用された 石質 大岡明臣1982より転載	79
第11表 石器組成表	79
第12表 石器出土状況遺構・地区別表	80
第13表 石器計測表	81
第14表 石製模造品計測表	84
第15表 土器時期別遺構別重量・点数集計表	
	91
第16表 土器分類別遺構別重量計測表	92
第17表 土器分類別遺構別点数集計表	96

図版目次

- | | |
|-----------------------------------|-----------------------------|
| 図版1 遺跡遠景写真（南より） | 図版10 住居跡炉内出土第I、II、III、V群土器 |
| 遺跡近景写真（南より） | 器 |
| 遺跡より南を望む | 図版11 住居跡覆土出土第I、II、V群土器 |
| 図版2 住居跡検出状況（北より） | 図版12 住居跡内SK出土第II、V群土器 |
| 住居跡検出状況（南より） | 図版13 住居跡内SK出土第I、II群土器 |
| 作業風景 | 図版14 集積遺構1出土第II、III、IV、V群土器 |
| 図版3 住居跡検出付近平坦地（西方向を望む） | 図版15 集積遺構1出土第V群土器 |
| 炉跡検出状況 | 集積遺構2、SK、P出土土器 |
| 炉内土器出土状況 | 図版16 包含層出土第I群土器 |
| 図版4 集積遺構1検出状況 | 図版17 包含層出土第II群土器 |
| 集積遺構2検出状況 | 図版18 包含層出土第III、IV、V群土器 |
| 集積遺構2遺物出土状況 | 図版19 石器（1） |
| 図版5 埋甕出土状況（東より） | 石鎌　スクレイパー　石核　フレイク |
| 埋甕出土状況（東より） | 石鎌 |
| 埋甕出土状況（北より） | 図版20 石器（2） |
| 図版6 住居跡出土土器（炉内出土土器、床面
出土土器、埋甕） | 敲・凹・磨石　石皿　異形石器 |
| 図版7 埋甕拡大写真 | その他の時代の遺物 |
| 図版8 住居跡出土第I、V群土器　底部網代
痕 | |
| 図版9 住居跡出土第II群土器 | |

第1章 発掘調査の目的と方法

第1節 発掘調査に至る経緯

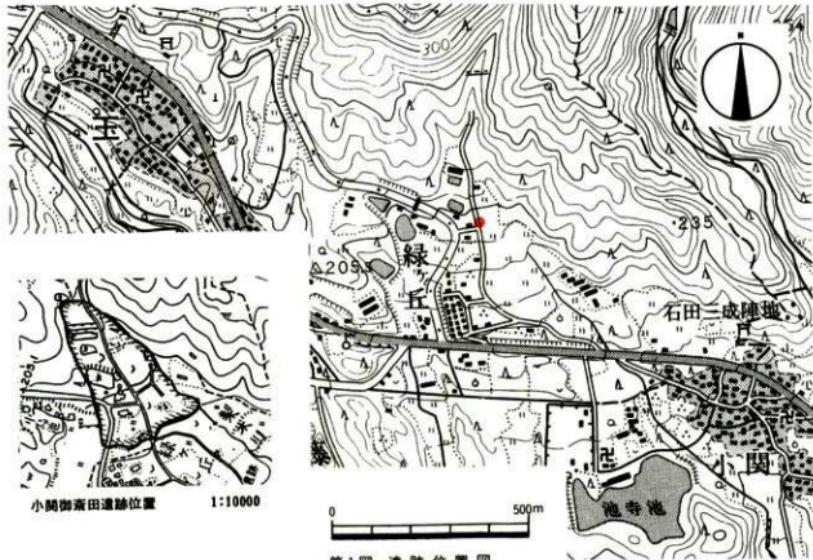
小関御祭田遺跡は大規模林道開ヶ原八幡線建設工事に伴う埋蔵文化財発掘調査に関わる文化財調査の一貫として、平成8年度に発掘調査を実施した。

森林開発公団岐阜地方建設部所管内の開ヶ原地区内区間7.7kmの林道予定部分で国道365号線からの登り口から約500mほど北の辺りから梨の木川までの約120mが発掘調査区である。発掘調査に入った時点では既に国道365号線の登り口から北へ500mの範囲は道路工事が終了していた。

昭和48年から開ヶ原町史編纂が始められ、54年に開ヶ原町の原始時代の調査を大岡明臣氏が行ってきた。小関御祭田遺跡はその調査で発見された遺跡の一つであり岐阜県遺跡地図に登録されている。平成7年度に岐阜県教育委員会文化課が9m²を重機で試掘調査を行い平成8年度に1,268m²の本調査を実施した。発掘調査前は観光農園のイチゴ畑として利用されていた。詳細は第3章以降に後述する。

岐阜県遺跡地図に登録されている小関御祭田遺跡は今回発掘する範囲から更に南へ200mの範囲が登録されている。したがって南側200m部分については発掘調査が行われないまま道路工事が入っている。残念ながら南側部分では道路工事の際に土器が出土したかどうかはあきらかでないが、第2節歴史的環境でも述べるが、土器が多数表面採集されている範囲がある。発掘現場で出たのと同じぐらいの大きさのものが出ていたという話もある。

第1図の1/10,000の小関御祭田遺跡位置図は大岡明臣『開ヶ原町遺跡調査報告』1982から転載した。



第1図 遺跡位置図

第2節 発掘調査の経過

小関御祭田遺跡は、岐阜県遺跡地図に縄文時代の遺物散布地として登録されている。表面採集では多数の土器と石器が採集されており、特に今回発掘調査を行った範囲からは石鎚が多数採集されたということである¹⁾。平成7年の文化課による試掘調査では重機により1×3mのトレンチを3ヵ所開けたところ、縄文土器片9点、石鎚1点が出土している。

現地での発掘調査は平成8年5月10日に開始し、平成8年9月30日に終了した。調査は建設予定の道路の範囲内で行った。林道が南から上ってきて梨の木川に向かってカーブする部分を発掘したので道路幅で規制されているが遺跡範囲をほぼ南北に調査することになった。

なお、遺物の取り上げはトータルステーションの遺跡システムを使用し、出土地点を記録した。ただし土器の小破片については4m×4mのグリッド毎に取り上げた。

土層の堆積状況については調査を開始してからコンマ1の重機で北側、南側とその間に幅約50cm、深さ約1mで土層観察のサブトレンチを入れ確認した。調査前は観光農園のイチゴ畑で、買収が済んでからは荒れ地になっていた。

I層は搅乱されているが多数の遺物が表採されているということもあり、手掘りで掘り下げた。

土捨て場は調査区の近くに借地して1tのクローラーダンプで運んだ。調査の方法としては、西の方から東に向かって順次掘削を行った。調査区幅が限られており、土捨て場まで距離があり能的には一方向に動くしかなくかなり規制された発掘となつた。ダンプが通った後は、ねじり鎌で削るには堅くなつてしまい反省点が残る。

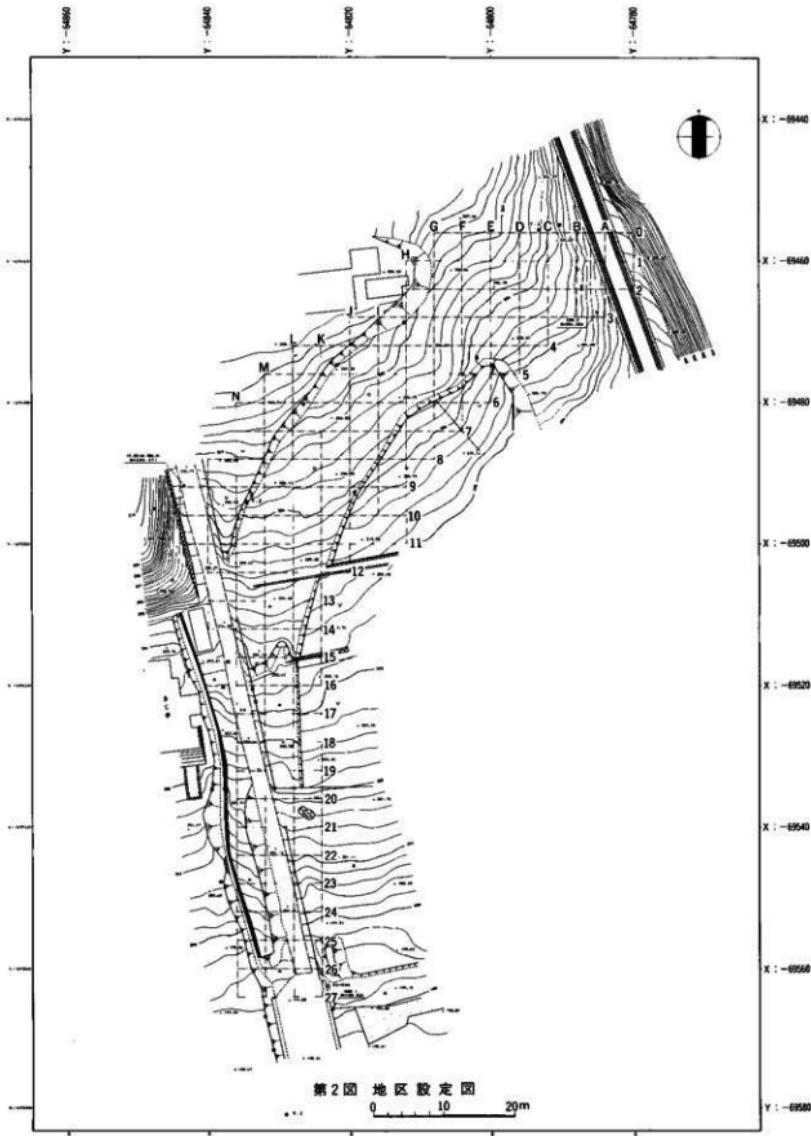
グリッドは国土座標に合わせて4m×4mで設定し、グリッド名は北から南へ順に1~27の数字を、東から西へA~Nのアルファベットを付した。

先ず、調査にはいる前に土層観察も兼ねて、調査区の北側にコンマ1の重機を使い幅50cmでトレンチを開けた。調査区の近くには観光農園のイチゴ畑があるとともに西側に南北に町道が横切っていたため安全面を考慮し、調査区を高さ1.2mのフェンスで囲った。5月13日に調査始め式を行い、手掘りによる調査に入る前に調査区内が荒れ地になつたため、不燃物の撤去と草刈りを行つた。

その後手掘りによるI層の掘り下げは町道の東地区は8月上旬まで町道の西側地区は7月下旬から9月上旬まで行った。II層の掘り下げ、遺構の検出、遺構の完掘と同時に写真撮影と図面作成を5月下旬から9月下旬まで行った。夏はかなり暑く晴天が続いたが、6月と9月は雨が多く作業が思うように進まなかつた。ほとんどはII層まででとめたが、確認のためL列から西、9、10列から南側には数箇所III層まで掘り下がたが土器はほとんど出土しなかつた。9月19日に空中撮影を行い、空中撮影後炉跡周辺にサブトレンチを入れ土層観察をし、住居跡の床面を検出する。9月30日で発掘作業を終了した。

註

1) 大岡明臣 「関ヶ原町遺跡調査報告」1982。



第2章 小関御祭田遺跡周辺の立地と環境

第1節 地理的環境

関ヶ原は岐阜県の西端に位置し、その地形は、広大な面積を占める山地と、その間に挟まれた台地および平野の以上3つの部分から成り立っている。人文活動の主な舞台といえる関ヶ原台地は伊吹山地と鈴鹿山地・養老山地に挟まれた狭隘部に開けた地で、更に岩倉山（338.5m）城山（307.5m）松尾山（293.1m）および南宮山（419m）などに囲まれた凹状の地形となっている。この地に主として伊吹山地から流下する藤古川、および相川が発出してきた亜角礫を中心とする礫によって埋められ、扇状地を形成した。更に年を経て、藤古川・梨の木川・相川・今須川による河岸段丘が形成され、関ヶ原町の遺跡は主にこれらの河岸段丘上に発達したものが多い。

藤古川水系では、松尾遺跡・若宮・西皆田・六反田遺跡があり、その支流の清水川沿いに寒谷遺跡・堂前遺跡・中島遺跡がある。梨の木川流域では、小関御祭出遺跡・池寺遺跡・西甲斐墓遺跡・西芝之内遺跡・中野遺跡・南野遺跡がある。相川沿いには、一二の湯遺跡・中田遺跡・大栗毛遺跡・南方遺跡・南整理遺跡等があり、今須川沿いでは長久寺遺跡・祖父谷遺跡がある。

天然林の80.8%は広葉樹、残りの19.2%が針葉樹であり、典型的な広葉樹林卓越型の植生を示している。玉地区から今須地区にかけて、裏日本型ブナ林の南限線が走っている。このブナ林は、下草にチシマザサやヒメモチとともにう日本海型の植生である。これとは対照的に東部の里山緩斜面のシイは太平洋型植生の指標種であり、このあたりが天然シイの北限となる。

関ヶ原から今須にかけてはスギやヒノキの伐採林が多く、その間にシラカシ・シイ・ヒサカキ・シキミ・ユズリハ・アセビ・アオキなどの常緑広葉樹と、コナラ・シデ・アカメガシワ・マンサク・シロモジ・ヤマウルシ・ヌルデ・ネジキなどの落葉広葉樹の天然林が残っている。下草にはヒカゲノカズラ・ニガイチゴ・ウラジロなども見られる。

調査区付近ではイノシシが今でも畠に降りてくる。その他揖斐川山系にニホンツキノワグマ、靈仙山の周辺でニホンカモシカ、北部山地でホンシュウジカ、ノウサギホンドキツネ、ホンドタヌキが棲息する。全般的には、河川上流域に棲息する魚類が多く観察される。相川上流域や今須川上流では、チチブ・ヨシノボリ・ドンコ・カジカ・アマゴ・ヤマメなどが見られ、その下流域では、ウグイ・ムツなどが棲息している。中流域にはアユ・アカザ・オイカワ・アブラハエなどが、また中規模緩流河川や池沼地ではコイ・ゲンゴロウアナ・ウナギ・ナマズなどが棲む。

本遺跡は不破郡関ヶ原町大字関ヶ原字蜻蛉谷にあり、梨の木川の扇状地の扇頂に位置する標高約190~207mの台地である。西・北・東の三方を伊吹山系の山々に囲まれ、南に開けた所で、見晴らしがよく、南方には、養老山系・鈴鹿山系の山々が眺望できる。遺跡の東側を梨の木川が流れ、日当たりもよく、森が近く狩猟採集に適し西には泉や溜め池などがあり、自然条件の整った地形である。

本遺跡は、地形的には滋賀県の醍醐遺跡に似ていると現地を訪れて感じた。

参考文献 関ヶ原町教育委員会『関ヶ原町史』通史編上巻1990。

第2節 歴史的環境

関ヶ原町では昭和49年から52年にかけて不破関跡の発掘、昭和56年には関ヶ原合戦の開戦地の発掘、昭和37年に中野遺跡の発掘調査がされた。昭和48年から町史編纂が始められ、昭和54年に関ヶ原町の原始時代の調査がされた際に小関御祭田遺跡のほか南野遺跡、中田遺跡、祖父谷遺跡が発見された。

関ヶ原町の縄文時代の遺跡は多くが川沿いの台地上に分布している。小関御祭田遺跡の近くにも多くの縄文時代の遺跡があり、すぐ南に池寺遺跡がある。同じ梨の木川の下流にある中野遺跡は発掘調査されており本遺跡と時代もほぼ同じである。

小関御祭田遺跡周辺の縄文遺跡と主な遺跡

(岐阜県)

関ヶ原町

- 1 小関御祭田遺跡（関ヶ原町小関）縄文時代中期後葉～末葉 標高約207m 扇状地上。
- 2 寝物語遺跡（関ヶ原町今須長久寺）工場建設により滅失。縄文時代。
- 3 長久寺遺跡（関ヶ原町今須長久寺）旧中山道北、滋賀県境付近である。大塚紡績の工場が建設され、西の台地は荒れ地となっている。縄文土器片。
- 4 堂前城跡（関ヶ原町玉堂前）城館跡。
- 5 堂前城跡遺跡（関ヶ原町玉堂前）清水川のそばの標高190mの小高い丘付近一帯。叩き石1点、弥生土器、土師器片7点、須恵器片、山茶碗。
- 6 中島遺跡（関ヶ原町玉中島）標高190～200mに位置する台地である。中島池など3ヶの溜め池がある。弥生時代の磨製有茎石鎌。
- 7 池寺遺跡（関ヶ原町玉池寺）小関御祭田遺跡の南約1km、標高約160mで池寺池の北側と西側が範囲。遺跡の南側に藤子川、東に梨の木川、西に谷川が流れる。梨の木川の扇状地の扇端にあたり、一部藤古川の河岸段丘も形成している。石鎌3点、蝶形石器1点、その他フレイクなど約20点、土器小破片数点。
- 8 松尾山城跡（関ヶ原町今須溝口山）
- 9 不破関跡（関ヶ原町松尾）昭和49年から昭和52年に範囲確認等調査。出土遺物は瓦、須恵器、土師器、灰釉陶器、山茶碗、青磁、白磁、陶硯、和同開珎、銅錢など。検出遺構は掘立柱建物、築地、土壘、溝である。不破の関跡の四至は、土壘の検出により北面の長さ460.5m、東面の長さ432.3m、南面の長さ112.5mの梯形状をなしており、総面積10haほどの面積を占めていたと想定できる。東西方向の土壘の西側は藤子川の崖面にまで達している。
- 10 天満山遺跡（関ヶ原町松尾天満山）奈良時代。
- 11 西田柴の内遺跡（関ヶ原町松尾西田芝の内）天満山から南側の梨の木川沿いの一帯。チャートのフレイク4点。須恵器片数点。
- 12 一二の湯遺跡（関ヶ原町松尾井ノロ）相川扇状地の扇頂部に位置する。標高約160m。関ヶ原北小学校建設により半ば滅失。叩き石、石斧のほかフレイクはチャート・サヌカイト2点・下呂石。

6 第2章 小国御祭田遺跡周辺の立地と環境

- 13 合川遺跡（関ヶ原町松尾合川）縄文～平安時代。
- 14 井上遺跡（関ヶ原町松尾井上）標高120～125m藤古川の河岸段丘上で丘陵地になっている。石鎚20点のうち85%がサヌカイト、下呂石10%、チャート5%で粗製のものが目立ち無脚鎚が多い。異形石鎚3点。石錐3点いずれもサヌカイト。石鏟1点、凹石1点、叩き石1点。スクレイパー4点で材質は下呂石1点、サヌカイト2点、チャート1点。他チャート、サヌカイトのフレイク出土。縄文時代晩期の土器片小破片で59点。弥生土器67点、土師器多數、須恵器87点、布目瓦1点、灰釉陶器、山茶碗出土。縄文時代晩期から弥生・奈良・平安・鎌倉時代までの遺跡。
- 15 若宮遺跡（関ヶ原町字松尾若宮）縄文～平安時代。石棒2本。
- 16 鐘叩遺跡（関ヶ原町松尾鐘叩）縄文～平安時代。
- 17 井ノ口遺跡（関ヶ原町松尾井ノ口）縄文～平安時代。
- 18 西皆田遺跡（関ヶ原町皆田）縄文時代。工場建設により滅失。現在関ヶ原工場原石置き場になっている。
- 19 中野遺跡（関ヶ原町関ヶ原中野）標高約115m台地上。東海道新幹線工事に先立ち、昭和37年8月発掘調査が行われる。石鎚・打製石斧・磨製石斧・石匙・石錐・切り目石鏟・凹石・叩き石・砥石、土偶、縄文時代中・後期の縄文土器片出土。住居跡、炉跡、集石遺構などを検出。
- 20 大栗毛遺跡（関ヶ原町関ヶ原大栗毛）出土遺物は石棒・石剣・石刀。
- 21 六反田遺跡（関ヶ原町六反田）藤古川と梨の木川の合流地点。両河川によってできた河岸段丘で、標高約95～100m。石鎚3点。1点は有茎石鎚で材質はサヌカイト。フレイクはチャートが4点、サヌカイトが5点。縄文土器片1点、土師器片1点、須恵器片1点。
- 22 森前遺跡（関ヶ原町関ヶ原森前）縄文時代。
- 23 池下遺跡（関ヶ原町関ヶ原池寺）縄文時代。
- 24 堂ヶ谷遺跡（関ヶ原町関ヶ原堂ヶ谷）縄文時代。
- 25 南方遺跡（関ヶ原町字野上南方）平木川の扇状地の扇頂に位置する標高90～105m地点である。三方を山で囲まれ、北に開けた遺跡である。遺跡の東側に平木川が流れる。遺跡の北には国道21号線が走り、遺跡の中央部で東西に新幹線が横切っている。縄文土器・弥生土器・打製石斧、須恵器、灰釉陶器、山茶碗、サヌカイトのフレイク。
- 26 溝畔遺跡（関ヶ原町野上溝畔）縄文～平安時代。
- 27 天楽遺跡（関ヶ原町野上天楽）縄文～平安時代。
- 28 南整理遺跡（関ヶ原町野上南整理）縄文～平安時代。
- 29 南野遺跡（関ヶ原町東野）梨の木川による河岸段丘で、標高110m。遺跡の西側に梨の木川が流れ、中野遺跡のはば真東にあたり、梨の木川を挟んで中野遺跡と南野遺跡がある。石鎚2点で、サヌカイトとチャート。叩き石2点、フレイク49点の内、31点がサヌカイト、17点がチャート、1点が下呂石。縄文土器片後期～晩期57点、弥生時代前期、須恵器出土。
- 30 中田遺跡（関ヶ原町中田）相川と小栗毛川による扇状地の扇頂部に位置する標高150mの地点で付近には溜め池が多い。石錐・石鎚はチャート、フレイクは5片のうちサヌカイトが3点、

チャート2点。

- 31 寒谷遺跡（関ヶ原町玉寒谷）玉倉部清水から南東へ約600m程下ったところに小高い丘陵地があるがその辺りの標高175～185m地点である。周囲を山に囲まれた小窪地を全体として形成している。至る所に勇木がある。石器類は見あたらず、縄文時代晩期から弥生時代前期の土器片1点、土師器片1点、須恵器片数点。
- 32 正慶畠遺跡（関ヶ原町玉東部）多量の縄文土器が出土。
- 33 祖父谷遺跡（関ヶ原町今須祖父谷）今須川と祖父川による河岸段丘である。標高155～165m。石器の一部とフレイク。
- 34 西甲斐墓遺跡（関ヶ原町小池）叩き石・石斧・石鎌・石匙・石錐・フレイク17個、縄文土器片・須恵器片。

以上の遺跡の中で縄文時代の遺跡としては小御開祭田遺跡・中野遺跡・松尾遺跡・西皆田遺跡・六反田遺跡などいずれも中期後半以降のものが多い。

弥生時代の主な遺跡は、寒谷遺跡・堂前遺跡・中島遺跡・一二の湯遺跡・中出遺跡・南方遺跡などである。いずれも出土遺物が少なく遺跡の性格等ははっきりしていない。

古墳は南整理遺跡付近一帯にあったといわれ、古墳時代の須恵器片が数多く出土している。玉倉部清水付近も遺物が出土し、可能性があるが墳丘は確認されていない。本遺跡ではIII層から滑石製模造品が出土している。出土したところより北の山側からの流れ込みと思われる。

垂井町

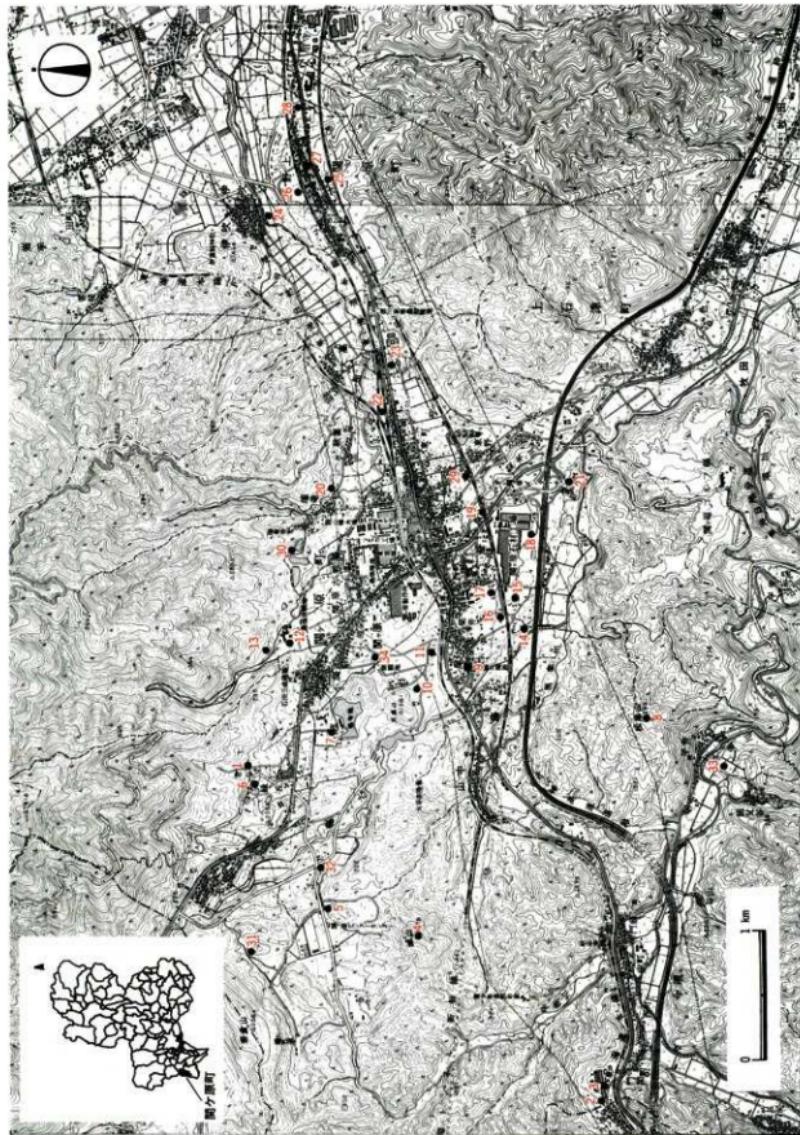
- 35 長尾遺跡 縄文時代中期～後期 標高約80m舌状台地

（滋賀県）

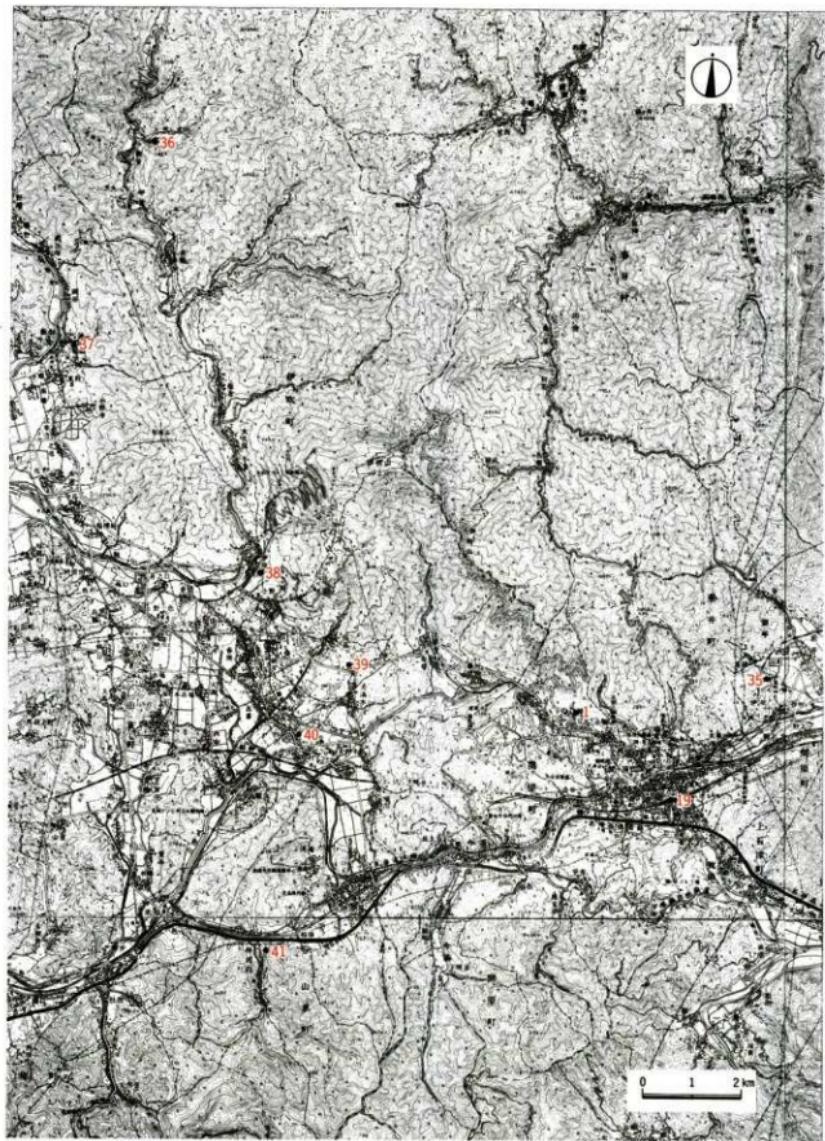
- 36 起こし又遺跡 縄文時代早期・中期～後期 標高約420m鯉川左岸の谷底平野
- 37 醍醐遺跡 縄文時代中期後葉～後期 標高約198m扇状地上 石錐の出土量突出
- 38 伊吹遺跡 縄文時代中期初頭 標高約250m段丘上
- 39 井の田遺跡 縄文時代中期後半～終末 標高約220m複合扇状地
美濃地方と差のない土器群
- 40 杉沢遺跡 縄文時代晚期前半 標高約165m扇状地上
- 41 番の面遺跡 縄文時代中期末 標高約185m台地

参考文献

- 大岡明臣『関ヶ原町遺跡調査報告』1982。
 関ヶ原町教育委員会『関ヶ原町史』通史編上巻 1990。
 高橋順之「伊吹山地周辺の縄文遺跡」「起こし又遺跡発掘調査報告書」1993。
 文化庁文化財保護部『全国遺跡地図 滋賀県』1982。



第3図 関ヶ原町遺跡位置図



第4図 周辺遺跡位置図

第3章 遺 構

第1節 基本的層序

調査区は北から南に傾斜する扇状地上に立地するため、土層の堆積の厚さは地点によって異なる。地形的に北側は比較的平坦だが全体的には南に向かって急な坂になっているため下の方に土が流れたと思われる。調査区の北側で標高約207m、南側で約203mである。このために周囲の畠も土が流れないように石垣を積んでなるべく平らな面を作るために苦労している。遺構面は全面的に耕作による搅乱を受け残りが悪いが、土が流れやすい点でも耕作にはいる以前からかなり侵食を受けていたものと思われる。

基本層序は第I層（表土）より第IV層まで区分される。第II層より下の層は基本的に崖錐性のもので直径30cm以上の角礫や亜角礫が多く入るとともに、定住に伴う遺物が少量含まれている。地形から考えて北部からの流れ込みと考えられ生活地区は北側にもあったと観察する。当初は北側のトレンチ調査でIII層直上に遺物が挟まっていたため、III層直上まで掘り下げる予定だったがI層を掘り下げたII層直上で炉跡が検出されたため、II層までの掘削を行った。L列から西側に数箇所III層までの掘り下げを行ったが土器は出土しなかった。

以下、各土層の性状を概述する。

第I層：表土。粒子が細かい畠の耕作土である。搅乱により土器片や石器を含む。黒褐色土、砂質土15cm～50cm。住居跡が確認された箇所では15cm～30cmで、南に行くほど堆積が厚い。

第II層：かなり削平されていたが、I層を剥いで直下で炉が検出されたことからII層を遺構面と考えた。崖錐性の堆積層で人頭大の礫を多く含む。暗褐色土、やや粘質な砂質土、20～40cm。

第III層：崖錐性の堆積層。暗褐色土、少しまりのあるやや粘質な砂質土20～40cm。

第IV層：地山。褐色土、しまりはないが大きい礫や小石を多く含む。

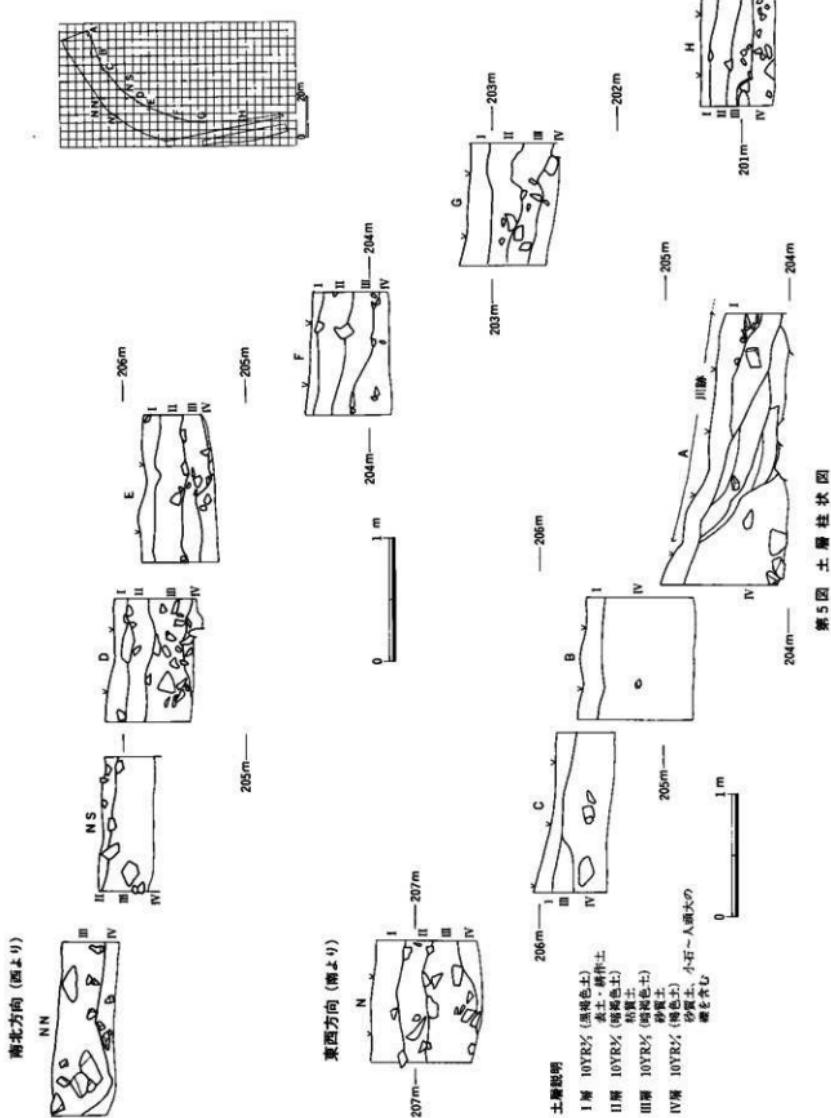
III層にも土器片は入るが崖錐性の層で北の方にあった集落から流れ込んだものと思われる。

以上を、本遺跡の基本堆積土層および特性として、次章以下の記述の際に使用する。

調査区の一番東側、梨の木川の近くは川に向かって傾斜しており、地山の砂礫の層の上は川の跡と思われるシルト層があり、それより西は崖錐性による層が厚く堆積している。昔の川跡と思われる箇所には沢ガニがよく出没した。川から西へ約10mの間は、森林だったらしく切り株がたくさん残っていた。

11列目より南に土坑、ピットを検出。11列目より南側と北側では土質がやや違う。畠の耕作で2カ所ほど段差ができる。このあたりから南はI層とII層が比較的深く堆積している。

調査区西側を南北に横切る町道の西側は水道管工事による搅乱を受けていたり、切り株が多く残っていたりする表土が約80cmあるが、町道の東側とは全く土質が違う。



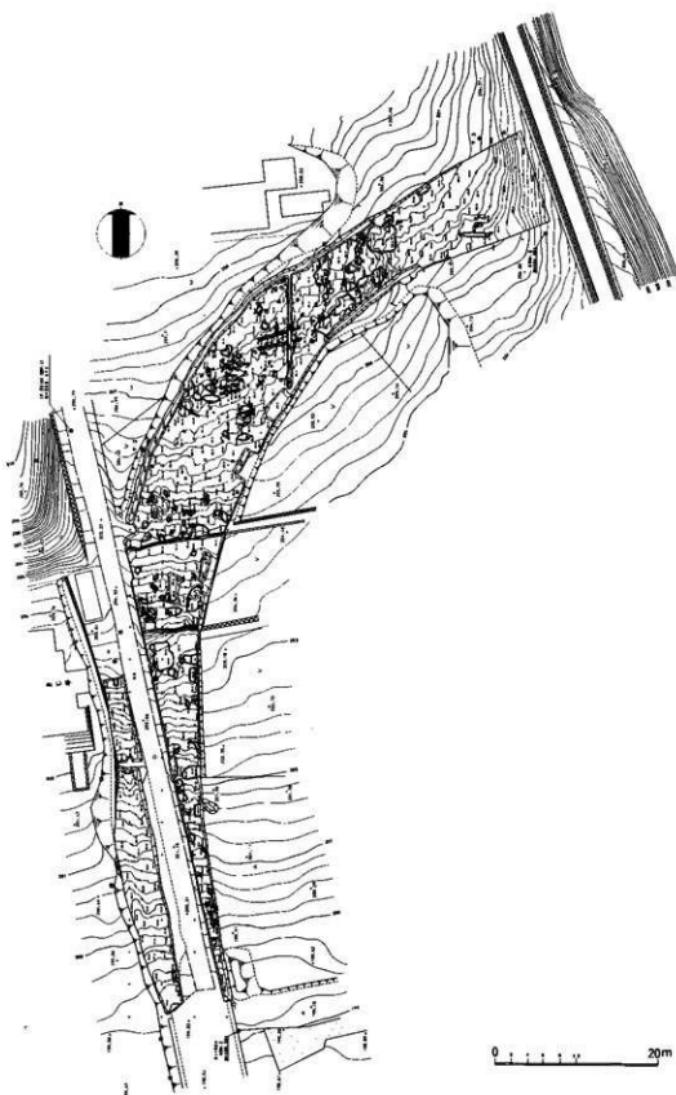
第2節 遺構と遺物の分布

小関御祭田遺跡の範囲については発掘調査が始まってから現場にみえた大岡明臣氏、垂井町教育委員会鈴木隆雄氏の話では次のようなことである。今回の発掘調査区内では、住居跡検出付近で石斧、石鎌、石錘が表面採集された。調査区からは南にはずれているが、宗教団体の墓のフェンスより北の畠の辺りとこの畠の東で土器が表面採集された。宗教団体の墓を作ったときも土器が出て、タリイピアセンターにこの時の出土遺物が保管されている。5号園イチゴ畠の休憩小屋近く・梨の木川付近より石錘がよく拾えた。本遺跡の南西部玉にはサヌカイトの原石が拾える遺跡があり、サヌカイトを雜に扱ったものが拾えると言うことであった。

調査区は南へ行くほど傾斜していくのであるが、発掘調査で検出した住居跡は平坦地にあった。住居跡が検出された平坦地は、北側と西側に続くよう見え、周囲に集落が続くのではないかと思われる。梨の木川よりも東側は現在森林になっているとともに、川の上流周辺は山の斜面が急なので遺跡がある可能性は薄い。

確認された遺構は竪穴住居跡1軒、焼窯集積遺構2基、土坑・ピット86基、風倒木底2基である。遺物の出土状況としては住居跡を中心にJ7・K7グリッドに土器片が集中し南側の21列～23列辺りで土器が少數出土した。梨の木川付近で石錘がよく拾えたそうだが、調査区内でも石錘が出土している。石錘が拾えた辺りが集落中心で今回発掘調査を行った範囲は小関御祭田遺跡全体から見ると周辺部にあたるのではないかだろうか。発掘調査区は小関御祭田遺跡の全面を発掘したわけではないので遺跡の広がりを推定するには限りがある。宗教団体の墓の工事の際によく出たということなので集落の中心はその辺りにあることは予想できる。斜面では土器はほとんど出土していない。集落の形成されそうな平坦面は北と南の2ヶ所になるのではないかと思われる。地形が扇状地なので、湧水地点で集落ができるのではないかという話もある。調査区から南の方を見ると、梨の木川の西側辺りは周辺より1段下がって谷状になっておりその谷よりさらに西に平坦面がある。この平坦面も集落があった可能性がないとはいえない。

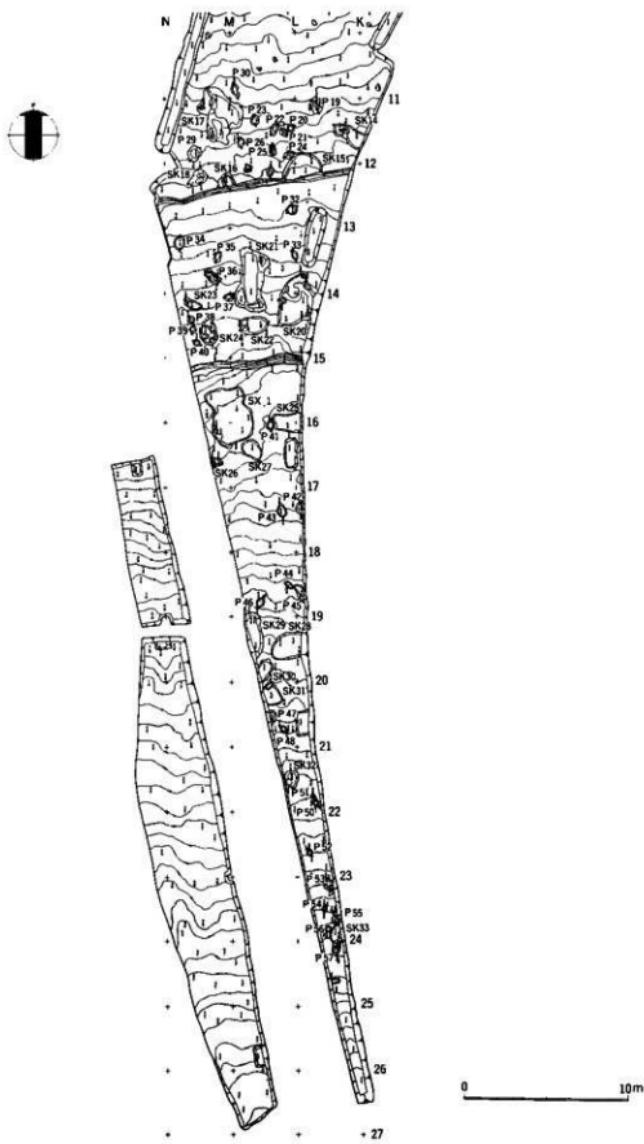
遺物分布表の赤ドットは土器、黒ドットは石器である。



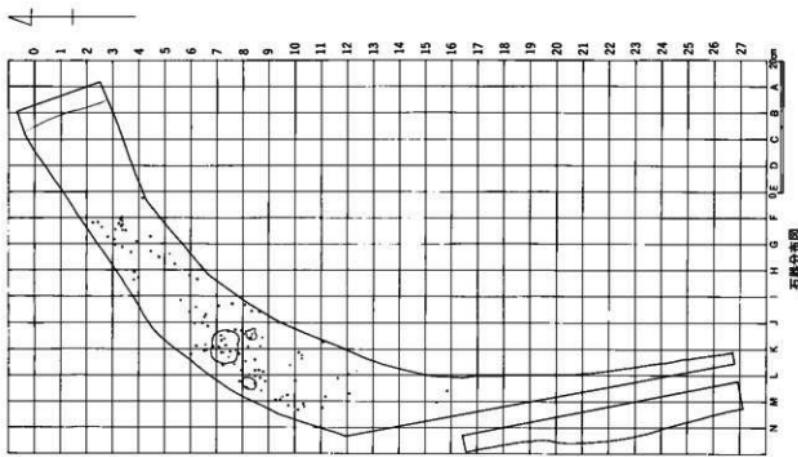
第6図 遺構全体図



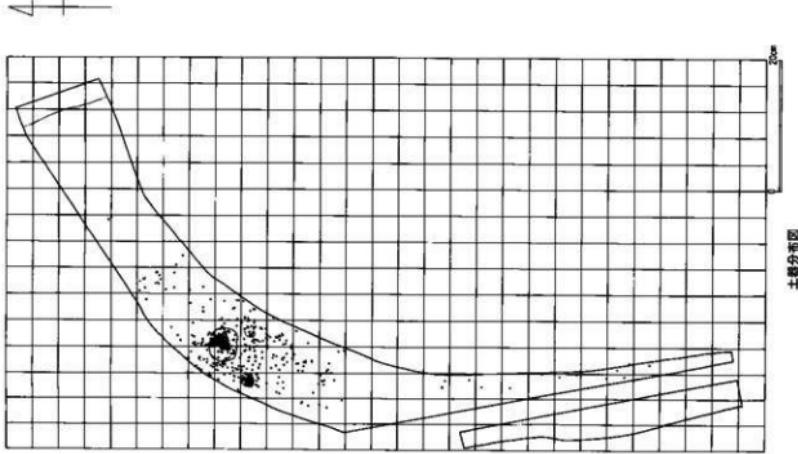
第7图 调查区北端概图



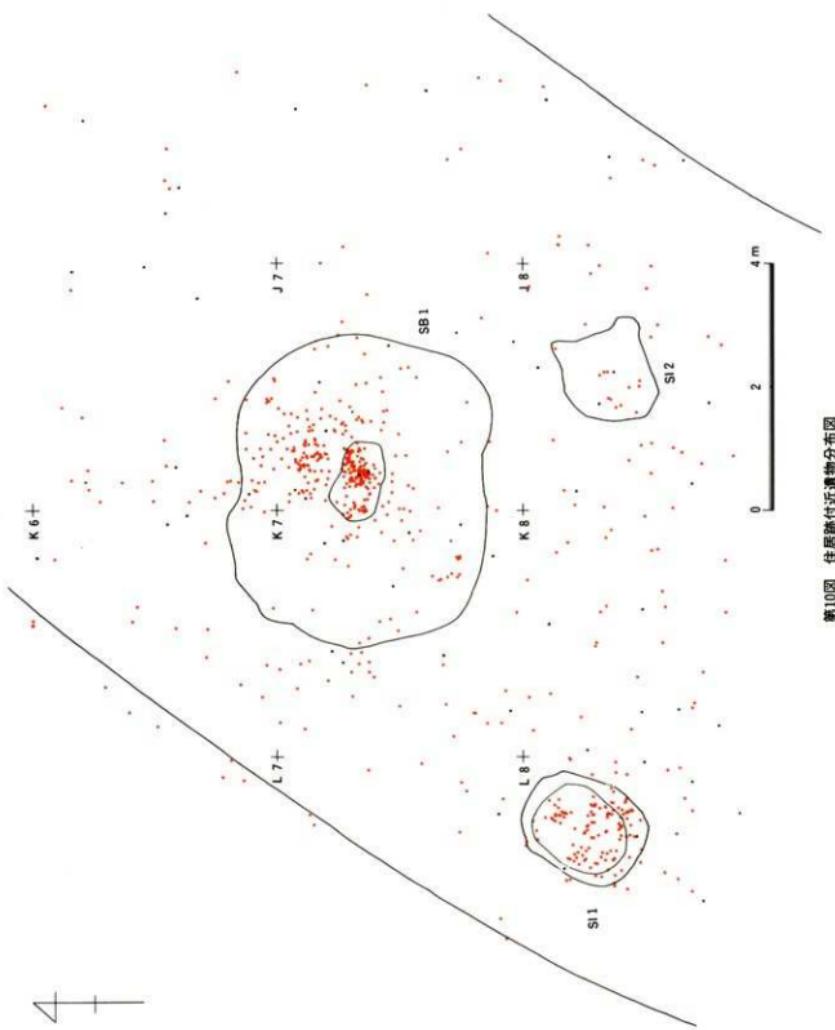
第8回 調査区南邊構図



第9図 遺物分布図



土器分布図



第10図 住居跡付近遺物分布図

第3節 遺構

住居跡（第10～14図、図版2・3・5）

1層掘り下げ中より住居跡周辺（J 5・6・7、K 6・7グリッド）からは多量の土器破片と石錘2点が出土している。K 6・7、J 7・8のI層を15cmほど剥いだ下のII層で多数出土している。K列から西に平坦地があり、そこに遺構がある可能性が高い。K 6で炉跡周辺に多数の土器が出土するよりも少し上の層から黒色土があった。黒色土はI層を10cm程下げた時点で検出した。J 7、K 7に土器が集中し何かありそうな雰囲気があった。

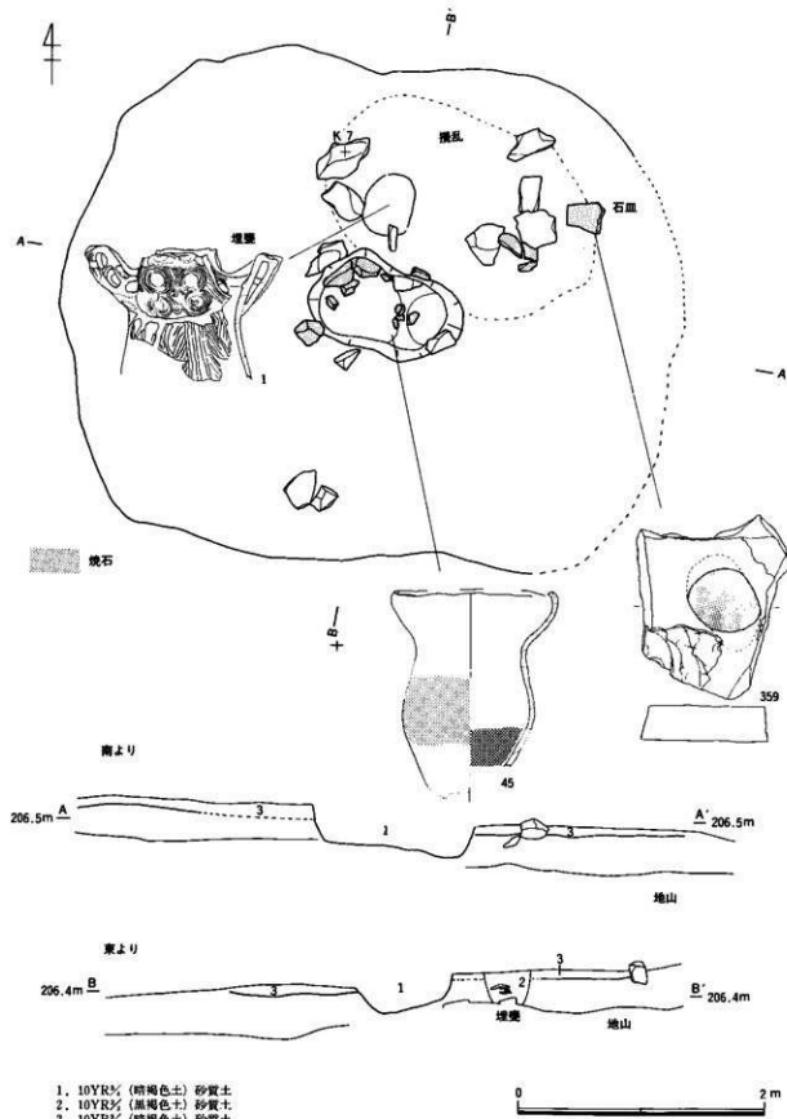
土器が集中して出土する中でJ 7グリッドに炉跡のものではないかという石を検出した。炉跡は地表面からかなり浅く約30cmのところで検出されているため、住居の掘り込みの方はわからなかった。土器捨て穴かとも思ったが、中には煤や焼けた石も混じっており、炉の側石は組んであるように見える。炉石のほとんどは動いていると思われる。炉の底は焼けて堅くなっている。炉跡は主になるものに副炉が付属したもので、主になる方は70×80cmでその東側に50×60cmの小さな副炉がつく。副炉の付属する炉跡は岐阜県では可児市宮之脇遺跡¹¹⁾で検出されている。炉内出土土器は、小破片がほとんどであるが、底からキャリバー形の無文の土器がつぶれた状態で出土した。炉の底を検出した時点では胴部途中から上方だけが出土しており、下部は底より下を掘ったときに出土した。胴部の過半部には内面に煤が付着しており底部は検出できなかった。

炉跡内からは約123点の繩文土器片、住居跡の床面より上からは約700点の繩文土器片と39点の石器が出土した。床面直上からは石錘1点、石錘1点、円石1点、石皿1点を確認している。

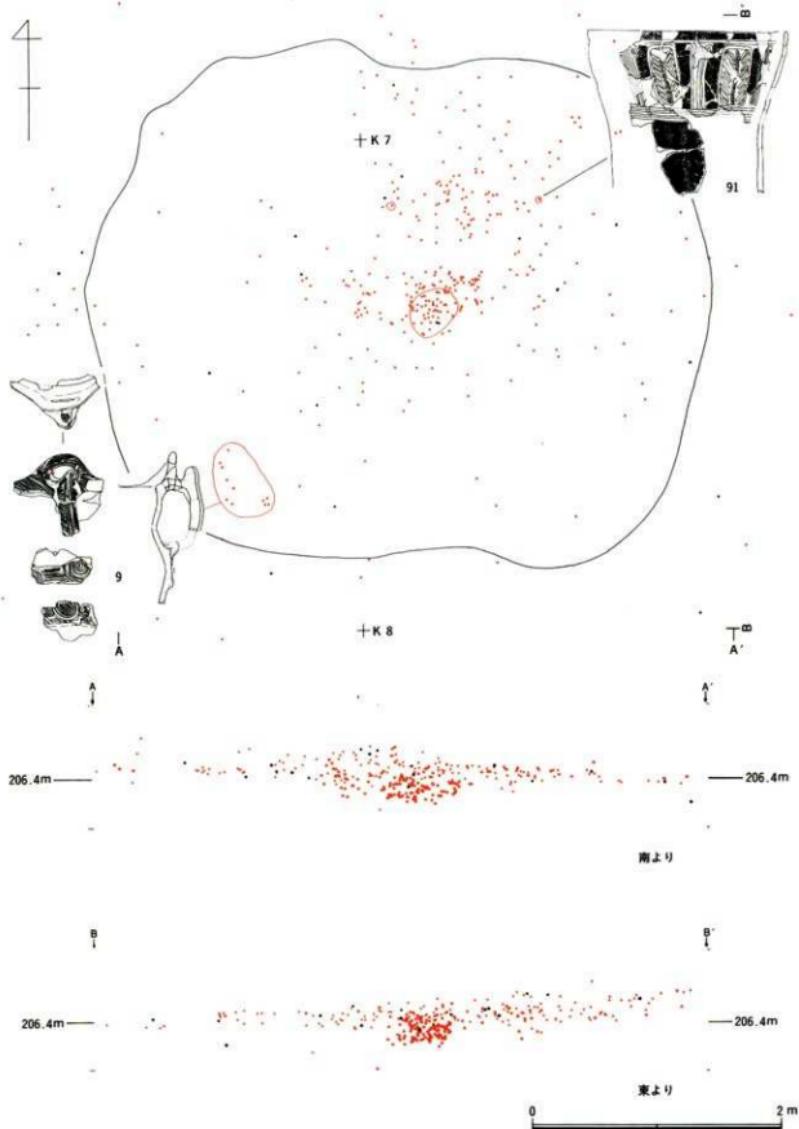
炉跡を中心にして炉の長軸方向と短軸方向へ延長してサブトレーナーを入れ床面が残っていないか観察したところ、床面は約5m×5mの範囲で周辺の土に比べ色が赤く堅いことから確認できたが東側へ行くほどはっきりしなくなった。柱穴は確認できなかった。床面検出中にもかなりの土器が検出された。

炉跡から北に30cmほど離れて逆位でやや傾いて土器が出土した。この土器を検出したピットは炉跡を検出した高さでプランを確認したが、土器の底部は欠けており、胴部の途中から割れた状態で出土している。土器の出土状況より、倒立埋甕の様なものかと思われるが、地鎮の様な意味を持ったものかもしれない。土器は旧徳山村、戸入村平遺跡の第2号住居跡出土土器に類似している。埋甕は竪穴住居跡の出入り口だけにあるとは限らず、奥壁部にある場合もあり、炉辺部に場所が選ばれることもある。奥壁部や炉辺部の埋甕は、出入り口の埋甕にくらべると、出現する時期が多少早いようであって、その上多くは逆さまに埋められる¹²⁾。

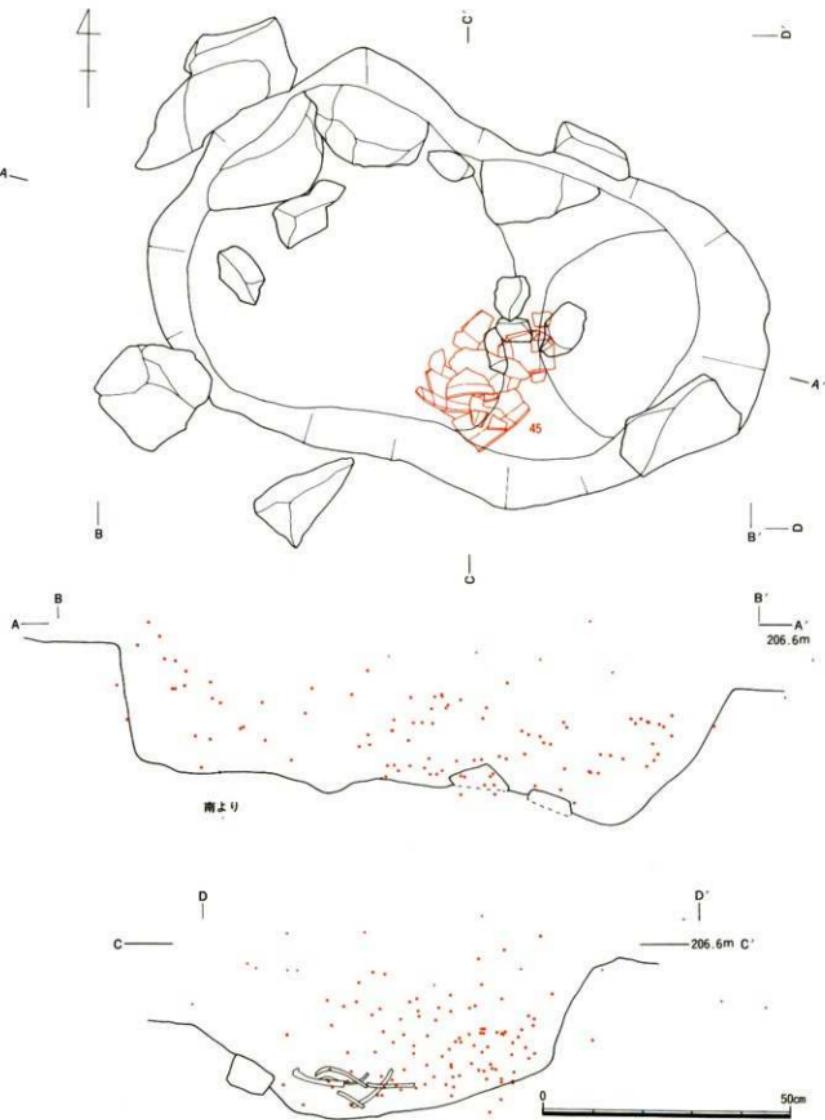
住居跡内には後世の擾乱と思われる土坑も検出した。この土坑は炉跡を検出した時点で確認し、土坑内の土は空気を含みさらさらした土が入り、土器はつぶれた状態のものや小破片のものが多数入っていた。土坑は住居跡の床面を切っており、土坑内の土器は住居跡出土の土器と時期が同じである。また土坑内には拳大より大きい石も混じっていた。土坑の深さは部分的には地山にまで到達していた。



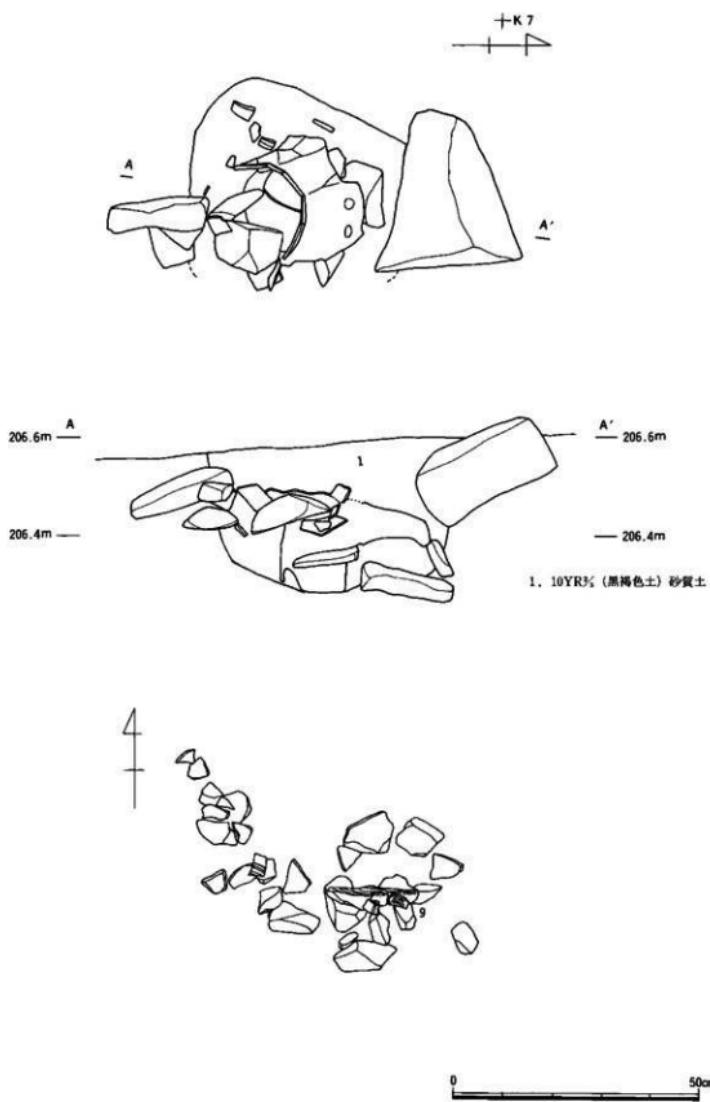
第11図 住居跡



第12図 住居跡遺物分布図



第13図 住居跡・炉



第14図 住居跡、埋甕・床面出土土器

集積遺構1 (第15図、図版4、第4表)

大きさ2m×1.5m、深さ30cmの穴に焼けて赤くなった石がつまっていた。食物を蒸し焼きにした調理施設と考える。土器片が多数出土しているが大半が比熱のためか変色しもろくなっている。土器底部が多数出土しているのが特徴である。石皿の割れたものが出土している。集積はおそらく3段積みになっていると思われ下段に行くほど石の大きさが小さくなっている。石の大きさは拳大以上の物から大きい物では30~40cmのものまであり、約400個ほど入っていた。比熱している石が多く含まれている。焼蹠の入った土坑の底は熱を受けているせいか堅くなっている。中からは約100点の縄文土器片が出土した。土器片は石の間にはさまた状態で出土したものが多い。

集積遺構2 (第16図、図版4、第5表)

土器底部、土器破片数点、石錐1点が出土している。石は比熱しており、1.5×1.5mの大きさで、残っていた焼蹠の入った土坑の深さは10cmである。

土坑・ピット群 (第6~8図、第2表)

11列、12列のグリッドの遺構はほとんど遺物を含まず時期・性格が不明である。深さが浅いものも深いものもある。風倒木痕の土坑2基あり。

註

- 1) 可児市教育委員会「宮之脇遺跡B地点」『川合遺跡群』1994。
- 2) 長野県教育委員会「信仰と葬制」『長野県史』1988。

住居跡内、集積遺構内の焼蹠観察表の詳細について。

蹠：円蹠・・・面が2枚以下

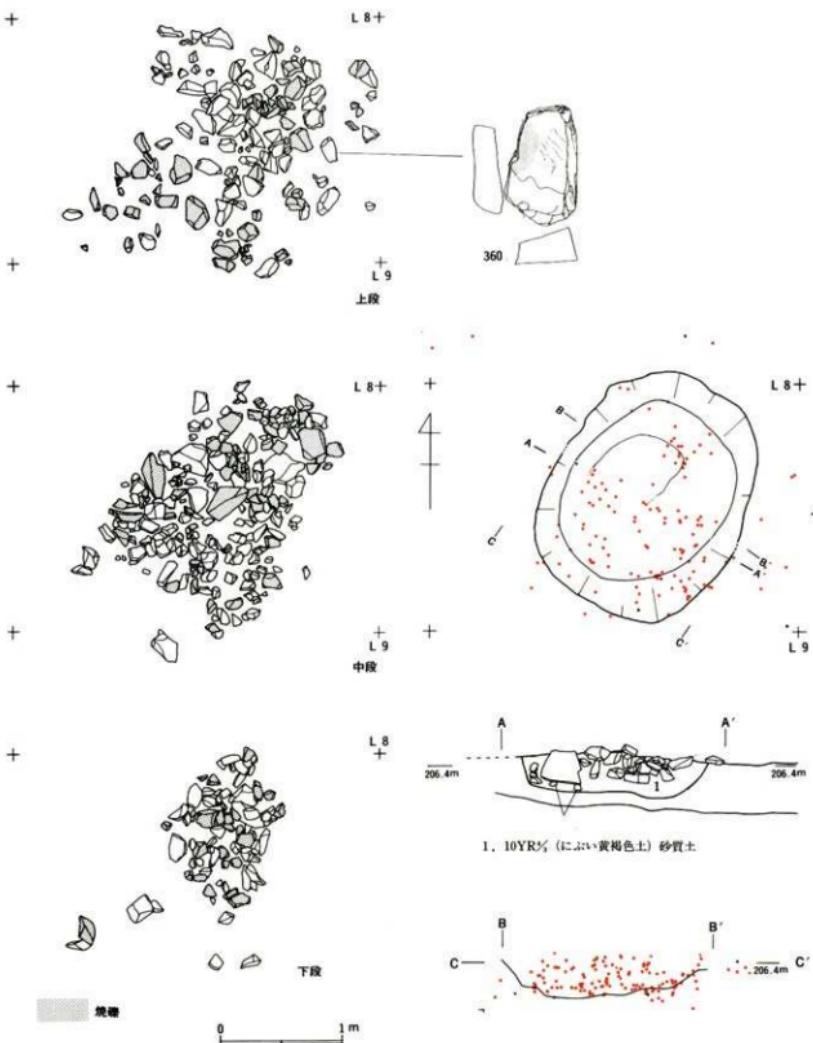
亜円蹠・・・面が3枚以上、稜がない

亜角蹠・・・面が3枚以上、稜がある

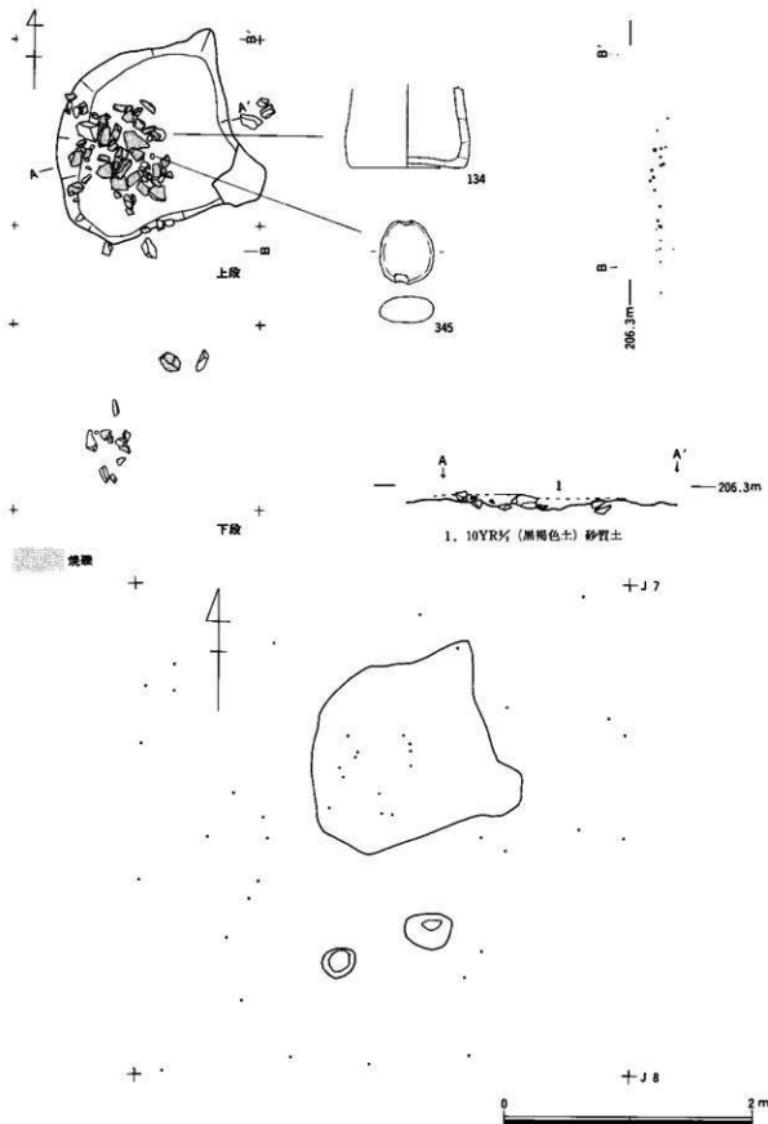
角蹠・・・面がある、稜明晰

第1表 遺構・遺物番号対照表

	住居跡	住居炉跡	住居覆土	住居内SK	SI 1	SI 2
第I群土器	2~8	32~34	50~53	69~73	103~105	130
第II群土器	9~25	35~45	54~67	74~97	106~114	131, 132
第III群土器	26				115	
第IV群土器						
第V群土器	27~31	46~49	68	98~102	116~129	133, 134
石器	344, 349 355, 359		301, 303 315, 322 336, 343 348, 351 356	305, 313 337, 350	321, 329	345, 360



第15図 集積遺構 1



第16図 集積遺構 2

第2表 土坑・ピット一覧表

番号	遺構名	地区	大きさ(cm)	深さ(cm)	遺物	備考
1	SK 1	F 4	300×210	20		
2	SK 2	G 3	160×70	15	石錐1点(黒曜石)	
3	SK 3	G 4	130×110	20		
4	SK 6	K 7	120×110	15		
5	SK 7	K 7	200×100	15		
6	SK 9	J 5	90×60	10		
7	SK10	I 5	90×80	10		
8	SK13	J 9	150×90	20		
9	SK14	K11	200×100	30		
10	SK15	K12	220×(140)	15		
11	SK16	M12	(80)×70	15		
12	SK17	L12	320×200	40	石錐1点、土器破片	風倒木痕
13	SK18	M12	120×90	35		
14	SK20	L14	270×210	30		
15	SK21	L13	350×180	50		風倒木痕
16	SK22	L14	170×110	35		柱穴?
17	SK23	M14	110×40	25		
18	SK24	M14	150×110	20		
19	SK25	L16	180×110	15		
20	SK26	M16	80×40	15		
21	SK27	L16	130×130	10		
22	SK28	L19	210×160	10		
23	SK29	L19	260×100	30		擾乱
24	SK30	L20	140×100	15		
25	SK31	L21	140×110	10		
26	SK32	L21	110×80	30		
27	SK23	K23	90×70	10		
28	SK 1	F 2	350×320	20	石匙摘み部、石錐1点、土器破片	
29	SX 1	M15	340×250	30		
30	SX 2	G 5	500×160	10	土器片2点、石器数点	
31	SD 1	I 5	370×20	20		
32	SD 2	I 6	400×20	20		
33	SD 3	J 7	220×30	10	土器片	
34	SD 4	J 7	250×30	10	土器片	
35	P 1	G 3	60×70	20		
36	P 2	G 4	70×60	10		
37	P 3	H 4	70×70	10		
38	P 4	H 5	70×40	16		
39	P 5	H 5	30×30	10		
40	P 6	I 6	30×30	10		
41	P 7	J 7	50×30	10		
42	P 8	J 6	50×50	10		
43	P 9	J 6	60×50	20		
44	P10	K 6	160×110	10		
45	P11	K 6	100×60	10		

番号	遺構名	地区	大きさ(cm)	深さ(cm)	遺物	備考
46	P12	K 7	100×40	20		
47	P13	K 7	70×60	20		
48	P14	K 7	110×80	10		
49	P15	I 5	50×50	10	黒曜石のチップ2点	
50	P16	J 8	35×30	10		
51	P17	J 8	30×25	10	石錐1点	
52	P18	K 9	90×70	15		
53	P19	K11	70×50	20		
54	P20	L11	40×40	20		
55	P21	L11	40×40	10		
56	P22	L11	70×40	20		
57	P23	L11	60×50	25		
58	P24	L11	50×40	20		
59	P25	L11	70×40	20		
60	P26	L11	50×40	30		
61	P27	L12	20×20	10		
62	P29	M11	100×80	30		
63	P30	L10	70×40	15		
64	P32	L12	60×60	10		
65	P33	L13	50×30	10		
66	P34	M13	80×60	10		
67	P35	M13	60×40	10		
68	P36	M13	90×50	10		
69	P37	M14	50×40	10		
70	P38	M14	50×40	15		
71	P39	M14	40×30	15		
72	P40	M14	30×30	10		
73	P41	L16	55×50	10		
74	P42	L17	90×60	10		
75	P43	L17	80×60	20		
76	P44	L18	60×30	20		
77	P45	L18	30×30	10		
78	P46	L18	50×50	20		
79	P47	L20	70×60	20		
80	P48	L20	30×30	10		
81	P50	K21	40×40	10		
82	P51	K21	30×20	10		
83	P52	K22	30×30	10		
84	P53	K23	70×50	20		
85	P54	K23	30×20	10		
86	P55	K23	40×30	10		
87	P56	K23	30×30	10		
88	P57	K24	40×40	10	石錐2点	

第3表 住居跡内出土焼繰・石計測表

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	繰	欠損(残)	接合(その他)	備考
1	炉石	砂岩	有り	2.48	角	無し	無し	
2	炉石	砂岩	有り	1.62	角	無し	無し	
3	炉内	砂岩	全面有り	0.32	角	無し	無し	
4	炉石	砂岩	無し	0.9	角	欠け0.2	64と同一個体	一面磨面有り
5	炉石	砂岩	有り	10	角	無し	無し	
6	炉石	砂岩	裏面有り	11.5	亜角	無し	無し	
7	炉石	砂岩	有り	0.78	亜角	欠け0.2		
8	炉石	砂岩	有り	4.92	亜角	無し	無し	
9	炉石	チャート	有り	0.69	亜角	無し	無し	
10	炉石	砂岩	無し	1.45	亜角	無し	無し	
11	炉石	砂岩	無し	2.55	角	無し	無し	
12	炉内	砂岩	有り	0.08	角	欠け0.1		
13	炉石	砂岩	有り	2.42	角	無し	無し	
14	炉内	砂岩	有り	0.38	角	無し	無し	
15	炉内	砂岩	有り	0.51	角	無し	無し	
16	炉内	砂岩	有り	0.16	角	無し	無し	
17	炉内	砂岩	有り	0.51	亜角	無し	無し	
18	炉内	砂岩	全面有り	0.22	角	無し	無し	
19	炉石	砂岩	全面有り	0.59	角	無し	無し	
20	炉石	砂岩	有り	2.09	角	無し	無し	
21	炉石	砂岩	無し	0.35	角	無し	無し	
22	炉内	砂岩	有り	0.79	角	無し	無し	
23	炉内	砂岩	有り	2.44	角	無し	無し	
24	炉内	砂岩	有り	1.17	角	無し	無し	
25	炉内	砂岩	有り	0.08	角	欠け0.1		
26	炉内	砂岩	有り	0.16	角	無し	無し	
27	炉内	砂岩	有り	1.35	角	無し	無し	
28	炉内	チャート	有り	0.41	角	欠け0.7		
29	炉内	チャート	有り	0.17	角	無し	無し	
30	炉内	砂岩	有り	0.23	角	無し	無し	
31	炉内	砂岩	有り	0.2	角	無し	無し	
32	炉内	砂岩	無し	0.83	角	無し	無し	
33	炉内	チャート	全面有り	1.26	角	無し	無し	
34	炉内	砂岩	全面有り	0.63	角	無し	無し	
35	炉内	砂岩	有り	0.36	角	無し	無し	
36	炉内	砂岩	有り	0.58	角	無し	無し	
37	炉内	砂岩	有り	0.18	亜角	無し	無し	
38	炉内	砂岩	全面有り	1.52	亜角	無し	無し	
39	炉内	砂岩	全面有り	0.47	角	無し	無し	
40	炉内	砂岩	有り	0.77	角	無し	無し	
41	炉内	砂岩	有り	0.12	角	欠け0.2		
42	炉内	砂岩	全面有り	0.75	角	無し	無し	
43	炉内	砂岩	無し	4.7	亜角	欠け0.7		
44	炉内	チャート	全面有り	0.57	角	無し	無し	
45	炉内	砂岩	無し	0.52	角	無し	無し	

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	礫	欠損(残)	接合(その他)	備考
46	炉内	チャート	有り	0.69	角	無し	無し	一面磨面有り
47	炉内	砂岩	有り	0.15	角	無し	無し	
48	炉内	砂岩	無し	2.35	角	欠け0.6	石皿?	上下両面磨面
49	炉内	砂岩	全面有り	0.71	角	無し	無し	
50	炉内	チャート	有り	0.37	角	無し	無し	
51	炉内	砂岩	有り	2.29	角	無し	無し	
52	炉石	砂岩	無し	7.3	角	無し	無し	
53	炉石	砂岩	有り	3.09	角	欠け0.9		
54	炉石	砂岩	全面有り	5.85	亜角	無し	無し	
55	炉石	砂岩	有り	1.32	角	欠け0.8		
56	炉底	砂岩	全面有り	0.95	角	無し	無し	
57	炉底	砂岩	全面有り	0.28	角	欠け0.6		
58	炉底	砂岩	全面有り	0.47	角	無し	無し	
59	炉底	砂岩	全面有り	0.71	角	欠け0.8		
60	床直	砂岩	無し	14.5	角	欠け0.9		
61	床直	砂岩	表面焼有り	6.04	角	欠け0.8	石皿	上面磨面
62	床直	砂岩	全面有り	4.15	角	欠け0.7		
63	床直	砂岩	全面有り	0.68	角	欠け0.8		
64	床直	砂岩	全面有り	0.49	角	欠け0.8		
65	床直	砂岩	有り	13	亜角	無し	無し	
66	住居跡内SK	砂岩	全面有り	7.88	亜角	欠け0.8		
67	住居跡内SK	チャート	全面有り	2.59	角	無し		
68	炉内	砂岩	有り	3.29	角		30個	
69	炉内	砂岩	有り	4.22	角		20個	
70	炉内	砂岩	有り	3.28	角		50個	
71	炉内	砂岩	有り	1.55	角		30個	
72	炉内	砂岩	無し	4.48	角		10個	
73	炉内	砂岩	無し	3.81	角		40個	
74	炉内	砂岩	無し	3.67	角		40個	
75	炉内	砂岩	無し	1.79	角		30個	
76	炉内	チャート	有り	1.77	角		20個	
77	炉内	チャート	無し	0.85	角		12個	

注) 68~77は図面に記録していない小砾を数個あわせて計測したものである。

第4表 集積遺構1内焼讃・石計測表

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	礫	欠損(残)	接合(その他)	備考
1	上段	砂岩	有り	1.83	角	無し	無し	
2	上段	砂岩	無し	2.57	角	無し	無し	
3	上段	砂岩	無し	0.67	角	無し	無し	
4	上段	砂岩	全面有り	0.35	角	無し	無し	
5	上段	砂岩	有り	0.35	亜角	無し	無し	
6	上段	砂岩	無し	1.45	亜角	欠け0.4		一面磨面有り
7	上段	砂岩	有り	0.42	亜角	無し	無し	
8	上段	砂岩	無し	2.58	角	無し	無し	
9	上段	砂岩	全面有り	2.33	角	無し	無し	
10	上段	チャート	有り	0.41	亜角	無し	無し	
11	上段	砂岩	有り	2.09	亜角	無し	無し	
12	上段	砂岩	無し	8.8	亜円	無し	無し	
13	上段	砂岩	無し	1.24	亜角	無し	無し	
14	上段	砂岩	無し	3.17	亜角	無し	無し	
15	上段	砂岩	無し	1.76	亜角	欠け0.3		
16	上段	砂岩	無し	0.6	亜角	欠け0.5		
17	上段	砂岩	無し	2.34	角	無し	無し	
18	上段	砂岩	無し	4.28	亜角	無し	無し	
19	上段	砂岩	無し	20.5	角	欠け0.5	?	
20	上段	砂岩	有り	5.02	角	無し	無し	
21	上段	砂岩	有り	0.51	亜角	無し	無し	
22	上段	砂岩	無し	0.4	亜角	無し	無し	
23	上段	砂岩	有り	0.59	亜角	欠け0.5		
24	上段	砂岩	無し	0.24	亜角	無し	無し	
25	上段	砂岩	有り	0.86	角	無し	無し	
26	上段	砂岩	全面有り	1.85	亜角	無し	無し	
27	上段	砂岩	無し	0.4	角	無し	無し	
28	上段	砂岩	有り	0.31	角	無し	無し	
29	上段	砂岩	有り	5.48	亜角	無し	無し	
30	上段	チャート	有り	0.43	角	無し	無し	
31	上段	チャート	無し	1.42	角	無し	無し	
32	上段	砂岩	無し	1.93	角	無し	無し	
33	上段	チャート	無し	4.29	角	無し	無し	
34	上段	砂岩	無し	1.83	亜角	欠け0.6		石皿
35	上段	砂岩	有り	6.83	角	無し	無し	
36	上段	砂岩	有り	0.88	亜角	無し	無し	
37	上段	砂岩	無し	1.09	亜角	無し	無し	
38	上段	砂岩	無し	1.21	亜角	無し	無し	
39	上段	砂岩	無し	1.54	角	無し	無し	
40	上段	砂岩	無し	1.45	角	無し	無し	
41	上段	砂岩	全面有り	1.44	角	割れ0.3		
42	上段	砂岩	無し	2.74	角	欠け0.5		
43	上段	砂岩	無し	5.02	角	無し	無し	
44	上段	砂岩	無し	1.03	亜角	欠け0.3		
45	上段	砂岩	全面有り	0.66	亜角	無し	無し	

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	礫	欠損(残)	接合(その他)	備考
46	上段	砂岩	無し	2.3	亜円	欠け0.9		
47	上段	砂岩	無し	5.56	角	無し	無し	
48	上段	砂岩	有り	7.3	角	無し	無し	
49	上段	濃飛流文	有り	4.2	角	欠け0.5		
50	上段	砂岩	有り	2.2	角	割れ0.5		
51	上段	砂岩	有り	1.02	?	割れ0.2		
52	上段	砂岩	有り	3.46	亜角	割れ0.6		
53	上段	砂岩	有り	1.29	亜円	欠け0.3		
54	上段	砂岩	有り	0.43	亜角	無し	無し	
55	上段	砂岩	全面有り	0.64	亜角	無し	無し	
56	上段	砂岩	有り	0.47	亜角	割れ0.2		
57	上段	砂岩	有り	0.87	角	無し	無し	
58	上段	砂岩	全面有り	1.04	角	欠け0.8		
59	上段	砂岩	有り	0.96	亜角	欠け0.1		
60	上段	砂岩	無し	1.21	角	無し	無し	
61	上段	チャート	全面	0.4	角	無し	無し	
62	上段	砂岩	無し	0.42	角	無し	無し	
63	上段	砂岩	無し	2.52	角	無し	無し	
64	上段	砂岩	無し	0.21	角	無し	無し	
65	上段	砂岩	全面	0.94	亜円	欠け0.6		
66	上段	砂岩	無し	1.4	亜角	無し	無し	
67	上段	砂岩	無し	0.75	亜角	無し	無し	
68	上段	砂岩	有り	13	角	無し	無し	
69	上段	砂岩	無し	5.16	角	無し	無し	
70	上段	砂岩	無し	2.66	亜角	無し	無し	
71	上段	砂岩	無し	0.2	角	無し	無し	
72	上段	砂岩	無し	0.8	亜角	無し	無し	
73	上段	砂岩	無し	3.81	亜角	無し	無し	
74	上段	砂岩	有り	1.86	亜角	欠け0.8		
75	上段	砂岩	無し	1.82	角	無し	無し	
76	上段	砂岩	無し	0.88	角	無し	無し	
77	上段	砂岩	無し	1.54	角	無し	無し	
78	上段	砂岩	無し	3.12	角	無し	無し	
79	上段	砂岩	有り	1.24	角	無し	無し	
80	上段	砂岩	有り	0.39	角	欠け0.5		
81	上段	砂岩	無し	1.06	亜角	無し	無し	
82	上段	チャート	無し	0.33	角	無し	無し	
83	上段	砂岩	無し	1.51	亜角	無し	無し	
84	上段	砂岩	無し	2.43	亜角	無し	無し	
85	上段	砂岩	有り	1	角	無し	無し	
86	上段	砂岩	有り	2.62	角	無し	無し	
87	上段	砂岩	有り	3.86	亜角	無し	無し	
88	上段	砂岩	有り	0.89	角	欠け0.2		
89	上段	砂岩	全面	0.23	亜円	欠け0.4		
90	上段	砂岩	無し	2.76	亜角	無し	無し	
91	上段	砂岩	有り	1.16	亜角	無し	無し	

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	礫	欠損(残)	接合(その他)	備考
92	上段	砂岩	無し	1.24	亜角	無し	無し	
93	上段	砂岩	無し	1.52	角	無し	無し	
94	上段	砂岩	無し	1.22	亜角	無し	無し	
合計				205.09				
1	中段	砂岩	無し	1.72	亜角	無し	無し	
2	中段	砂岩	有り	11.5	亜角	欠け0.7		
3	中段	砂岩	有り	0.31	亜角	割れ0.3		
4	中段	砂岩	無し	0.36	亜角	無し	無し	
5	中段	砂岩	無し	0.63	亜角	無し	無し	
6	中段	砂岩	有り	0.71	角?	割れ		
7	中段	砂岩	無し	0.7	亜角	欠け0.6		
8	中段	チャート	無し	0.64	亜角	無し	無し	
9	中段	砂岩	少し有り	14.5	亜角	欠け0.9		
10	中段	チャート	無し	0.23	亜円	無し	無し	
11	中段	砂岩	無し	2.13	角	無し	無し	
12	中段	砂岩	有り	1.5	亜角	無し	無し	
13	中段	砂岩	無し	2.54	角	無し	無し	
14	中段	チャート	無し	0.47	角	無し	無し	
15	中段	砂岩	無し	2.01	角	無し	無し	
16	中段	濃飛流文	有り	0.17	亜角	欠け0.2	117と接合	
17	中段	濃飛流文	有り	0.69	角	欠け0.9	116と接合	
18	中段	濃飛流文	有り	0.65	角	無し	無し	
19	中段	砂岩	無し	0.29	亜角	無し	無し	
20	中段	砂岩	無し	1.55	角	欠け0.6		
21	中段	砂岩	無し	0.51	亜円	欠け0.3		
22	中段	砂岩	全面有り	0.86	角	欠け0.5		
23	中段	砂岩	割れ面も有り	0.31	亜角	割れ0.2		
24	中段	砂岩	有り	3.48	亜角	欠け0.3		
25	中段	砂岩	無し	0.83	亜角	無し	無し	
26	中段	砂岩	無し	1.33	角	無し	無し	
27	中段	チャート	無し	2.73	角	無し	無し	
28	中段	濃飛流文岩	有り	0.91	亜角	欠け0.8		
29	中段	砂岩	全面有り	1.5	亜角	欠け0.9		
30	中段	砂岩	無し	1.29	亜角	無し	無し	
31	中段	砂岩	無し	0.83	角	無し	無し	
32	中段	砂岩	有り	1.61	亜角	無し	無し	
3	中段	砂岩	全面有り	0.73	亜角	割れ0.3		
34	中段	砂岩	無し	0.69	角	無し	無し	
35	中段	濃飛流文	無し	0.99	亜円	無し	磨面有り	
36	中段	砂岩	有り	0.34	角	無し	無し	
37	中段	砂岩	割れ面も有り	0.31	亜角	無し	無し	
38	中段	チャート	無し	1.15	角	無し	無し	
39	中段	砂岩	無し	2.05	角	欠け0.6		
40	中段	砂岩	有り	0.69	角	無し	無し	
41	中段	砂岩	無し	1.15	亜角	無し	無し	
42	中段	砂岩	無し	1.21	亜角	欠け0.8		

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	疊	欠損(残)	接合(その他)	備考
43	中段	砂岩	無し	0.29	亜角	無し	無し	
44	中段	チャート	無し	2.77	角	無し	無し	
45	中段	砂岩	無し	0.21	亜角	無し	無し	
46	中段	砂岩	有り	0.93	亜角	欠け0.2		
47	中段	砂岩	無し	0.93	角	無し	無し	
48	中段	砂岩	無し	0.51	亜角	無し	無し	
49	中段	砂岩	無し	0.51	亜角	無し	無し	
50	中段	砂岩	無し	0.6	角	無し	無し	
51	中段	浸飛流文	無し	1.43	角	欠け0.7		
52	中段	砂岩	無し	1.43	角	無し	無し	
53	中段	チャート	無し	0.22	亜円	無し	無し	
54	中段	砂岩	有り	0.09	角	無し	無し	
55	中段	砂岩	無し	0.24	角	無し	無し	
56	中段	砂岩	全面有り	1.7	角	無し	無し	
57	中段	砂岩	有り	1.1	亜角	欠け0.5		
58	中段	浸飛流文	無し	0.48	亜角	無し	無し	
59	中段	砂岩	無し	0.32	亜円	無し	無し	
60	中段	浸飛流文	有り	1.03	角	無し	無し	
61	中段	砂岩	無し	0.63	角	欠け0.9		
62	中段	砂岩	有り	0.84	角	無し	無し	
63	中段	砂岩	無し	0.4	亜角	無し	無し	
64	中段	砂岩	有り	0.41	亜角	無し	無し	
65	中段	浸飛流文	無し	1.61	亜角	無し	無し	
66	中段	砂岩	無し	0.57	亜角	無し	無し	
67	中段	砂岩	全面有り	0.39	亜角	無し	無し	
68	中段	砂岩	無し	0.36	角	無し	無し	
69	中段	砂岩	有り	0.59	亜角	無し	無し	
70	中段	砂岩	無し	0.95	角	無し	無し	
71	中段	砂岩	無し	0.29	角	無し	無し	
72	中段	砂岩	無し	0.28	角	無し	無し	
73	中段	チャート	有り	1.78	角	無し	無し	
74	中段	砂岩	無し	0.61	亜角	無し	無し	
75	中段	砂岩	無し	1.25	亜角	無し	無し	
76	中段	浸飛流文	有り	2.15	亜角	無し	無し	
77	中段	砂岩	無し	0.16	角	無し	無し	
78	中段	砂岩	無し	0.85	角	無し	無し	
79	中段	砂岩	無し	0.46	角	無し	無し	
80	中段	砂岩	無し	1.18	角	無し	無し	
81	中段	砂岩	無し	0.21	角	欠け0.8		
82	中段	砂岩	無し	0.27	亜角	無し	無し	
83	中段	チャート	有り	0.41	角	無し	無し	
84	中段	砂岩	無し	4.46	角	無し	無し	
85	中段	砂岩	無し	1.08	亜角	無し	無し	
86	中段	砂岩	有り	0.17	亜円	欠け0.9		
87	中段	砂岩	無し	0.77	亜角	無し	無し	
88	中段	砂岩	無し	1.81	角	無し	無し	

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	礫	欠損(残)	接合(その他)	備考
89	中段	砂岩	有り	3.36	角	欠け0.8		
90	中段	砂岩	無し	1.65	角	無し	無し	
91	中段	砂岩	無し	0.75	角	無し	無し	
92	中段	砂岩	無し	0.39	亜角	無し	無し	
93	中段	砂岩	無し	0.93	亜角	無し	無し	
94	中段	砂岩	有り	0.45	亜円	欠け0.5		
95	中段	砂岩	無し	0.93	亜角	無し	無し	
96	中段	漂飛流文	無し	0.11	亜円	無し	無し	
97	中段	砂岩	無し	0.23	角	無し	無し	
98	中段	砂岩	有り	1.17	角	無し	無し	
99	中段	砂岩	有り	1.95	亜角	無し	無し	
100	中段	砂岩	無し	0.54	角	無し	無し	
101	中段	砂岩	有り	5.77	亜角	欠け0.8		石墨?
102	中段	砂岩	有り	0.21	亜角	欠け0.3		
103	中段	砂岩	無し	0.47	角	無し	無し	
104	中段	砂岩	無し	0.57	亜角	無し	無し	
105	中段	砂岩	無し	1.19	亜角	無し	無し	
106	中段	砂岩	有り	0.48	角	欠け0.7		
107	中段	チャート	無し	0.37	亜角	無し	無し	
108	中段	砂岩	有り	1.15	亜角	無し	無し	
109	中段	砂岩	有り	0.9	亜角	無し	無し	
110	中段	砂岩	無し	0.59	亜角	無し	無し	
111	中段	砂岩	無し	0.26	角	無し	無し	
112	中段	砂岩	無し	0.86	亜角	無し	無し	
113	中段	砂岩	無し	0.49	角	無し	無し	
114	中段	砂岩	無し	0.23	亜角	無し	無し	
115	中段	砂岩	無し	1.01	亜角	無し	無し	
116	中段	砂岩	無し	1.22	亜角	無し	無し	
117	中段	砂岩	有り	0.2	角	無し	無し	
118	中段	砂岩	全面有り	0.8	亜角	無し	無し	
119	中段	砂岩	無し	0.23	角	無し	無し	
120	中段	砂岩	無し	2.26	角	無し	無し	
121	中段	砂岩	有り	2.5	角	欠け0.5		
122	中段	砂岩	全面有り	0.44	亜角	欠け0.9		
123	中段	砂岩	有り	4	亜角	欠け0.6		石墨?
124	中段	チャート	無し	0.59	亜角	無し	無し	
125	中段	砂岩	無し	0.31	亜角	無し	無し	
126	中段	砂岩	無し	0.5	亜角	欠け0.3		
127	中段	砂岩	無し	2.15	角	無し	無し	
128	中段	砂岩	無し	0.2	角	無し	無し	
129	中段	砂岩	全面有り	0.64	亜角	無し	無し	
130	中段	砂岩	有り	0.65	亜角	無し	無し	
131	中段	砂岩	全面有り	0.8	亜円	無し	無し	
132	中段	砂岩	無し	0.28	亜角	無し	無し	
133	中段	砂岩	有り	1.25	亜角	無し	無し	
134	中段	砂岩	全面有り	0.5	角	無し	無し	

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	裸	欠損(残)	接合(その他)	備考
135	中段	砂岩	割れ面も有り	1.25	亜角	欠け0.9		
136	中段	砂岩	無し	0.23	亜角	無し	無し	
137	中段	砂岩	全面有り	0.42	角	無し	無し	
138	中段	砂岩	無し	1.98	亜角	欠け0.8		
139	中段	砂岩	無し	7.38	亜角	無し	無し	
140	中段	砂岩	無し	1	亜角	無し	無し	
141	中段	砂岩	全面有り	0.73	亜角	無し	無し	
142	中段	砂岩	無し	0.28	亜角	無し	無し	
143	中段	砂岩	有り	0.15	角	欠け0.2		
144	中段	砂岩	有り	0.24	亜角	無し	無し	
145	中段	砂岩	無し	1.45	亜角	無し	無し	
146	中段	砂岩	有り	2.01	亜円	無し	無し	
147	中段	砂岩	無し	0.34	角	無し	無し	
148	中段	砂岩	有り	1.15	角	無し	無し	
149	中段	砂岩	無し	0.14	角	無し	無し	
150	中段	砂岩	全面有り	1.62	角	欠け0.3		
151	中段	砂岩	無し	0.93	角	無し	無し	
152	中段	砂岩	有り	5.62	亜角	無し	無し	
153	中段	砂岩	無し	0.25	角	無し	無し	
154	中段	砂岩	全面有り	0.41	亜角	無し	無し	
155	中段	砂岩	無し	0.12	角	無し	無し	
156	中段	砂岩	無し	1.33	角	無し	無し	
合計				184.09				
1	下段	砂岩	無し	3.99	亜円	欠け0.3		
2	下段	砂岩	有り	1.77	角	欠け0.4		
3	下段	砂岩	無し	0.37	角	無し	無し	
4	下段	砂岩	有り	0.23	亜角	無し	無し	
5	下段	砂岩	有り	0.5	角	無し	無し	
6	下段	砂岩	全面有り	0.61	角	無し	無し	
7	下段	砂岩	無し	0.51	角	無し	無し	
8	下段	砂岩	無し	0.64	角	欠け0.8		
9	下段	砂岩	無し	0.23	角	無し	無し	
10	下段	砂岩	有り	0.78	角	無し	無し	
11	下段	砂岩	有り	0.41	角	欠け0.8		
12	下段	チャート	有り	1.03	亜角	無し	無し	
13	下段	砂岩	無し	2.23	亜角	無し	無し	
14	下段	砂岩	無し	0.17	角	無し	無し	
15	下段	浪飛流文	無し	0.2	亜角	無し	無し	
16	下段	砂岩	有り	1.33	亜角	無し	無し	
17	下段	砂岩	有り	1.95	亜角	欠け0.9	無し	
18	下段	砂岩	有り	0.73	角	無し	無し	
19	下段	砂岩	無し	1.67	角	無し	無し	
20	下段	砂岩	無し	1.22	亜角	無し	無し	
21	下段	砂岩	無し	0.9	角	無し	無し	
22	下段	チャート	無し	0.59	亜角	無し	無し	
23	下段	砂岩	無し	5.47	角	無し	無し	

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	礫	欠損(残)	接合(その他)	備考
24	下段	砂岩	有り	1.77	角	無し	無し	
25	下段	砂岩	無し	0.8	角	無し	無し	
26	下段	砂岩	無し	3.16	角	無し	無し	
27	下段	砂岩	無し	0.4	角	欠け0.7		
28	下段	砂岩	無し	1.15	亜角	無し	無し	
29	下段	砂岩	無し	0.93	角	欠け0.6		
30	下段	砂岩	有り	2.36	亜角	欠け0.5		
31	下段	砂岩	無し	0.5	亜角	無し	無し	
32	下段	砂岩	無し	1.16	角	無し	無し	
33	下段	砂岩	無し	1.28	角	無し	無し	
34	下段	漂飛流文	無し	0.79	亜角	無し	無し	
35	下段	砂岩	有り	0.35	亜角	無し	無し	
36	下段	砂岩	有り	0.4	角	無し	無し	
37	下段	砂岩	全面有り	0.25	亜円	欠け0.9		
38	下段	砂岩	無し	4.15	亜角	欠け0.6		
39	下段	砂岩	無し	0.22	角	無し	無し	
40	下段	砂岩	無し	0.29	亜角	無し	無し	
41	下段	砂岩	有り	4.3	亜角	無し	無し	
42	下段	砂岩	有り	0.76	亜角	無し	無し	
43	下段	砂岩	有り	0.91	角	無し	無し	
44	下段	チャート	有り	0.48	角	欠け0.9		
45	下段	砂岩	無し	3.83	亜角	無し	無し	
46	下段	砂岩	無し	0.48	亜角	無し	無し	
47	下段	砂岩	無し	0.14	角	無し	無し	
48	下段	砂岩	有り	0.45	亜角	無し	無し	
49	下段	砂岩	有り	0.35	亜角	無し	無し	
50	下段	砂岩	全面有り	1.53	角	無し	無し	
51	下段	砂岩	無し	4.78	亜角	無し	無し	
52	下段	漂飛流文	無し	0.53	角	無し	無し	
53	下段	砂岩	無し	0.5	亜角	無し	無し	
54	下段	砂岩	無し	0.24	角	無し	無し	
55	下段	砂岩	無し	0.28	角	無し	無し	
56	下段	砂岩	有り	1.92	亜角	無し	無し	
57	下段	砂岩	無し	0.64	亜角	無し	無し	
58	下段	砂岩	有り	0.2	亜角	無し	無し	
59	下段	砂岩	無し	0.3	角	無し	無し	
60	下段	砂岩	全面有り	0.48	角	無し	無し	
61	下段	砂岩	全面有り	0.22	亜角	無し	無し	
62	下段	チャート	無し	0.53	角	無し	無し	
63	下段	砂岩	無し	0.63	亜角	無し	無し	
64	下段	砂岩	無し	2.08	角	無し	無し	
65	下段	砂岩	無し	1.28	亜角	無し	無し	
合計				75.33				
	チャート	無し		4.45	角		40個	
	チャート	無し		4.43	角		30個	
	チャート	無し		2.13	角		25個	

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	礫	欠損(残)	接合(その他)	備考
	チャート	有り		4.9	角		30個	
	チャート	有り		0.78	角		7個	
	砂岩	有り		4.67	角		10個	
	砂岩	有り		3.75	角		30個	
	砂岩	有り		3.38	角		40個	
	砂岩	有り		1.2	角		14個	
	砂岩	無し		3.62	角		40個	
	砂岩	無し		5.37	角		10個	
	砂岩	無し		3.93	角		40個	
	砂岩	無し		4.97	角		10個	
	砂岩	無し		3.83	角		30個	
	砂岩	無し		4.31	角		40個	
	砂岩	無し		4.17	角		30個	
	砂岩	無し		5	角		40個	
	砂岩	無し		4.33	角		30個	
	砂岩	無し		3.87	角		40個	
	砂岩	無し		5.1	角		10個	
	砂岩	無し		3.91	角		40個	
	砂岩	無し		5.87	角		10個	
	砂岩	無し		4	角		40個	
	砂岩	無し		4.75	角		50個	
	砂岩	無し		3.67	角		40個	
	砂岩	無し		4.03	角		40個	
	砂岩	無し		5.55	角		10個	
	砂岩	無し		4.7	角		40個	
	砂岩	無し		5.15	角		40個	
	砂岩	無し		4.67	角		40個	
	砂岩	無し		5.36	角		40個	
	砂岩	無し		0.4	角		7個	
合計				130.25				

注) 堆積造構内焼却・石計測表中で番号のついていないものは図面に記録していない小礫を数個あわせて計測したものである。

第5表 集積造構2内焼磚・石計測表

番号	位置	材質	焼け	重さ(kg)	縫	欠損(残)	接合(その他)
1	上段	砂岩	有り	0.5	角	無し	無し
2	上段	砂岩	有り	1.5	角	無し	無し
3	上段	砂岩	有り	2.5	角	無し	無し
4	上段	砂岩	全面有り	3.5	亜角	無し	無し
5	上段	砂岩	有り	4.5	角	無し	無し
7	上段	砂岩	有り	5.5	亜角	欠け0.3	
8	上段	砂岩	有り	6.5	角	無し	無し
9	上段	砂岩	有り	7.5	角	無し	無し
10	上段	チャート	全面有り	8.5	角	無し	無し
11	上段	砂岩	有り	9.5	角	無し	無し
12	上段	砂岩	有り	10.5	角	欠け0.9	
13	上段	砂岩	全面有り	11.5	角	無し	無し
14	上段	砂岩	全面有り	12.5	角	無し	無し
15	上段	チャート	全面有り	13.5	角	無し	無し
16	上段	砂岩	全面有り	14.5	角	無し	無し
18	上段	砂岩	有り	15.5	角	無し	無し
19	上段	砂岩	無し	16.5	角	無し	無し
20	上段	砂岩	有り	17.5	角	無し	無し
21	上段	砂岩	有り	18.5	角	無し	無し
22	上段	砂岩	有り	19.5	角	無し	無し
23	上段	砂岩	有り	20.5	角	無し	無し
24	上段	砂岩	有り	21.5	角	無し	無し
25	上段	砂岩	有り	22.5	角	無し	無し
26	上段	砂岩	有り	23.5	角	無し	無し
27	上段	砂岩	有り	24.5	角	無し	無し
28	上段	砂岩	有り	25.5	角	無し	無し
29	上段	砂岩	有り	26.5	角	無し	無し
30	上段	砂岩	有り	27.5	角	欠け0.3	
31	上段	砂岩	有り	28.5	角	無し	無し
32	上段	砂岩	全面有り	29.5	角	無し	無し
33	上段	砂岩	無し	30.5	角	無し	無し
34	上段	砂岩	有り	31.5	角	無し	無し
35	上段	チャート	全面有り	32.5	角	無し	無し
36	上段	砂岩	有り	33.5	角	無し	無し
37	上段	砂岩	無し	34.5	角	無し	無し
38	上段	砂岩	無し	35.5	亜角	無し	無し
39	上段	砂岩	有り	36.5	亜角	欠け0.5	
40	上段	砂岩	有り	0.09	角	無し	無し
41	上段	砂岩	有り	0.29	亜角	無し	無し
42	上段	砂岩	有り	1.98	角	無し	無し
合計				686.86			
1	下段	砂岩	無し	0.99	角	無し	無し
2	下段	砂岩	有り	0.28	角	無し	無し
3	下段	砂岩	有り	0.13	亜円	無し	無し
4	下段	チャート	有り	0.13	角	無し	無し

番 号	位置	材 質	焼 け	重 さ (kg)	礫	欠損(残)	接合(その他)
5	下段	砂岩	無し	0.27	角	無し	無し
6	下段	砂岩	無し	0.31	角	無し	無し
7	下段	砂岩	有り	0.23	亜角	無し	無し
8	下段	砂岩	有り	0.17	亜角	無し	無し
9	下段	砂岩	無し	1.13	角	無し	無し
10	下段	砂岩	有り	3.05	角	無し	無し
11	下段	砂岩	有り	1.44	角	無し	無し
12	下段	砂岩	無し	0.28	角	無し	無し
13	下段	砂岩	無し	4.7	亜角	欠け0.5	
合計				13.11			
		砂岩	有り	3.59	角		40個
		砂岩	有り	4.88	角		15個
		砂岩	有り	3.32	角		40個
		砂岩	無し	3.6	角		30個
		砂岩	無し	4.66	角		30個
		チャート	無し	0.36	角		5個
		チャート	有り	1.97	角		23個
合計				18.79			

注) 積積造構内焼礫・石計測表中で、番号のついていないものは図面に記録していない小礫を数個あわせて計測したものである。

第4章 遺物

第1節 繩文土器

本遺跡は昭和54年の分布調査で発見され、その際に表面採集された土器は約130点である。遺跡の北端で扇状地扇頂部の北部地区は今回発掘調査した調査区がこの地区の一部にあたる。北部地区で表採された土器は南部地区に比べて遺物量は少ない。主に中央部から北部にかけて出土している。土器は中期後半～晩期にかけてのものが多く約60片である。南部地区では縄文中期～晩期、弥生前期にかけての土器が多く約70片である。

今回の発掘調査で出土した土器片は総数1,398点で、時期は主に縄文時代中期後葉～末葉のもので中期中葉、晩期後葉、弥生時代前期のものが少数ある。発掘調査で出土した土器は次のように分類した。

土器分類

第I群土器 縄文時代中期中葉～後葉の土器

1類 北屋敷式土器

2類 船元・里木式系土器

a種 船元III式土器。

b種 船本III式併行で短沈線を多く用いるものと、隆帯を多く用いる土器で在地化した土器。

c種 船元IV式・里木II式に類似する土器。 地文に縄巻き縄文、撚糸文を用いるもの。

d種 その他 船元系。

3類 張り出した口縁部が内湾する極端なキャリバー形。咲烟式土器に類似するもの。

第II群土器 縄文時代中期後葉～末葉の土器

1類 紐状の粘土を貼り付けたり、粘土を貼り付けて口縁部を肥厚させたりしてとの器面よりも明らかに肥厚するとわかるもの。隆帯を主文とし口縁部に隆帯による区画文を配するものが多く、区画内に縄文・刺突・沈線文を充填する土器。加曾利E式の影響を色濃く受け在地化した土器。

a種 波状口縁深鉢。箱状把手・橋状把手・突起などの立体感のある装飾を発達させた土器。

口縁部の文様帯が全面に立体化し、口縁部上下2段の厚い貼付隆帯をベースにした橋状把手・箱状把手・突起などの立体感のある装飾を発達させた土器。隆帯に刻みを多く用いる土器。

・蓋受けが有るもの。

・蓋受けが無いもの。

b種 波状口縁深鉢。蓋受け無し。a種のような立体的装飾でないもの。

・口縁部が内面側に折れている土器。北白川C式に類似する土器。

・外面側に隆帯を貼付するもの。

・口縁部の内面が肥厚するもの。(蓋受けにはならないもの)

c種 平口縁深鉢突起有り。

- ・蓋受け有り。
- ・a種のような立体化した突起ではないもの。
- ・蓋受け無し。
- 内湾が緩いもの。(キャリバー形の緩くなったもの)
- 口縁部内面が肥厚するもの。(蓋受けにはならないもの)

d種 平口縁深鉢突起無し。

- ・内湾が緩く(キャリバー形の緩くなったもの)口縁部が肥厚するもの。
- ・口縁部外面に隆帯を貼付するもの。バケツ形になると思われるもの。

e種 胴部破片

- ・橋状把手が付くもの。
- ・その他。

2類 半截竹管状工具や棒状工具による沈線を主文とする土器。沈線による区画内に沈線・繩

文・刺突を充填する土器。

a種 波状口縁深鉢。1類a種のように立体的装飾がないもの。

- ・蓋受け有り。
- ・蓋受け無し。

突起状山形口縁で口縁部が内面側に折れている土器。北白川C式に類似する土器。

口縁部が肥厚するもの。

b種 平口縁深鉢突起有り。

c種 平口縁深鉢突起無し。

- ・内湾が緩く(キャリバー形の緩く)なったもの。
- ・バケツ形になるもの。

d種 胴部破片

3類 その他

内湾の緩い(キャリバー形の緩くなったもの)肥厚する口縁を持ち無文のもの。

第III群土器 繩文時代後期～晚期後葉の土器

第IV群土器 弥生時代前期の土器

第V群土器 時期不明の土器

1類 繩文・撚糸文系

2類 無文土器

3類 底部および脚台

4類 時期・型式名等不明の土器

土器分類表の北屋敷式、船元III式、船元IV式、里木II式、咲烟式、加曾利E式については縩文土器大観にもとづく。

住居跡出土の縄文土器（第17~20図、図版5~9）

住居跡の遺構としては床面しか残存していなかったが、床面直上から出土した土器を住居跡出土土器として記載した。

第I群土器（第19図、図版8）

2類

a種（2~4）

2・3は隆帯を多く用いる土器で、3は表面に赤彩が施されている。4は短沈線を多く用いる土器である。4は3破片ありそれぞれ直接の接点はないが同一個体と思われる。

c種（5・6）5は船元IV式の口縁部破片である。6は里木II式の頸部破片で無文帯がある。

3類（7・8）

7は口縁部を欠いている。半截竹管状工具による沈線で渦巻き文を施している。8は口縁部の破片で、素麿状の粘土紐を張り付けた間を半截竹管状工具で押し引いている。

第II群土器（第18・19図、図版6・9）

1類

a種（9~13）

9は、3破片あり同一個体と思われ、一ヶ所に固まって出土した。口縁部の文様帯が全面に立体化し、口縁部上下2段の厚い貼付隆帯をベースにした装飾的な橋状把手、把手を発達させている。隆帯には全体的に橋状把手を施し橋状把手の先端部平面上には沈線による渦巻き文を施す。10は、破損しているが橋状把手が下に伸びるものと思われる。土器は磨耗しておりはっきりとは判断できないが隆帯には刻みを施したと思われる痕がある。11は口縁部に立体化した渦巻き文を持ち内面側に蓋受けを持つ。立体化した渦巻き文は貼付隆帯の両脇に半截竹管状工具による沈線を入れ強調している。

12・13は同一個体と思われ波状口縁になり13は橋状把手が上に伸びるものと思われる。橋状把手が付くが蓋受けがないためa種に含んでいない。器面内外面ともに粘土を貼り付け、半截竹管状工具による沈線の蘇手文を波頂部下と橋状把手に施す。

b種（14）

外面に粘土紐状の隆帯を張り付けている。

c種（15）

平口縁に装飾のない突起が付く。外面には隆帯を張り付けている。口縁部内面側が肥厚している。

d種（16）

16は口縁部を肥厚させた緩いキャリバー形の土器で隆帯を主文とする。隆帯による区画内を刻みで充填している。住居跡覆土から出土した58と同一個体と思われる。

e種（17~19）

隆帯を主文とする土器の胴部破片で、17は9の近くから出土した。17・18は粘土紐を張り付け両脇に半截竹管状工具による沈線を引き立体感を強調している。

2類

a種（20）

地文に縄文を用い半截竹管状工具による沈線を主文とする。口縁部が内面側に折れている。

c種 (21)

緩いキャリバー形の口縁部で半截竹管状工具による沈線で区画をし区内に竹管状工具による刺突を充填している。

d種 (22~25)

22は半截竹管状工具で垂下方向、斜行、波状に沈線を施している。23は沈線を矢羽根状に施している。24・25は沈線区画内に刺突を充填している。

第三群土器 (26)

後期の土器で縄帶部の破片である。上面が平たくなっており棒状工具で沈線を中央部に施している。

第五群土器 (27・28)

1類

27は肥厚する口縁部の破片で外面全面に縄文を転がしている。28は同じく肥厚する口縁部の破片で口縁部付近にのみ帯状に縄文を転がしている。

3類 (29~31)

29は底部断面形態の分類 (58頁) ではA類で30はB類になる。29は底部付近まで沈線区画が降りてきている。

31はC類で底にははっきりと2本越え2本潜り1本送りの網代痕が残っている。

埋甕 (第17図、図版5~7)

1は屋内の炉北側に埋設された土器で第二群I類a種に分類した。箱状把手を4対持ち4つの穿孔を持つこの土器の類例は、戸入村平遺跡²²・炉畠遺跡²³・船塚遺跡²⁴にある。箱状把手が4つ口縁部につき隆帯を貼付ておりかなりの重量がある (一つの把手で約480gある)。把手が完全に残っているのは1つであるがおそらく他の把手も4つの穿孔があるものと思われる。それぞれの箱状把手に施された半截竹管状工具による沈線の文様は4つともすべてパターンが違っている。基本的には4つの穿孔の周開を8の字型に引くものと、麻手状の文様である。箱状把手の表面に刻みを施している。沈線を主文としており箱状把手の付け根から胴部の方に向かって波状とややハの字状に垂下沈線を施している。内面側にはやや装飾化し退化した蓋受けが付いている。出土当時から胴部途中までしか残存しておらず底部を意図的に壊して埋めたかどうかは不明である。埋甕を埋めたピットも後世の擾乱の際に壊されている可能性がある。

住居跡炉内出土の縄文土器 (第18、20図、図版6・10)

第一群土器

1類 (32)

北屋敷式の土器で口縁部の破片である。先のとがったヘラ状の工具で押し引いた沈線が2本平行にはいる。

2類

c種 (33~34)

33は口縁部破片で交互刺突を施している。34は地文が縄文で半截竹管状工具による平行沈線を弧状に引いている。

第II群土器

1種

a種 (35・36)

2つとも口縁部に付くと思われる突起である。35には半截竹管状工具による沈線が施され蕨手文も見られる。36は一部破損しているが、稍状になっている突起で、上からヘラ状工具で押さえてある。側面に棒状工具による沈線が見られる。

e種 (37)

胴部の破片で橋状把手が2つ残存している。橋状把手上には蕨手文が縦方向に施され貼付隆帯にも半截竹管状工具による沈線が引かれている。

2種

c種 (38~40)

38はキャリバー形の口縁部付近になると思われる。棒状工具による渦巻き文を施している。39は緩いキャリバー形と思われる内面側が肥厚した口縁部破片で棒状工具による沈線と、刺突が施されている。40はバケツ形と思われる口縁部の破片で内面を肥厚させ外面上には半截竹管状工具を矢羽根状に引いた沈線がある。

d種 (41~44)

41~44は胴部破片で縦方向の沈線により区画をし区画内には斜方向の彫描きや沈線を充填している。

3種 (第18図、図版6)

45は炉跡内から出土した土器で無文であるが口縁部を肥厚させた緩いキャリバー形土器で第II群1類・2類と時期が同じになると見える。若干小波状になっており、上からみるとやや楕円形になっている。波頂部を結ぶ長さは長い方で26cm、短い方が24cmである。胴部の下半部内面に煤が付着しており外面には内面の煤付着部よりもやや上の方に一部煤が残存している。粘土輪積み痕部分で割れている。底部はなかった。炉に据えられて使われたのであろうか。ちょうど副炉と主となる炉の間にあった。副炉があることからもトチの実の灰汁抜き作業に使われたのではないだろうか。

第V群土器

3種 (46~49)

46・47は底部断面形態の分類ではB種で、48・49は脚台である。

住居跡出土繩文土器 (第21図、図版11)

住居跡床面を検出するよりも以前に、住居跡床面の範囲から出土しているとトータルステーションによる遺物分布で確認できた土器を記載した。住居跡出土の土器と時期は同じで住居跡出土の土器と接合できたものや同一個体と思われる土器が出土しているのでほとんど住居跡出土の土器と考えて良いであろう。

第I群土器

2種

a種 (50)

地文に縄文を施し縦方向に平行沈線を引いた胴部破片である。

b種 (51)

隆帯を多く用いる土器で外面と内面の口縁部には朱が付着している。口縁上部よりやや下で粘土紐を交差させている部分は粘土紐を2段に貼り付けてかなり立体的なものになっている。

c種 (52)

地文が縄文で平行沈線を弧状に引いている胴部破片である。

3類 (53)

口縁部破片で素麺状の粘土紐を貼り付け隆帯上には刺突を列状に施している。

第二群土器

1類

a種 (54)

口縁部に立体的な突起が付いている。蓋受けはない。突起は中に棒状工具で孔が開けてある。突起の縁に隆帯を張り付けている。

c種 (55・56)

55は平口縁に装飾的でない突起が付いており蓋受けを持つ。主文は隆帯で区画しているが隆帯のわきに棒状工具による沈線を施し立体感を強めている。区画内には刻みを充填している。

56は平口縁のベースに装飾のない突起が付く。棒状工具により沈線を横方向に引き沈線の中に先の丸い棒状工具により刺突を充填させている。

d種 (57~59)

57は緩いキャリバー形と思われる肥厚した口縁部の破片で隆帯を張り付けた渦巻き文である。58は16と同一個体と思われるがかなり磨耗している。59はバケツ形になる口縁部の破片で横方向に隆帯を張り付け隆帯のわきに棒状工具による沈線を施し沈線内部には棒状工具による刺突を充填させていく。

e種 (60・61)

60は橋状把手が付き橋状把手上には半截竹管状工具による蕨手文が縦方向に引かれている。39と同一個体と思われる。61は胴部破片で隆帯を張り付けて渦巻き文を表現している。隆帯による渦巻き文の内部には半截竹管状工具による沈線が浅く引かれている。

2類

a種 (62)

波状口縁で口縁部を内側に折っている。波頂部上面の孔は半截竹管状工具を数回刺して開けている。地文が縄文で半截竹管状工具による沈線が外面と両側面に施されている。外面の波状に沿って2本の沈線を引き波頂部の垂下に蕨手文と思われる文様を施している。

c種 (63~66)

63~66は口縁部が肥厚した緩いキャリバー形の土器の口縁部破片である。それぞれ半截竹管状工具による沈線で区画をしている。63は区画の外面に竹管状工具による刺突を充填させている。64は沈線区画内に一方向への波状沈線を引き沈線区画の両脇に右を向いた蕨手文を施している。65は区画内に刻みを充填している。66は沈線区画の内外面ともに先のとがったヘラ状工具による刺突を充填させて

いる。

d種 (67)

胸部破片で棒状工具による沈線区画と右向きの蕨手文を施し、沈線区画の沈線内には先の丸い棒状工具による刺突を充填している。

第V群土器

3類 (68)

底部断面形態の分類ではA類の底部である。

住居跡内SK出土繩文土器（第21～23図、図版12～13）

住居跡出土土器と時期は同じである。住居跡の一部が後世の搅乱を受け土坑の中に土器が残ったものと思われる。

第I群土器

2類

b種 (69～71)

隆帯を多く用いる土器の口縁部破片である。

c種 (72)

胸部破片で繩巻き繩文を転がしている。

3類 (73)

素面状の粘土紐を張り付けた両脇に半截竹管状工具による押し引きを施す。沈線は蕨手文上になる。キャリバー形の内湾部付近の破片と思われる。

第II群土器

1類

a種 (74～76)

74は平口縁で蓋受けのない口縁部破片と突起、箱状把手の破片であるが5点とも同一個体と考えた。すべての破片には隆帯貼付部に半截竹管状工具の凸面での刺みが施されている。箱状把手の間に突起がつくようなものと思われる。箱状把手と突起には丸い穿孔がある。類例は旧徳山村戸入村平遺跡のSB2出土の土器にある。

75は突起部の溝巻き文が立体化し蓋受けを持つものである。76は突起部の破片で突起部上面に棒状工具により沈線が円状に引かれた沈線内に棒状工具による刺突を充填している。

d種 (78～82)

78・79は口縁部が肥厚する緩いキャリバー形の口縁部破片である。78は外面側に隆帯を貼り付け全面的に肥厚させ刺突と沈線を施している。79は外面に隆帯を張り付け棒状工具による沈線で溝巻き文を施している。

80～82はバケツ形または緩いキャリバー形と思われる口縁部破片である。80は外面に隆帯を張り付けた立体的な溝巻き文と口縁部に平行した区画を施している。区画内には半截竹管状工具による刺突と沈線が充填されている。81は外面に粘土紐状の隆帯を口縁部に平行に貼り付け隆帯のわきに棒状工具による沈線を引いている。沈線内にはヘラ状工具による刺突を充填している。82は文様は81に近い

が口縁上部内外面を肥厚させている。かなり磨耗している。

e種 (83~86)

脇部破片で83~85は同一個体とも考えられる。紐状の隆帯で区画や渦巻き文を施し隆帯のわきに棒状工具による沈線が施され区画内には斜方向と交差する備描き、棒状工具による沈線が充填されている。86は隆帯で渦巻き文を施している。

2類

a種 (87~89)

87は内外面ともに肥厚し口縁部が内面側に折れている。口縁部上面には工具不明の刺突が施され外面には棒状工具による沈線区画が施されている。88・89は蓋受けがなく内外面ともに肥厚させる。外面には棒状工具による沈線を施す。89は渦巻き文と区画の文様がある。

c種 (90~93)

90は口縁部が肥厚した緩いキャリバー形の口縁部破片で外面には沈線による文様が施されている。91~93はバケツ形あるいは、緩いキャリバー形を呈する深鉢で92・93は口縁部破片である。91は口径が約32cmで主文が半截竹管状工具による沈線で口縁部下に口縁に平行な1本の沈線で区画し脇部くびれ部には平行した3本の沈線で区画されている。平行に施された沈線の区画の間にはさらに背中合わせに対応する藤手文と隅丸形の長方形が交互に引かれ区画を施している。隅丸形長方形の区画内には葉脈文のように沈線が引かれるが中央には組んだ縄を押しつけたような文様が付く。脇部くびれ部よりも上位にはRLの縄文が沈線区画の後に転がされている。くびれ部の沈線区画よりも下にはRLの縄文帯状文が施されている。92は外面に棒状工具による矢羽根状の沈線が施されている。93は刺突と棒状工具による沈線区画が施されている。

d種 (94~97)

94は脇部くびれ部から底部付近までの破片である。くびれ部には半截竹管状工具による2本の平行沈線で区画され、平行沈線より下に棒状工具による垂下する3本の平行沈線で区画され、区画の間に1本の半截竹管状工具による波状沈線が継続に施されている。この波状沈線は「く」の字状の沈線の連続になっている。区画内にはLRの縄文が沈線を引く前に転がしてある。95は棒状工具による区画内に備描きを充填している。96は棒状工具による沈線区画を施している。97は垂下の棒状工具による沈線区画の区画内にLRの縄文を転がしている。

第V群土器

1類 (98)

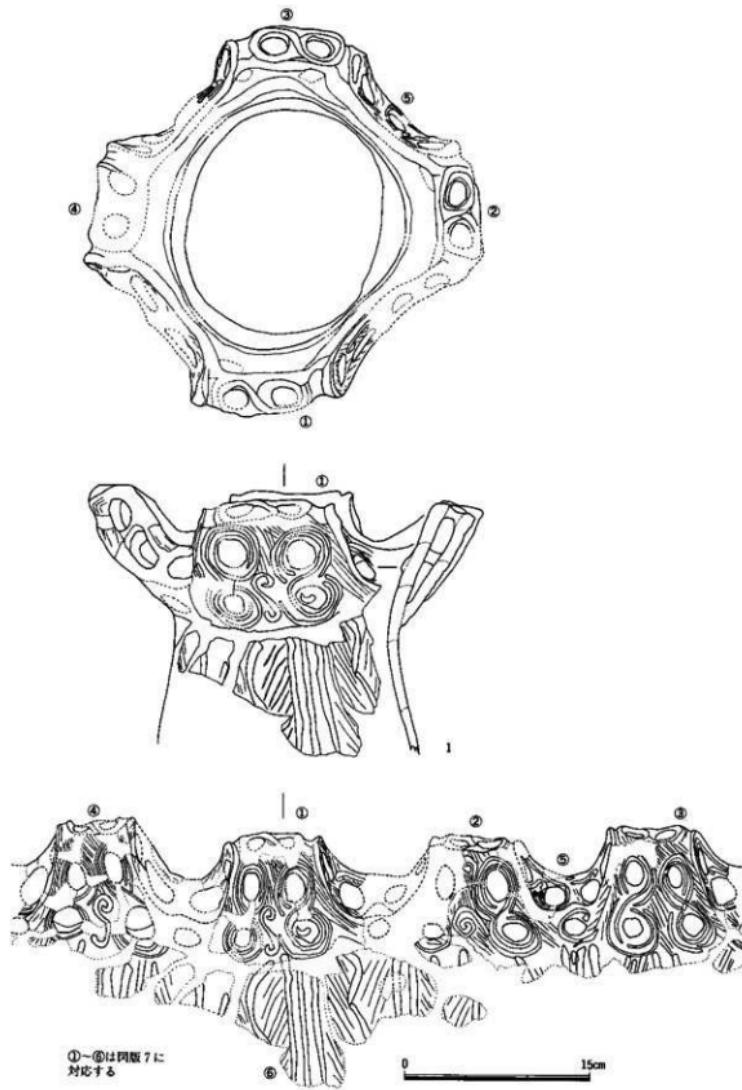
脇部破片でRLの縄文を全面に転がしている。

2類 (99)

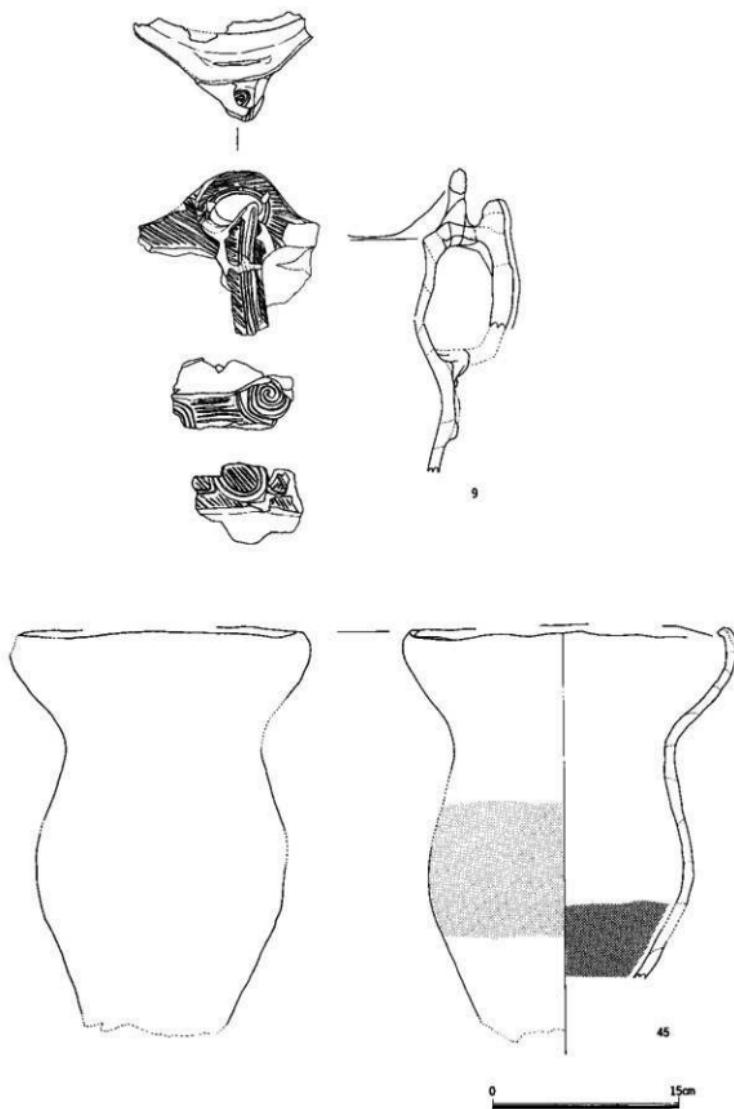
無文の口縁部破片である。口縁部は外面が肥厚している。バケツ形あるいは、緩いキャリバー形になると思われる。

3類 (100~102)

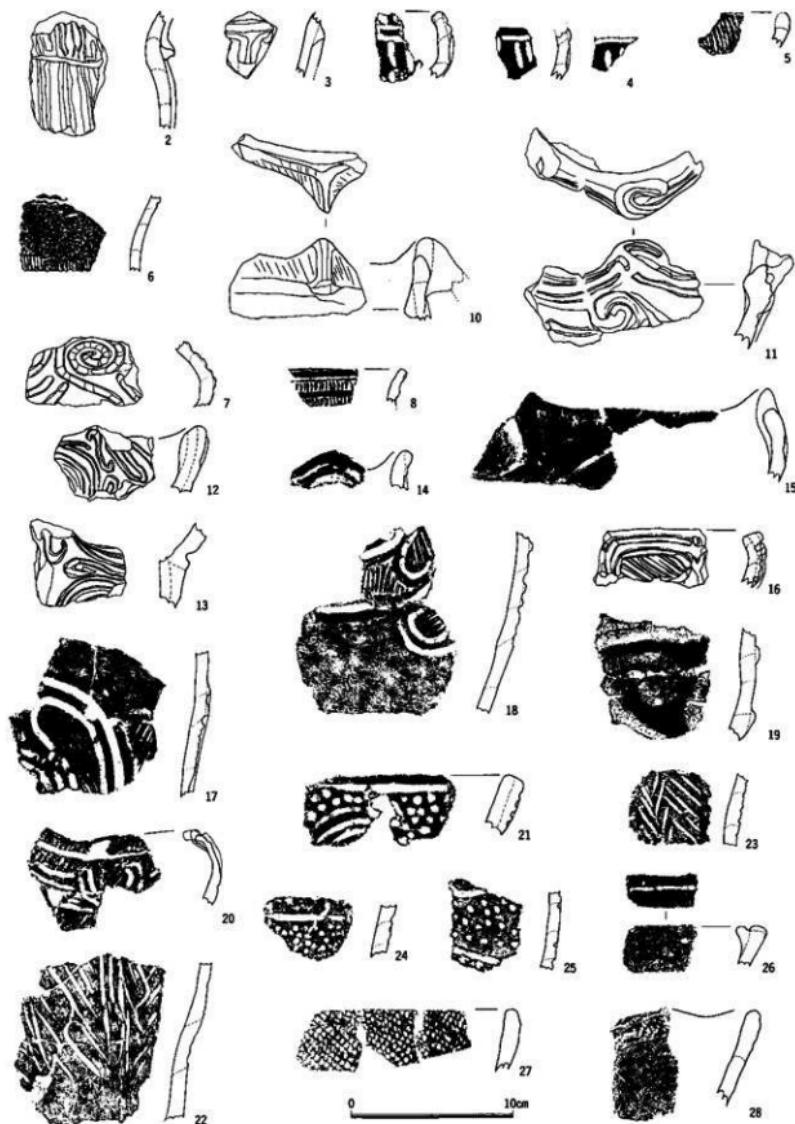
100は底部断面A類の底部で底部よりも上までLRの縄文が転がしてある。101はB類の底部で内面中央部がやや厚くなっている。102は脚台の破片である。



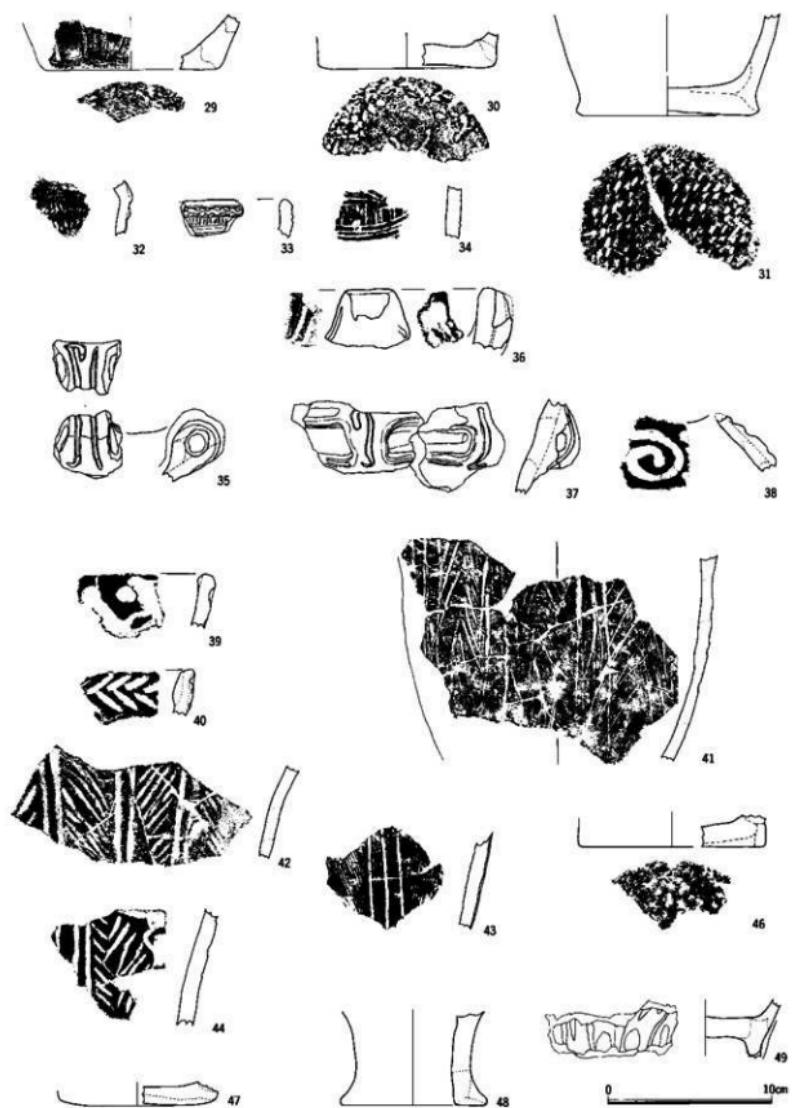
第17図 住居跡出土縄文土器 埋甌



第18図 住居跡、炉跡出土縄文土器



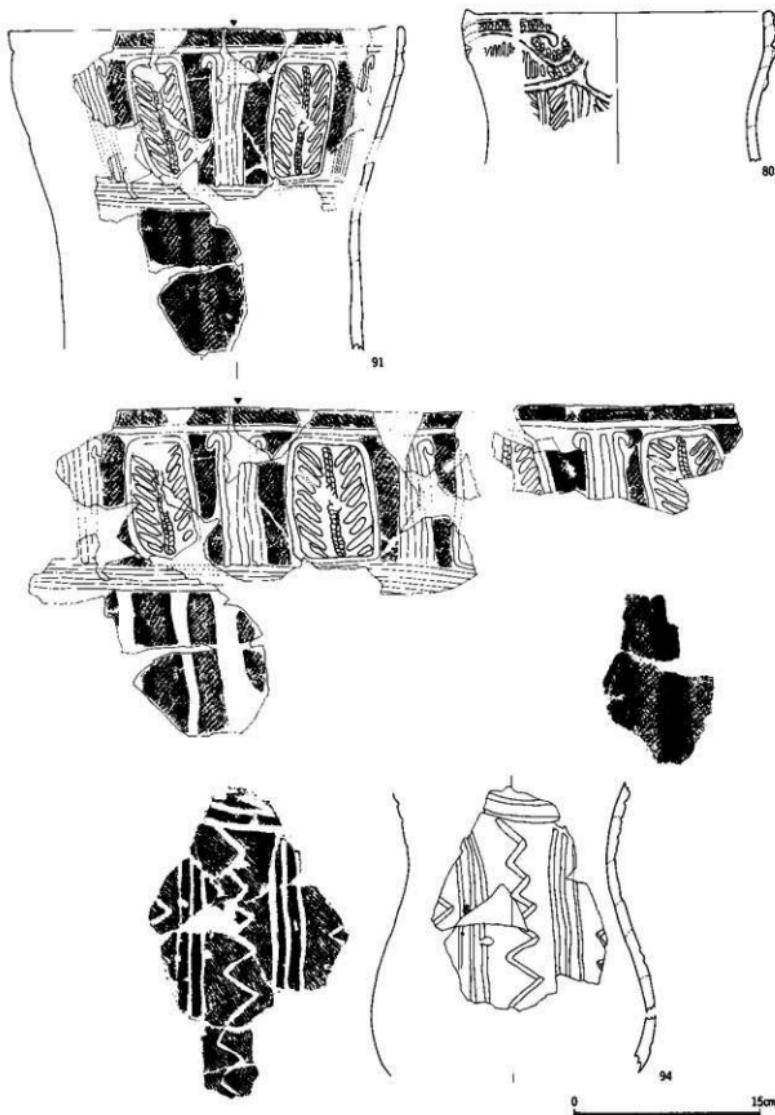
第19図 住居跡出土縄文土器



第20図 住居跡、住居跡炉内縄文土器



第21図 住居跡覆土、住居跡内 S K(1)出土縄文土器



第22図 住居跡内SK出土縄文土器(2)



第23図 住居跡内 S K 出土縄文土器(3)

集積遺構1出土縄文土器（第24図、図版14・15）

第I群土器

2類

a種（103）

船元III式の胸部破片。

c種（104）

里木II式の胸部破片で地文に撚糸文を用い半截竹管状工具の平行沈線を弧状に引く。

3類（105）

胸部破片で素面状に粘土紐を張り付けわきに棒状工具による押し引きを施す。

第II群土器

1類

a種（106）

口縁部に付くと思われる横状把手で、横状把手上中央部に棒状工具による垂下の沈線を引く。

e種（107・108）

胸部破片で外面側に隆帯を張り付けている。107は隆帯上に沈線を施し、108は隆帯区画内に刻みを施す。

2類

a種（109～111）

109・110は口縁部を内面側に折っている。109は62と同一個体と考えられる。波頂部上面には半截竹管状工具を数回刺して開けた孔があり側面・外面の文様は62とほとんど変わらない。110は口縁上面に刺突を充填させ、外面には棒状工具による渦巻き文を施している。111は口縁部を肥厚させておらず、外面には棒状工具による渦巻き文を施している。

c種（112・113）

113はバケツ形の口縁部破片で外面上部には口縁に平行に2本の沈線が区画されている。区画内には棒状工具による刺突を施している。

d種（114）

棒状工具による縱位の沈線区画を施し区画内には斜行沈線や波状沈線を施す胸部破片。

第III群土器（115）

後期の土器の縁帶部破片で口縁部上面には沈線が引かれている。

第V群土器

2類（116～118）

116は口縁が波状になり口縁上部が外面側に平たくつぶれている。117・118はキャリバー形の口縁部破片である。

3類（119～127）

119～121は底部断面形態の分類ではA種、122・123はB種、124・125はC種、126・127は脚台である。121・122にはかなり磨耗しておりはっきりとしないが、かすかに網代の痕が見える。

4類 (128・129)

口縁部の破片で外面側に隆帯を張り付けている。キャリバー形の口縁部分のようなものか。

集積遺構2、その他のSK、P出土縄文土器 (第24図、図版15)

(130～134) 集積遺構2より出土した。130は第I群1類の土器で口縁部破片である。131・132は第II群の土器で131は1類d種で口縁部破片で隆帯区画内に櫛描きを施し、132は2類c種の土器で竹管状工具による刺突を施す。133はA類の底部で134はB類の底部である。

(135・136) SKから出土した。135は第II群2類c種の口縁部破片で沈線を主文とし縄文を転がしている。136は第III群晩期末葉の土器の胴部破片で張り付け隆帯上に押し引きを施し全面に条痕文を施す。

(137) SK13から出土した第I群2類b種の土器で隆帯を多く用いている。断面は「く」の字状に折れている。

(138) SK17から出土した第I群2類c種の里木II式土器の胴部破片である。

(139) P55から出土した第V群4類の土器で底部断面形態C類の底部で上げ底になっている。

(140) SU1から出土した第V群4類の土器で底部断面形態C類の底部でやや上げ底になっている。

包含層出土の縄文土器 (第25・26図、図版16～18)

第I群土器

1類 (141～146)

貼付隆帶に沿って「く」の字状の押し引き（連続刺突文）を施す土器。押し引きは左から右へと右から左へ引くものがある。

2類

a種 (147～151)

147～149は地文に縄文を用い半截竹管状工具による平行沈線を斜方向に引いている。この3点は同一個体とも考えられる。口縁部内面にも縄文帯をもつ。150は縄文を転がし平行沈線を横位に施しており、口縁部内面には幅広の縄文帯をもつ。151は外面と口縁部上面にも縄文を転がしている。

b種 (152～155)

152～154は隆帯を多く用いる土器で、155は短沈線を多く用いる土器である。隆帯を垂下させて貼るものから2本の粘土紐を波状に貼って菱形状文をつくるものへと変わっていくのではないかと考えられる。

c種 (156～170)

156～159は口縁部破片で156はバケツ形で157～159はキャリバー形になる。159は棒状工具による交互刺突を施している。その他は胴部破片で地文に縄巻き縄文、撫糸文を転がして半截竹管状工具で平行沈線文を弧状に引く。

d種 (171～172)

船元系と思われる。171は波状口縁になり外面と内面は口縁上部に縄文を転がし外面には先のとがったヘラ状工具で弧状に押し引いている。172の2点は同一個体と考えれる。口縁部付近でキャリバー形

のように内湾する。縄文を転がした上に紐状隆帯を縦位に張り付け、隆帯の脇を半截竹管状工具で引き、次に棒状工具を隆帯に横から押し込んでから横位に沈線を引いている。

3類 (173)

キャリバー形の口縁部の破片と思われる。素麺状粘土紐を張り付けその間に半截竹管状工具による押し引き文を施す。

第II群土器

1類

a種 (174~176)

174は蓋受けを持ち立体的な渦巻き文を施す。隆带上と隆帶区画内部には斜行沈線を充填している。175は外面と口縁部上面に隆帯を張り付けて棒状工具による渦巻き文を施している。176は蓋受けは無く外面に隆帯を張り付け立体的な渦巻き文を施している。隆帶区画内には斜行沈線を充填している。

b種 (177~180)

177は口縁部が内面に折れ外面から口縁部上面につづく沈線区画と斜行沈線を施している。178は隆帶区画と渦巻き文を施し区画内には縄文を充填している。179は、キャリバー形状に内湾する口縁部破片で隆帯を楕円状に区画し区画内に竹管による刺突を充填している。180は外に開く波状口縁でくびれ部に棒状工具による横位の沈線で胴部との文様を区別するようである。口縁部には口縁部の波状の形に添った沈線を2本組で2つ引いている。

e種 (181~183)

181は粘土紐状の隆帯を張り付け隆帯の脇には棒状工具による沈線で立体感を強調している。区画内には沈線を充填している。182は隆帯を山状に張り付けたところに棒状工具による沈線を集中させている。183は隆帯で区画し区画内に沈線を充填している。

2類

a種 (184~186)

184は内面に蓋受けを持ち外面には棒状工具による浅い楕円状の区画を施し区画内にはヘラ状工具による引き気味の刺突を施す。185は棒状工具による楕円状の沈線を施す。186は外面に棒状工具による沈線を同心円状に引き口縁上部には縄文を転がしている。

c種 (187)

継いだキャリバー形の口縁部破片で地文に縄文を転がし棒状工具による沈線で区画している。

d種 (188)

胴部破片で棒状工具による沈線で区画を施し区画内には縄文を充填する。

第III群土器 (189~194)

189~193は五貫森式に類似する土器で、口縁部破片で外傾するものである。口縁端部または口縁折り返し部に押し引きが見られ、器形は甕か壺と思われる。194は櫛玉式に類似する土器で口縁部破片である。

第IV群土器 (195~197)

水神平式に類似する土器で条痕文系の胴部破片のものである。197は両面に煤が付着している。3点とも横方向に条痕文が施されている。

第V群土器（198～206）

1類（198～199）

縄文を全面に転がす胴部の破片である。

3類（200～203）

200は底部断面形態分類のA類、201はB類、202C類、203は脚台である。

4類（204～206）

204は外面の文様は粘土紐を張り付け口縁部上面には縄文を転がしている。205は磨耗しているが地文に縄文を施しているように見え外面には横位に粘土紐を張り付け隆帯に沿って沈線を引いている。206は口縁部付近の破片と思われる。

底部断面形態

底部の断面形態により器形を以下のように分類した⁶⁾。

A類：底部からまっすぐに外に開く断面形で、胴部はやや下半部で膨らみを持つ深鉢。

B類：底部から直立に立ち上がる断面形で内部の屈曲も大きい。この場合胴部にはあまり膨らむ部分を持たず、バケツ形に広がるかやや内傾する深鉢。

C類：底部より少し上まで垂直か内湾しながら立ち上がり、その上で外に開く断面形を持つ深鉢。

底部は住居跡や集積遺構から多く出土している。ほとんどの底部は底径約11cmのものが多くB類は底径が大きく、C類は小さい方にピークがある。

第6表 底部器形分類表（器形及び底部径判明固体22/48点）

底部径 器形	~7	~9	~11	~13	~15	~17	合計
A	2	1	4	1			8
B			5		2	1	8
C	4	1	1				6
合計	6	2	10	1	2	1	22

註

1) 大岡明臣『関ヶ原町遺跡調査報告』1982。

2) (財)岐阜県文化財保護センター『戸入村平遺跡』1994。

3) 各務原市教育委員会『炉畠遺跡』1973。

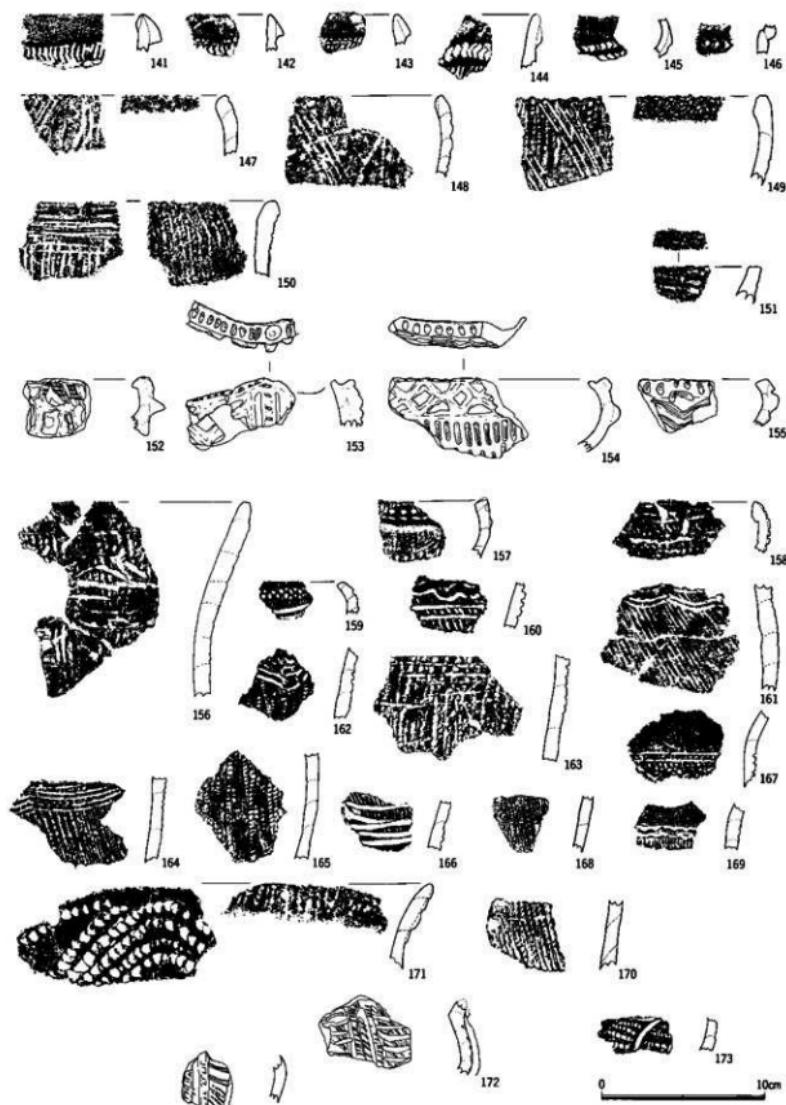
4) 豊田市教育委員会『船塚遺跡』1968。

5) 可児市教育委員会『宮之脇遺跡B地点』『川合遺跡群』1994。

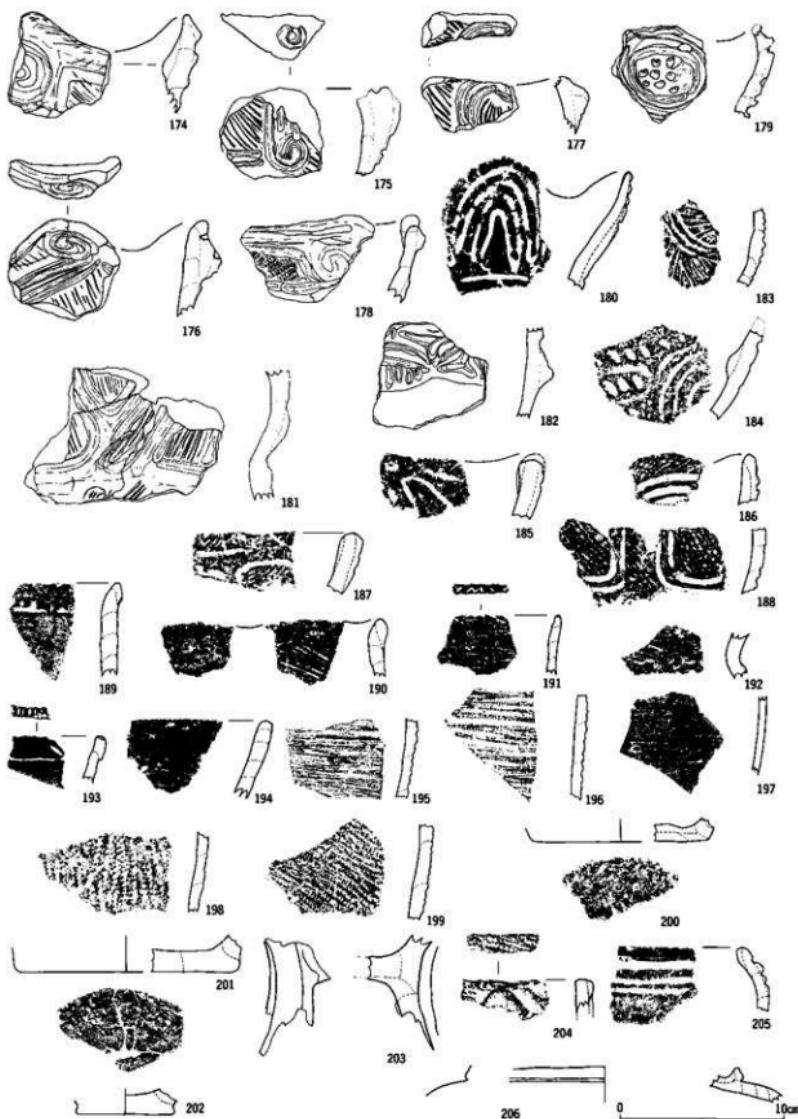
6) 底部の分類については、『荒城神社遺跡』での分類を基本とした((財)岐阜県文化財保護センター1994.)



第24図 無縫遺構1・2、SK、P出土純文土器



第254図 包含層出土縄文土器(1)



第26図 包含層出土縄文土器(2)

第7表 土器觀察表

器皿号	出土地点	時 期	分類	部 位	器面調査	文 横	文 横 内 地 文	色調(外面)	色調(内面)	備 考
1 SB1	中期後期～末期	II 1 a	口縫部～側部	無で	棒状把手、渦巻沈底、沈底	斜行沈底、渦底	にぶい黄緑	灰灰	穀粒、収容け有り	
2 SB1	中期後期	II 2 b	口縫部附近	無で	渦巻	なし	明赤褐色	浅灰		
3 SB1	中期後期	II 2 b	口縫部附近	無で、朱色着	渦巻	なし	明赤褐色	浅灰		
4 SB1	中期後期	II 2 b	口縫部	無で	赤緑	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
5 SB1	中期後期	II 2 c	口縫部	無文	なし	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
6 SB1	中期後期	II 2 c	側部	横文、無で	赤緑(コシバスク文)	なし	明褐色	赤面		
7 SB1	中期後期	II 3	口縫部附近	無で	渦巻沈底	なし	暗灰黃	にぶい黄緑		
8 SB1	中期後期	II 3	口縫部	無で	高級状點付輪帯	斜引引き	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
9 SB1	中期後期～末期	II 4 a	口縫部～側部	無で	把手、棒状把手、渦巻輪帯	斜行沈底、渦巻沈底、沈底区画	灰黄褐色	にぶい黄緑	収容け有り	
10 SB1	中期後期～末期	II 4 a	口縫部	無で	把手、棒状把手	渦底	にぶい黄緑	にぶい黄緑	収容け有り	
11 SB1	中期後期～末期	II 4 a	口縫部	無で	突起、渦底	渦巻	にぶい黄緑	煙	収容け有り	
12 SB1	中期後期～末期	II 4 a	口縫部	無で	把手	渦巻沈底、沈底	にぶい黄緑	にぶい黄緑	13より棒状把手かけ	
13 SB1	中期後期～末期	II 4 a	側部	無で	把手	渦巻沈底、沈底	にぶい黄緑	にぶい黄緑	13と同一個体	
14 SB1	中期後期～末期	II 4 b	口縫部	無で	渦帶	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
15 SB1	中期後期～末期	II 4 c	口縫部	無で	渦巻	横文	灰黄褐色	煙		
16 SB1	中期後期～末期	II 4 d	口縫部	無で	渦巻区画	沈底、斜火	にぶい黄緑	灰黄褐色		
17 SB1	中期後期～末期	II 4 e	側部	無で	渦巻区画	沈底	灰黄褐色	にぶい黄色		
18 SB1	中期後期～末期	II 4 e	側部	無で	渦巻区画	沈底	灰黄褐色	にぶい黄色		
19 SB1	中期後期～末期	II 4 f	側部	無で	渦巻区画	なし	にぶい黄緑	煙		
20 SB1	中期後期～末期	II 4 g	口縫部	無文	渦巻区画	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
21 SB1	中期後期～末期	II 4 g	口縫部	無で	渦巻区画	斜火	灰黄	灰灰		
22 SB1	中期後期～末期	II 4 h	側部	無で	渦巻区画	斜行沈底、斜行沈底	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
23 SB1	中期後期～末期	II 4 h	側部	無で	赤緑	なし	明黄褐色	にぶい黄緑		
24 SB1	中期後期～末期	II 4 i	側部	無で	赤緑	斜火	煙	煙		
25 SB1	中期後期～末期	II 4 j	側部	無で	渦巻区画	斜火	にぶい赤褐色	煙		
26 SB1	後期	II	口縫部	無で	赤緑	なし	灰黄褐色	灰黄褐色		
27 SB1	中期後期～末期	V 1	口縫部	口 L 型文	なし	なし	明赤褐色	煙		
28 SB1	中期後期～末期	V 1	口縫部	無で	横文	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
29 SB1	中期後期～末期	V 3	底部	無で	赤緑	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑	底部疵痕有り	
30 SB1	中期後期～末期	V 3	底部	無で	なし	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑	底部疵痕有り	
31 SB1	中期後期～末期	V 3	底部	無で	なし	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑	時代区分有り	
32 SB1	中期中期	II 1	口縫部附近	無で	赤緑、押し引き	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
33 SB1	中期後期	II 2 c	口縫部	横文	赤緑	化瓦斜突	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
34 SB1	中期後期	II 2 c	口縫部附近	周文	赤緑、渦巻文	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
35 SB1	中期後期～末期	II 2 c	口縫部	無文	沈底、渦巻(横手文)	なし	灰灰	煙		
36 SB1	中期後期～末期	II 2 c	口縫部	無で	突起、渦底	なし	灰灰	にぶい黄緑		
37 SB1	中期後期～末期	II 4 e	側部	無で	把手	渦巻(横手文)	煙	にぶい黄緑		
38 SB1	中期後期～末期	II 4 f	側部附近	無で	渦巻沈底	なし	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
39 SB1	中期後期～末期	II 4 g	口縫部	無で	赤緑	斜火	明赤褐色	明赤褐色	外側縫付帯	
40 SB1	中期後期～末期	II 4 g	口縫部	無で	赤灰沈底	なし	にぶい黄緑	煙		
41 SB1	中期後期～末期	II 4 g	側部	無で	沈底区画	斜行沈底	淡青褐色	にぶい黄緑	外側縫付帯	
42 SB1	中期後期～末期	II 4 h	側部	無で	沈底区画	斜行沈底	淡青褐色	灰白		
43 SB1	中期後期～末期	II 4 h	側部	無で	沈底区画	斜行沈底	にぶい黄緑	にぶい黄緑		
44 SB1	中期後期～末期	II 4 i	側部	無で	沈底区画	斜行沈底	にぶい黄緑	煙		
45 SB1	中期後期～末期	II 5	口縫部～側部附近	無で	なし	なし	赤褐色	明赤褐色	明赤褐色	内側縫付帯
46 SB1	中期後期～末期	V 3	底部	無で	なし	なし	煙	にぶい黄緑	底面疵痕有り	
47 SB1	中期後期～末期	V 3	底部	無で	なし	なし	にぶい黄緑	灰灰		
48 SB1	中期後期～末期	V 3	脚台	無で	なし	なし	煙	にぶい黄緑		
49 SB1	中期後期～末期	V 3	脚台	無で	把手	赤緑	にぶい黄緑	灰灰	4脚?	
50 SB1	中期後期	II 5 a	側部	横文	斜行沈底	なし	にぶい黄緑	淡青褐色		
51 SB1	中期後期	II 5 b	側部	無で	把手	なし	赤灰	灰灰	外側縫付帯	
52 SB1	中期後期	II 5 c	側部	横文	平行沈底	なし	明褐色	明褐色		
53 SB1	中期後期	II 5	口縫部	無で	赤緑	斜火	灰灰	灰灰		

埋器号	出土地点	時 期	分類	部 位	表面調査	文 標	文 標 内 地 文	色調(外面)	色調(内面)	備 考
54 SB1夏土	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	尖端、鋸歯	なし	に55°暖	に55°暖		
55 SB1夏土	中期後葉～末葉	日15	口縁部	物で	尖端、鋸歯	なし	浅黄	浅黄	直受け有り	
56 SB1夏土	中期後葉～末葉	日15	口縁部	物で	尖端、鋸歯	なし	に55°暖	に55°暖		
57 SB1夏土	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	絞り跡等	なし	暖	に55°暖		
58 SB1夏土	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	輪帯区画	丸文、削文	に55°暖	に55°暖		
59 SB1夏土	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	輪帯	丸文、削文	黄褐色	明黄褐色		
60 SB1夏土	中期後葉～末葉	日15	側面	物で	輪状把手、鋸歯	丸縫(削字文)	暖	浅黄		
61 SB1夏土	中期後葉～末葉	日15	側面	物で	鋸歯	丸縫	に55°暖	に55°暖		
62 SB1夏土	中期後葉～末葉	日24	口縁部	丸文	尖端、波瀬	なし	灰黄褐	に55°暖		
63 SB1夏土	中期後葉～末葉	日24	口縁部	物で	波瀬区画	削文	に55°暖	に55°暖		
64 SB1夏土	中期後葉～末葉	日24	口縁部	物で	波瀬区画、圓字文	丸縫	暖	に55°暖		
65 SB1夏土	中期後葉～末葉	日24	口縁部	物で	波瀬区画	斜行沈縫	に55°暖	に55°赤褐	外側吸付有	
66 SB1夏土	中期後葉～末葉	日24	口縁部	物で	波瀬区画	削文	に55°暖	暖		
67 SB1夏土	中期後葉～末葉	日24	側面	物で	波瀬区画、削字文	削文	暖	に55°暖		
68 SB1夏土	中期後葉～末葉	V3	底部	物で	なし	なし	暖	に55°暖	底面部有り	
69 SB1PSK	中期後葉	J2	口縁部付近	物で	鋸歯	削文	灰灰	灰灰		
70 SB1PSK	中期後葉	J2b	口縁部	物で	鋸歯	削文	に55°暖	灰灰		
71 SB1PSK	中期後葉	J2b	口縁部	物で	鋸歯	削文	灰み	に55°暖	に55°暖	
72 SB1PSK	中期後葉	J2c	側面	物で	鋸歯と丸穴	なし	暖	暖		
73 SB1PSK	中期後葉	J3	口縁部付近	物で	鋸歯	押し引き	明黄褐	灰灰		
74 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	口縁部～肩部	物で	輪状把手、尖端、鋸歯	削文	浅黄褐	暖		
75 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	尖端、鋸歯、施色残存	丸縫	に55°暖	に55°暖		
76 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	尖端、光端	削文	に55°暖	暖		
77 SB1PSK	中期後葉～末葉	日15b	口縁部	物で	鋸歯	丸縫	に55°暖	暖		
78 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	鋸歯	丸縫、削文	灰黄褐	に55°暖		
79 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	溝巻比較	なし	に55°暖	に55°暖		
80 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	口縁部～肩部	物で	鋸歯区画	削文、丸縫	灰褐	浅黄褐		
81 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	鋸歯	丸縫	暖	暖		
82 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	口縁部	物で	鋸歯区画	削文	に55°暖	に55°暖		
83 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	側面	物で	鋸歯区画	削文、削み	灰黄褐	に55°暖		
84 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	側面	物で	鋸歯	斜行沈縫	灰黄褐	に55°暖		
85 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	側面	物で	鋸歯区画	削文、削み	灰褐	に55°暖		
86 SB1PSK	中期後葉～末葉	日14	側面	物で	鋸歯	なし	に55°暖	暖		
87 SB1PSK	中期後葉～末葉	日24	口縁部	物で	波瀬区画、削文	丸縫	灰黄褐	に55°暖	外側吸付有	
88 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	口縁部	物で	尖端、丸巻区画	なし	黑褐	に55°赤褐		
89 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	口縁部	物で	尖端、丸巻区画	なし	明赤褐	明赤褐		
90 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	口縁部	物で	波瀬区画	なし	黑褐	に55°赤褐	外側吸付有り	
91 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	口縁部～底部分付近	L.R.圓文	波瀬区画、削字文	丸縫、施色押しつけ痕	に55°暖	に55°暖		
92 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	口縁部	物で	波瀬区画	なし	暖	灰褐		
93 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	口縁部	物で	波瀬区画	削文	明赤褐	暖		
94 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	側面～底部分付近	L.R.圓文	波瀬区画	「L」の字沈縫	に55°赤褐	明赤褐		
95 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	側面	物で	波瀬区画	「~」の字状沈縫	削文	暖		
96 SB1PSK	中期後葉～末葉	日25	側面	物で	波瀬区画	丸縫	に55°暖	に55°暖	外側吸付有	
97 SB1PSK	中期後葉～末葉	日24	側面	物で	波瀬区画	L.R.圓文	灰黄褐	に55°暖	外側吸付有	
98 SB1PSK	中期後葉～末葉	V1	側面	L.R.圓文	なし	暖	明褐	明褐		
99 SB1PSK	中期後葉～末葉	V2	口縁部	物で	なし	なし	暗青灰	に55°暖		
100 SB1PSK	中期後葉～末葉	V3	底部	物で	波瀬区画	L.R.圓文	に55°暖	灰黄褐		
101 SB1PSK	中期後葉～末葉	V3	底部	物で	なし	なし	に55°暖	灰黄褐		
102 SB1PSK	中期後葉～末葉	V3	脚台	物で	鋸歯	なし	に55°暖	に55°暖	4脚?	
103 S11	中期後葉	J2a	側面	圓文	平行沈縫	なし	に55°暖	に55°暖		
104 S11	中期後葉	J2c	側面	削字文	平行沈縫、圓文	なし	に55°暖	に55°暖		
105 S11	中期後葉	J3	側面	物で	鋸歯	丸縫、押し引き	に55°暖	灰褐		
106 S11	中期後葉～末葉	日13	口縁部	尖端	輪状把手、鋸歯	丸縫	明赤褐	赤褐		
107 S11	中期後葉～末葉	日16	側面	物で	鋸歯	丸縫	に55°暖	灰褐		

埋蔵	出土地点	時	期	分類	部	位	基面調整	文	様	文様 内地文	色調(外縁)	色調(内縁)	備考		
108	S11	中階後葉～末葉	II 1 c	輪形	側で	縫合	斜行沈縫	に	い	黄	に	い	黄		
109	S11	中階後葉～末葉	II 2 a	口輪部	側文	突起、沈縫区间、溝各沈縫	なし			灰黄褐	に	い	黄		
110	S11	中階後葉～末葉	II 2 a	口輪部	側文	沈縫区间、沟各沈縫	なし			明黄褐	に	い	黄		
111	S11	中階後葉～末葉	II 2 c	口輪部	側文	沈縫区间	斜尖、斜行沈縫	に	い	赤	に	い	赤		
112	S11	中階後葉～末葉	II 2 c	口輪部	側文	沈縫区间	斜尖	に	い	黄	に	い	黄		
113	S11	中階後葉～末葉	II 2 c	口輪部	側文	沈縫区间	斜尖	に	い	黄	に	い	黄		
114	S11	中階後葉～末葉	II 2 d	輪形	側文	沈縫区间	斜行沈縫、斜行沈縫	に	い	黄	に	い	黄		
115	S11	後期	Ⅲ	口輪部	側文	沈縫	なし			明赤褐	に	い	黄		
116	S11	中階後葉～末葉	V 2	口輪部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
117	S11	中階後葉～末葉	V 2	口輪部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
118	S11	中階後葉～末葉	V 2	口輪部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
119	S11	中階後葉～末葉	V 3	底部	側文	全し				明赤褐	に	い	黄		
120	S11	中階後葉～末葉	V 3	底部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
121	S11	中階後葉～末葉	V 3	底部	側文	沈縫	なし			明赤褐	に	い	黄		
122	S11	中階後葉～末葉	V 3	底部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
123	S11	中階後葉～末葉	V 3	底部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
124	S11	中階後葉～末葉	V 3	底部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
125	S11	中階後葉～末葉	V 3	底部	側文	沈縫	なし			明赤褐	に	い	黄		
126	S11	中階後葉～末葉	V 3	脚台	側文	縫合	なし			明赤褐	に	い	黄		
127	S11	中階後葉～末葉	V 3	脚台	側文	縫合	なし			明赤褐	に	い	黄		
128	S11	不明	V 4	口輪部	側文	縫合	沈縫			明赤褐	に	い	黄		
129	S11	不明	V 4	口輪部	側文	縫合	沈縫			明赤褐	に	い	黄		
130	S12	中期中葉	I 1	口輪部	側文	縫合	沈縫、押し引き			黄灰	者				
131	S12	中期後葉～末葉	II 1 d	輪形	側文	縫合	沈縫、斜行沈縫	に	い	黄	に	い	黄		
132	S12	中期後葉～末葉	II 2 c	口輪部	側文	沈縫	斜尖	に	い	黄	者				
133	S12	中期後葉～末葉	V 3	底部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
134	S12	中期後葉～末葉	V 3	底部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
135	SK 2	中期後葉～末葉	V 2 c	口輪部	側文	沈縫	なし			明赤褐	に	い	黄		
136	SK 2	中期後葉～末葉	Ⅲ	口輪部付近？脚部	側文	縫合	押し引き	に	い	赤	者				
137	SK13	中期後葉	I 2 b	口輪部	側文	縫合	斜尖	に	い	黄	に	い	黄		
138	SK17	中期後葉	I 2 a	口輪部	側文	平行	斜行	なし		に	い	黄	に	い	黄
139	P55	中期後葉～末葉	V 3	底部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
140	SU1	中期後葉～末葉	V 3	底部	側文	なし				明赤褐	に	い	黄		
141	M11	中期中葉	I 1	口輪部	側文	縫合	押し引き	者	者						
142	J 8	中期中葉	I 1	口輪部	側文	縫合	押し引き	者	者						
143	K 9	中期中葉	I 1	口輪部	側文	縫合	押し引き	に	い	黄	に	い	黄		
144	J 7	中期中葉	I 1	口輪部	側文	縫合	押し引き	に	い	黄	明赤褐	に	い	黄	
145	K 10	中期中葉	I 1	口輪部	側文	縫合	押し引き	に	い	黄	明赤褐	に	い	黄	
146	K 11	中期中葉	I 1	口輪部	側文	縫合	押し引き	明赤褐	に	い	黄	明赤褐	に	い	黄
147	K 11	中期後葉	I 2 a	口輪部	側文	平行	斜縫	なし		明赤褐	に	い	黄		
148	K 11	中期後葉	I 2 a	口輪部	側文	平行	斜縫	なし		明赤褐	に	い	黄		
149	K 11	中期後葉	I 2 a	口輪部	側文	平行	斜縫	なし		明赤褐	に	い	黄		
150	L 11	中期後葉	I 2 a	口輪部	側文	平行	斜縫	なし		明赤褐	に	い	黄		
151	J 9	中期後葉	I 2 a	口輪部	側文	縫合	なし			黄灰	者				
152	表紙	中期後葉	I 2 b	口輪部	側文	縫合	斜縫	に	い	黄	に	い	黄		
153	K 9	中期後葉	I 2 b	口輪部	側文	縫合	斜尖	に	い	黄	に	い	黄		
154	J 9	中期後葉	I 2 b	口輪部	側文	縫合	斜尖、沈縫	に	い	黄	に	い	黄		
155	J 9	中期後葉	I 2 b	口輪部	側文	縫合	斜尖	に	い	黄	明赤褐	に	い	黄	
156	M10	中期後葉	I 2 c	口輪部	側文	沈縫	なし			明赤褐	に	い	黄		
157	L 7	中期後葉	I 2 c	口輪部	側文	縫合	斜尖	に	い	黄	に	い	黄		
158	J 9	中期後葉	I 2 c	口輪部	側文	沈縫、押し引き	なし			明赤褐	に	い	黄		
159	K 7	中期後葉	I 2 c	口輪部	側文	沈縫	対互斜尖	明赤褐	明赤褐						
160	K 5	中期後葉	I 2 c	口輪部	側文	平行	斜縫、コンパス文	なし		明赤褐	に	い	黄		
161	K 9	中期後葉	I 2 c	口輪部	側文	平行	斜縫、円弧文	なし		明赤褐	に	い	黄		

標印番号	出土地点	時期	分類	馬上位	表面調査	文様	種	文様内施文	色調(外顔)	色調(内底)	備考
162	J 6	中期後期	II 2 c	輪部	縄文	平行沈縄	なし	灰褐色	に赤い褐色		
163	N12	中期後期	II 2 c	輪部	縄文	平行沈縄	なし	に赤い褐色	灰褐色		
164	J 9	中期後期	II 2 c	輪部	縄文	平行沈縄	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
165	I 9	中期後期	II 2 c	輪部	縄巻き縄文	なし	なし	明褐色	褐色		
166	K 8	中期後期	II 2 c	輪部	縄文	弧状沈縄	なし	明灰褐色	黄褐色		
167	L 8	中期後期	II 2 c	輪部	縄文	平行沈縄	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
168	M 1	中期後期	II 2 c	輪部	縄巻き縄文	なし	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
169	K 6	中期後期	II 2 c	輪部	縄文	平行沈縄、コンバックス文	なし	明赤褐色	褐色		
170	K 9	中期後期	II 2 c	輪部	縄巻き縄文	沈縄	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
171	L 9	中期後期	II 2 c	輪部	縄文(内側)	輪帶	押し引き	に赤い褐色	褐色	外側輪付帯	
172	K 10	中期後期	II 2 c	輪部部分	縄文	輪帶	沈縄	に赤い褐色	に赤い褐色		
173	L 8	中期後期	II 3	輪部	無地	沈縄	押し引き	に赤い褐色	に赤い褐色		
174	J 5	中期後期～末期	II 1 a	輪部	無地	輪帶	沈縄	に赤い褐色	明赤褐色	断突け有り	
175	K 6	中期後期～末期	II 1 a	輪部	無地	輪帶沈縄	沈縄	に赤い褐色	に赤い褐色		
176	J 4	中期後期～末期	II 1 a	輪部	無地	輪帶、渦巻き輪帶	沈縄	に赤い褐色	に赤い褐色		
177	J 8	中期後期～末期	II 1 a	輪部	無地	輪帶	沈縄	に赤い褐色	に赤い褐色		
178	H 6	中期後期～末期	II 1 b	輪部	無地	輪帶区画、渦巻き輪帶	L 1 補文	に赤い褐色	灰黃褐色		
179	J 4	中期後期～末期	II 1 b	輪部	無地	輪帶区画	網目、沈縄	褐色	灰褐色		
180	I 6	中期後期～末期	II 2 a	輪部	無地	輪帶	沈縄	に赤い褐色	に赤い褐色		
181	J 6	中期後期～末期	II 2 e	輪部	無地	輪帶区画	沈縄	に赤い褐色	に赤い褐色		
182	J 8	中期後期～末期	II 2 e	輪部	無地	輪帶	沈縄	に赤い褐色	に赤い褐色		
183	赤坂	中期後期～末期	II 2 e	輪部	無地	輪帶	沈縄	に赤い褐色	に赤い褐色		
184	L 9	中期後期～末期	II 2 a	輪部	無地	輪帶区画	網目	褐色	に赤い褐色	断突け有り	
185	K 22	中期後期～末期	II 2 a	輪部	無地	沈縄区画	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
186	L 6	中期後期～末期	II 2 a	輪部	縄文	光縄区画	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
187	I 6	中期後期～末期	II 2 c	輪部	縄文	沈縄区画	縄文	明赤褐色	褐色		
188	J 8	中期後期～末期	II 2 d	輪部	縄文	光縄区画	縄文	に赤い褐色	に赤い褐色		
189	L 21	竪縫接合	Ⅲ	口輪部	縄文	輪帶	押し引き	に赤い褐色	浅灰褐色		
190	表模	竪縫接合	Ⅲ	口輪部	条纹文	押し引き	なし	灰黃褐色	灰黃褐色		
191	J 9	竪縫接合	Ⅲ	口輪部	条纹文	輪帶	なし	黒褐色	に赤い褐色		
192	K 5	中期後期	Ⅲ	輪部	無地	輪帶	押し引き	浅灰褐色	黃褐色		
193	K 7	竪縫接合	Ⅲ	口輪部	無地	輪帶	輪み	褐色	に赤い褐色		
194	K 10	竪縫接合	Ⅲ	口輪部	無地	なし	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
195	K 5	朱生時代前縫	IV	輪部	条纹文	なし	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
196	K 5	朱生時代前縫	IV	輪部	条纹文	なし	なし	灰黃褐色	灰黃褐色		
197	L 19	朱生時代前縫	IV	輪部	条纹文	なし	なし	黑	黑	外側輪付帯	
198	I 6	中期後期～末期	V 1	輪部	L 1 補文	なし	なし	浅灰褐色	明灰褐色		
199	K 10	中期後期～末期	V 1	輪部	L 1 補文	なし	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
200	L 7	中期後期～末期	V 3	光縄部	無地	なし	なし	に赤い褐色	に赤い褐色	此標は既存有り	
201	L 8	中期後期～末期	V 3	光縄部	無地	なし	なし	に赤い褐色	に赤い褐色	此標は既存有り	
202	L 20	中期後期～末期	V 3	光縄部	無地	なし	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
203	表模	中期後期～末期	V 3	輪台	無地	なし	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
204	K 5	中期後期～末期	V 4	口輪部	無地	輪帶	なし	に赤い褐色	に赤い褐色	口輪上部縫合	
205	K 9	中期後期～末期	V 4	口輪部	無地	輪帶	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		
206	L 7	中期後期～末期	V 4	口輪部付近	無地	輪帶	なし	に赤い褐色	に赤い褐色		

第2節 石器

昭和54年度の調査で表面採集された石器は北部地区からは製品25点、剥片43点で南部地区からは製品が15点剥片が200点である。石器の石材はチャート89%、サヌカイト6.1%、黒曜石1.7%、下呂石0.7%のみで圧倒的にチャートが多い。このことは今回の発掘調査で出土した石器からも同じことがいえる。昭和54年度の調査で表採した石器の詳細は次のとおりである。

北部地区

石鎚は15点で欠損したものが多く全体的に粗製のものが多く無茎石鎚がほとんどである。特異なものでは五角形で、中央にくびれがあり断面が凸レンズ形で、長さ2.5cm、重さ1.9gで大型である。材質はチャートがほとんどでサヌカイトは1点のみである。

石斧1点、北部中央部から長さ7.5cm、幅3.7cmで小型、材質は流紋岩である。

石匙4点、北部から出土、うち2点横型、2点縦型で、いずれも粗製で材質はチャートである。

石錐4点、北部から出土、全て切り目石錐である。

スクレイパー3点、材質はチャートである。

フレイク43点で、チャート35点、黒曜石3点、サヌカイト3点、下呂石1点である。

南部地区

石鎚10点で、材質から見るとチャート6点、サヌカイト3点、石英1点で、形態から見ると無茎石鎚8点、無脚鎚2点である。

横型石匙が1点で、材質はチャート。石錐2点のうち1点は摘み部のみである。搔器は1点で材質はチャートである。

フレイク204点のうちチャート191点、サヌカイト10点、安山岩系2点、黒曜石2点である¹⁾。

今回の発掘調査で出土した石器の総数は175点である。石鎚18点、石錐つまみ部1点、石匙2点、ピエス・エスキュー1点、スクレイパー7点、RF5点、UF14点、未製品などで不明なもの2点、石核4点、剥片90点、削片9点、石錐14点、敲石・凹石・磨石5点、石皿2点、異形石器1点である。石材は主にチャート144点(82.2%)、砂岩13点(7.4%)、石英1点(0.5%)、その他にサヌカイト5点(2.9%)、黒曜石3点(1.7%)（石鎚1点、削片2点、で京都大学原子炉実験所の藻科哲男氏によると霧ヶ峰産のものということである。）も含まれていた。

石鎚（第28図、図版19）

(301~316) 総数は18点で、他に未製品や折損が激しく不明のものが2点である。石材はチャートが11(2)点、サヌカイトが3点、黒曜石が1点、石英が1点で、手に入りやすいチャートが断然多いが、サヌカイト、黒曜石、といった搬入された石材のものも少量ながら存在する。

形態に関しては、基部に着目して次のように分類する。

A類 基部に抉りのはいるもの

鎚身：抉り = 3 : 1 を基準として抉りが深いもの。

B類 基部に抉りのはいるもの

鎌身：抉り = 3 : 1 を基準として抉りが浅いもの。

C類 いわゆる平基鎌で、基部が直線状をなすもの。

D類 いわゆる平基鎌で、基部がわずかに凸状になるもの。

E類 いわゆる有茎鎌で、基部に茎を持つもの。

F類 基部が折損しており上記の分類が不可能なもの。

G類 未製品の可能性が高いもの。

第8表 石鎌の石材と形態

	A類	B類	C類	D類	E類	F類	G類	合計
チャート	2 (11)	6 (33)	0	1 (6)	1 (6)	1 (6)	2 (11)	13 (72)
サヌカイト	0	3 (17)	0	0	0	0	0	3 (17)
黒曜石	0	1 (6)	0	0	0	0	0	1 (6)
石英	0	0	1 (6)	0	0	0	0	1 (6)
合計	2 (11)	11 (61)	1 (6)	1 (6)	1 (6)	1 (6)	2 (17)	18

() 内は%。

調整手順より調整の傾向について見てみる。

調整手順 1・2類は基部を最後に調整する・・・F

調整手順 3・4類は基部を最初に調整する・・・L

調整手順 5はぐるっと一周して調整する・・・E

とすると表面はFが6点、Lが4点、Eが2点であり、裏面はFが5点、Lが6点である。表面と裏面の組み合わせでは、FFが2点、FLが3点、LLが1点、LFが2点、EF・ELそれぞれ1点となり調整手順に目立った偏りはなかった。

調整の表裏の先後関係では、圧倒的に裏面を先に調整し表面を後に調整するものが多いといえる。すなわち主要剝離面から先に調整するものが多いと言える。また裏面には素材面の残るものが多い。

形態から見るとほとんどがB類である。

304はサヌカイト製で抉りが浅く、かなり風化している。305は黒曜石製で抉りが浅く、細かい調整が施されている。306はチャート製で抉りが浅く、調整剝離は表面よりも裏面側に細かく施されている。307はチャート製で抉りが浅く、裏面の打点付近を片脚として利用している。309はチャート製で抉りが浅く、半分折損しているが薄く、細かい調整が施されている。抉り部を後で調整している。310はサヌカイト製で抉りが浅く、やや風化している。左脚縁と左脚を折損している。311はサヌカイト製で抉りが浅く、ほとんど風化している。薄く剥がれた剝片を利用したのか、使用中に剥がされたのかであろう。表面に多く調整されており、裏面は大きく主要剝離面を残している。313は石英製で平基である。316はチャート製で剝離が大きく細かい調整がなされていないため石鎌の未製品とした。

石錐（第28図、図版19）

(317) 石材はチャートでドリルのつまみ部である。錐部は折損している。抉りかはほとんど見られず棒状になると思われるが先端部の方に行くほど細くなるようである。

石匙（第29図、図版19）

(318・319) 318は石材がチャートでつまみ部のみ残存している。左側と刃部が折損しているため縦型か横型かははっきりしない。319はチャート製でボジ面側に打点が残ってこの自然面を避けるように調整しておりちょうどつまみ部に利用している。横長剝片の石匙か。刃部は折損している。

ピエス・エスキュー（第29図、図版19）

(320) の1点で、石材はチャートで打撃により破損している。

スクレイパー（第29図、図版19）

(321～325) 素材の一部又は全体に調整を施し刃部を作出したもの。総数は7点である。石材はサヌカイトが1点で、その他はすべてチャートである。

321は両側縁に調整を施している。右側縁は丁寧に調整している。節理が多くきれいな剝片ではない。322・324は下端部に刃を調整しているヘラ形である。322は表面側が裏面より後に調整されている。表面、裏面の調整はともに右から左に施されている。323は両側縁の下部両面に調整を施している。325はサヌカイト製で横長剝片を利用し両面に調整があるが片刃になっている。両面とも打点側の分厚い方に刃を施している。自然面を残している。

RF（第30図、図版19）

(326・327) 剥片に大小の剥離痕を連続して施す。総数5点で、すべてチャートである。

326は礫面を調整したのかネガ面に自然面が残る。裏面には細部調整を施している。327はネガ面の打点は折損しておりネガ面に自然面が残っている。調整は下端部に施している。

UF（第30図、図版19）

(328～332) 素材の鋭い縁辺に使用痕と思われる微細な剥離痕が不規則に連続し「刃こぼれ」状を呈するもの。総数14点で、安山岩が1点で他はすべてチャートである。

328はSNK 5出土で安山岩で裏面は礫面である。ボジ面には大きいバレヴァスカーが見える。ボジ面側に使用痕が見られる。329はSI 1出土で両面ボジ面で打点は折損している。330はSU 1出土で側縁と下端部に剥離痕が見られる。332は打面礫面で亜角礫を使用している。

石核（第31図、図版19）

(333～335) 総数は4点で、石材はすべてチャートである。形態については次のように分類する。

A類 原石もしくは節理等で分割された石塊を素材とする。

打面・作業面も周定しない。打面・作業面転移を繰り返すもの。

B類 剥片を素材とする。剥片の背面を打面に主要剥離面を作業面とする。

C類 剥片を素材とする。剥片の背面と主要剥離面を打面としたり、作業面としたりする。

D類 剥片を素材とする。主要剥離面を打面とする。

333はSK15出土で打面が裏面で打面を周定している。334は打面を転移している。335は節理が多い。

フレイク（第31図、図版19）

(336～340) 総数は、90点で石材はすべてチャートである。縦長剥片が32点で、横長剥片が58点である。

削片（第31図、図版19）

(341～342) 黒曜石の石材のものが2点出土している。その他はチャートである。

石錐（第32図、図版19）

(343～354) 総数は14点で、打欠石錐が4点、切目石錐が9点、打欠と切目の両方が見られるのが1点である。石材はほとんどが砂岩である。両面に帯状痕が見られるものがほとんどである。帯状痕については有る無しの判断に個人差があり、比較の材料にするには一個人で見なければ基準がそろわない。筆者の場合は縄が巻かれた部分はざらざらしており帯状痕以外の部分や側面は水流によって転がり磨れたり磨耗している痕跡があり帯状痕部と差があるものはすべて帶条痕有りとした。以上のことよりほとんどが漁撈用に使われたものではないかと考えた。遺跡のすぐ東にある梨の木川では漁撈ができるのかどうかは現在の水量からは想像できないが、川沿いに石錐が表採されているということなどから漁撈が行わえていなかったとは言い切れないだろう。また当遺跡より南の藤子川までは1kmと近くそちらも漁撈範囲であろう。

重量分布は打欠石錐のみでは50gがピークであるが、切目石錐のみでは40gと70gが2点ずつとなりほかには10・20・50・60gが1点ずつあり40g～70gの間に分布の幅がある。また、打欠石錐と切目石錐を両方合わせると重量のピークは40g～50gである。さらに打欠石錐と切目石錐の両方に110gのものがある。

昭和54年度の調査では切目石錐が4点出土している。その分も合わせると10gでピークができる。

(第35図参照)

敲石・凹石・磨石（第33図、図版20）

(355～358) 総数は5点で、石材は砂岩2点、安山岩3点である。

形態に関しては次のように分類する。

A類 敲打痕と磨面を持つもの。

B類 敲打痕と凹と磨面を持つもの。

第9表 敲・凹・磨石石材と形態

	A類	B類	合計
砂岩	2 (40)	0	2 (40)
安山岩	2 (40)	1 (20)	3 (60)
合計	4 (80)	1 (20)	5

() 内は%。

357は側面も含め前面磨かれているが局部的に磨れが激しいところがある。両面には部分的に比熱のためか赤くなっているところがある。

石皿（第34図、図版20）

(359・360) 359は住居跡床面で出土した。砂岩で砂岩の石層で平らに割れたものを利用している。上面、下面とも比熱によってか、または酸化鉄の付着によって赤くなっている。割れ面に比熱による同心円上のリングが見えてるので比熱のための赤化と考える。上面には16.5cm×14cmの円形状に磨面がある。360はSI 1出土で割れて1/3程の大きさしか残っていない。上面に磨れ面が残っている。

異形石器（第34図、図版20）

(361) 石材がサヌカイトで三日月形をしている。調整は両面に見られるが裏面の方は表面に比べると調整が少ない。主要剥離面の打点部はパルプが見えないぐらいいの剥離調整が施されている。裏面には主要剥離面を残している。中央部がややくびれて抉りが入っている。関ヶ原町で出土している異形石器は本遺跡の南の池寺遺跡で出土している蝶形石器がある。三日月形の異形石器の類例は桜洞遺跡にある²³。桜洞遺跡出土のものは鉤形打製石器として報告されている。

〈計測の詳細について。〉

石鑿

折損部位	a : 先端部	1点
	b : 片脚部先端	5点
	c : 両脚部先端	2点
	d : 片側縁	2点
	e : 基部	2点
	f : 先端部+両脚部先端	1点
	g : 先端部+片脚部先端	1点

素材面・・・主要剥離面

側縁	1 : 外湾	4 : 外湾+内湾
	2 : 直線	5 : 内湾+直線
	3 : 内湾	6 : 有段

細部調整の手順



第27図 石器分類模式図

6 風化、折損などで不明なもの。

表裏後：後に調整した方の面を記入。

石縫

擦り切り工程（切目）

I : 円錐先端に対して垂直に 1 工程で。

II : 表裏両面から 2 工程で。

III : 表裏両中央部深くまで 4 工程。

石核

作業面数・・・剝離面数

打 角・・・ネガティブな打瘤が残存する剝離痕に限って計測し、それらの平均値を示す。

R F • U F • 剥片

加撃方向 a : 背面と復面の剥離方向が同一。

b : 背面と復面の剥離方向が正反対。

c : 背面に復面の剥離方向と直行する剥離痕を持つ。

d : 背面の全面が礫面からなるもの。

端 部 a : フェザーエンド

b : 蝶番剥離

c : 節理面

d : 2 次加工、刃こぼれ

註

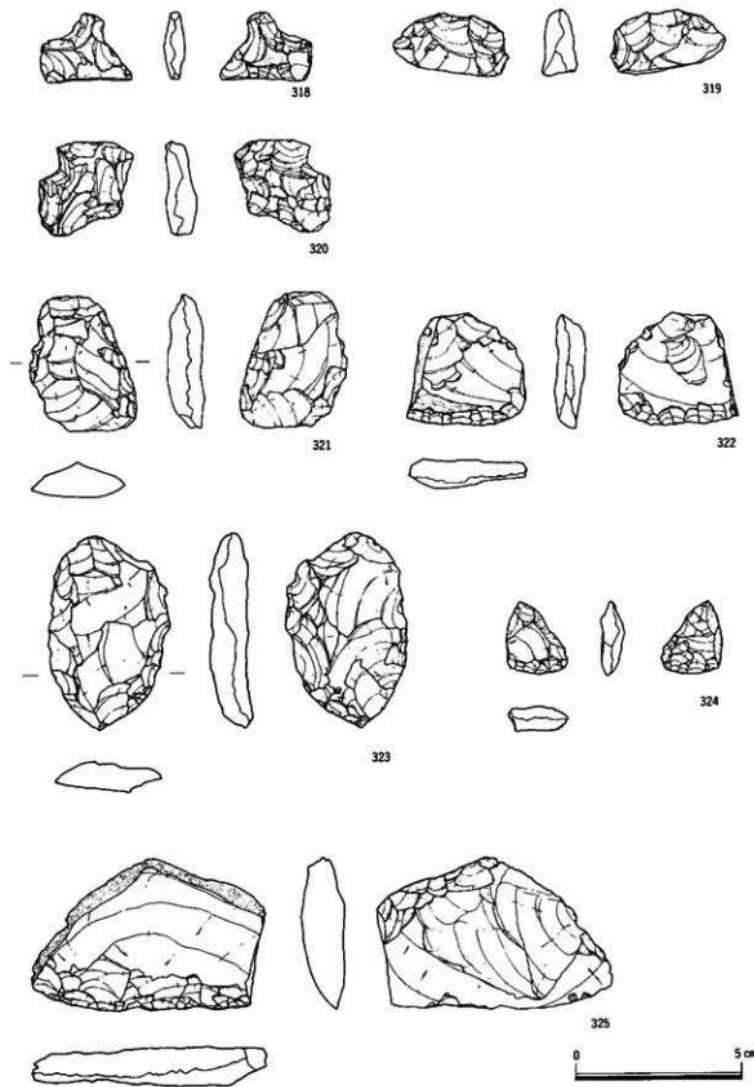
1) 大岡明臣 『関ヶ原町遺跡調査報告』 1982。

2) 吉朝則富 『高山考古学研究会会報「どっこいし」』 第42号 1993。

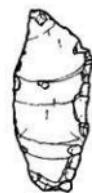
萩原町教育委員会 『飛騨 桜洞』 1974。



第28図 石器 (1)

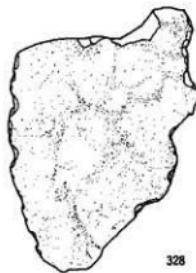


第29図 石 器 (2)

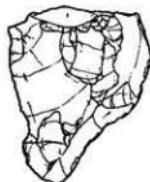


326

327

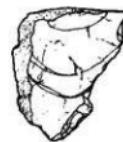


328



330

329

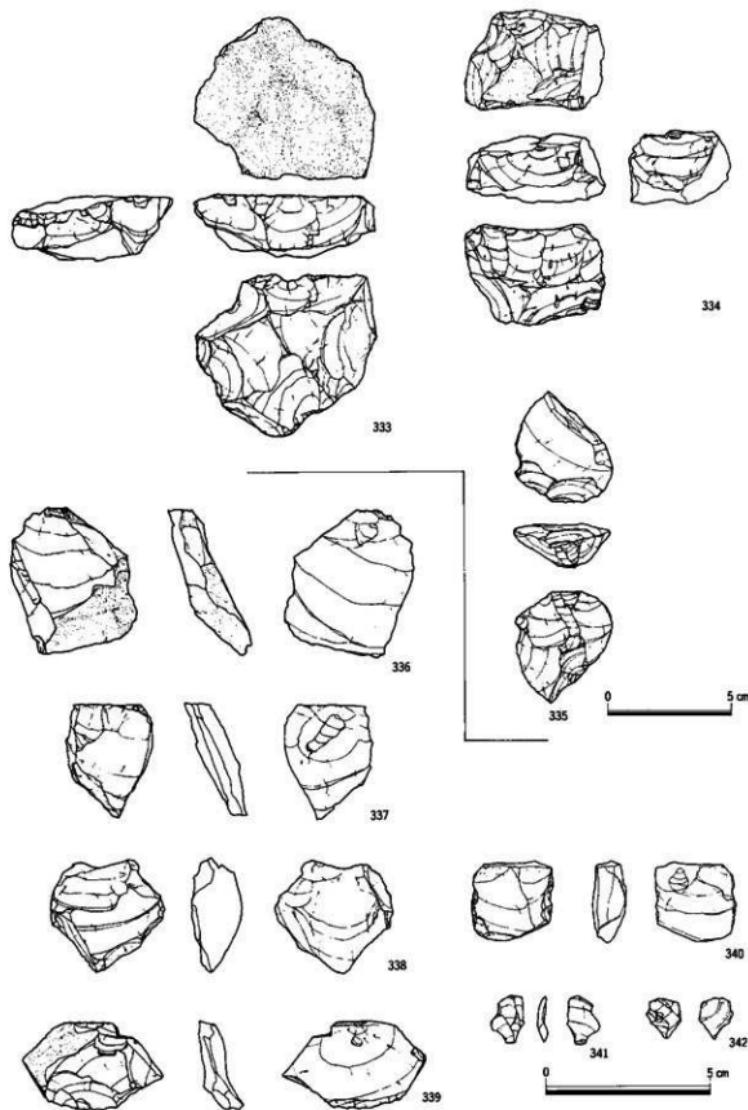


331

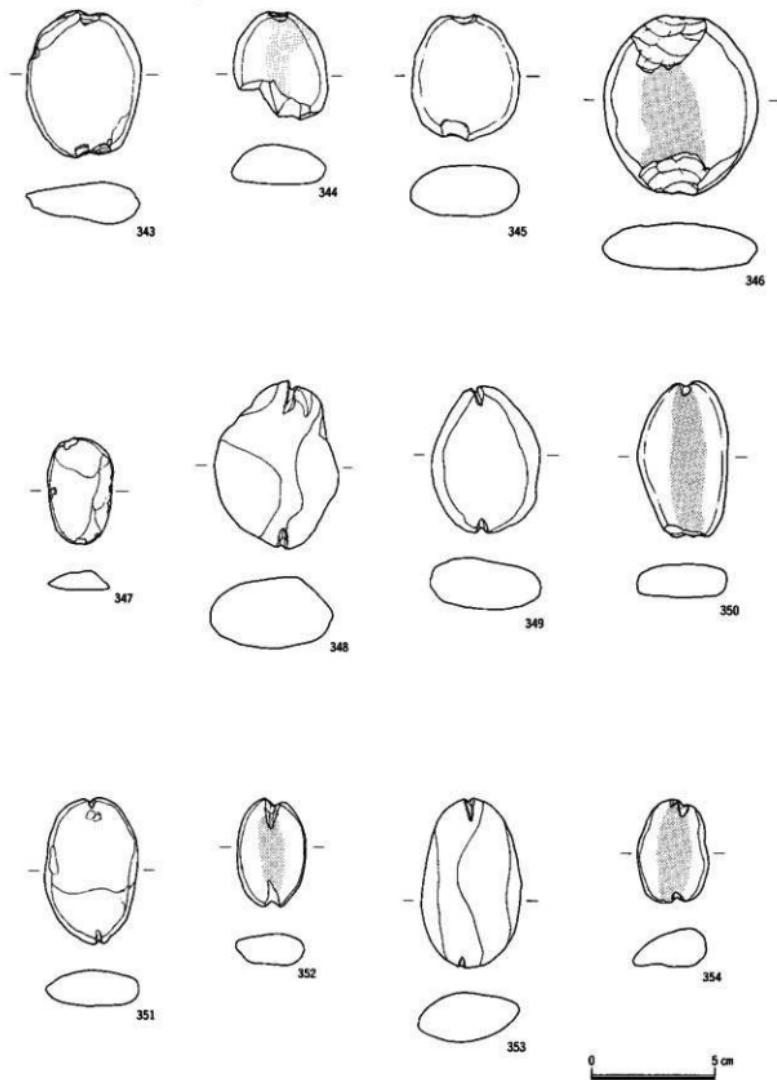
332



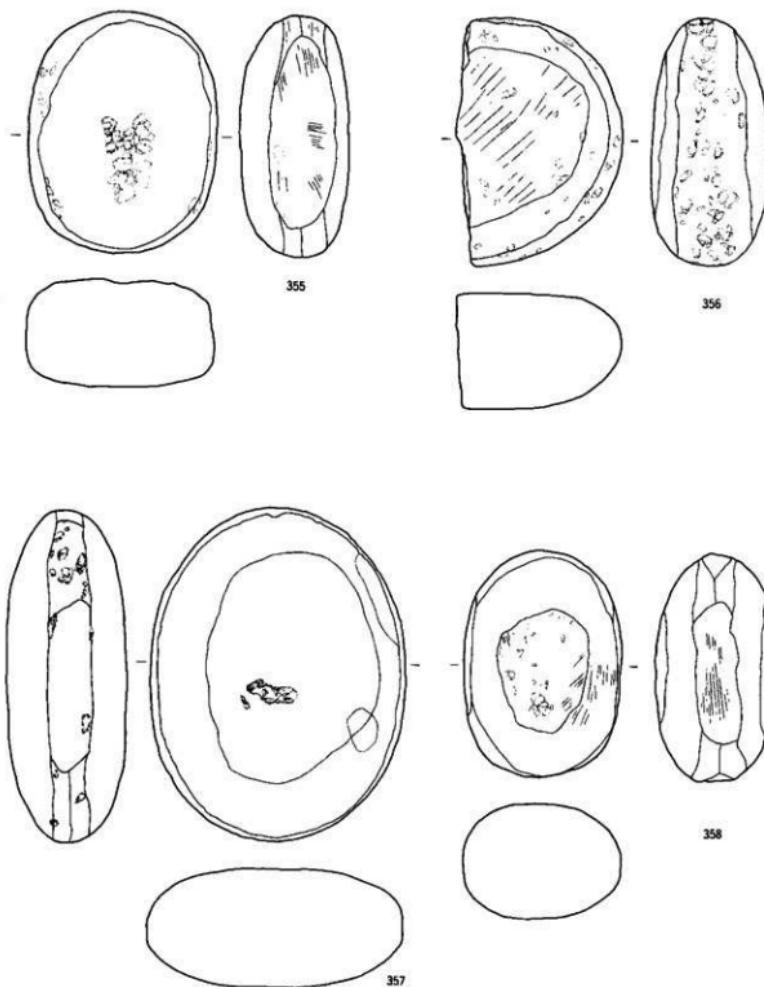
第30図 石器 (3)



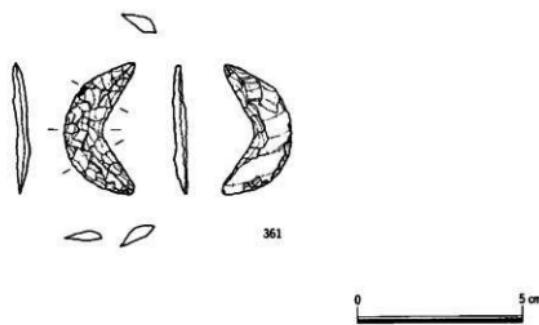
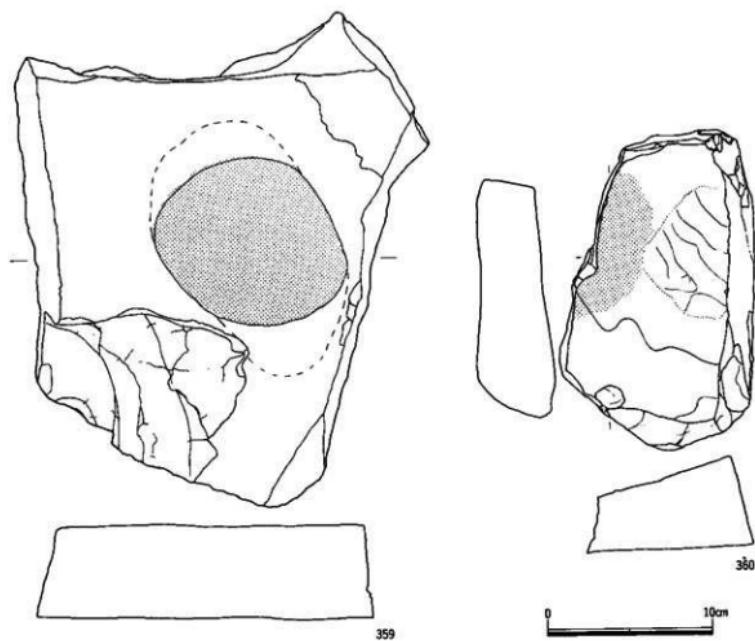
第31図 石 器 (4)



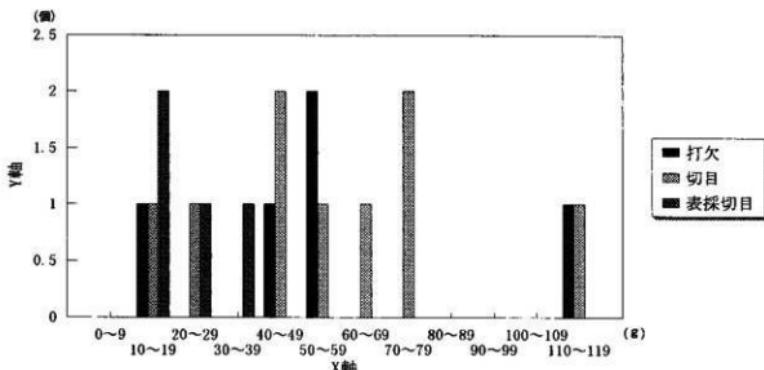
第32図 石器 (5)



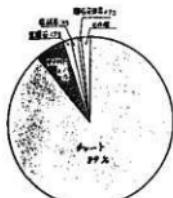
第33図 石 器 (6)



第34図 石器 (7)



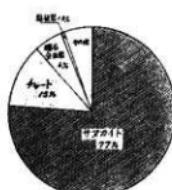
第35図 石器重量分布図



第36図

御薗田遺跡出土

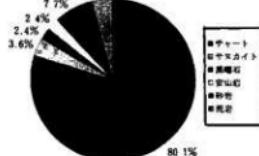
石器石質の割合



第37図

松尾遺跡出土

石器石質の割合



第38図

石器石材の

割合

第10表 小間御薗田遺跡の石器に使用された石質

	合計	チャート	サスカイト	黒曜石	黒雲母輝石安山岩	粘板岩	流紋岩	その他
石鏃	23	18	5	0	0	0	0	0
石匙	5	5	0	0	0	0	0	0
石斧	1	0	0	0	0	0	1	0
搔器	4	4	0	0	0	0	0	0
石錐	4	0	0	0	0	4	0	0
石錐	3	3	0	0	0	0	0	0
剥片	247	226	13	5	2	0	0	0
(%)	28.7	256(89)	18(6.1)	5(1.7)	2(0.7)	4(1.4)	1(0.35)	1(0.35)

第11表 石器組成表

() 内%を示す

	石鏃	石錐	石匙	ピエス	チャート	R	F	U	F	不明	石核	剥片	磨片	石錐	縦凹面	石裏	異形石器	合計
チャート	13(7.4)	1(0.5)	2(1.1)	1(0.5)	6(3.4)	5(2.9)	13(7.4)	2(1.1)	4(2.3)	90(51.4)	7(4.0)						144(82.2)	
サスカイト	3(1.7)				1(0.5)											1(0.5)	5(2.9)	
黒曜石	1(0.5)										2(1.1)						3(1.7)	
石英	1(0.5)																1(0.5)	
安山岩																	5(2.9)	
砂岩																	13(7.4)	
泥岩																	4(2.3)	
合計	18(10.2)	1(0.5)	2(1.1)	1(0.5)	7(4.0)	5(2.9)	14(8.0)	2(1.1)	4(2.3)	90(51.4)	9(5.1)	14(8.0)	5(2.9)	2(1.1)	1(0.5)		175	

第12表 石器出土状況構・地区別表

番号	出土地点	石鏨	石錐	石鉗	ピエス	スクレイバー	RF	UF	不明	石核	剥片	削片	石鏟	敲・凹・磨	石墨	異形石器	合計
1	E 3								1								1
2	E 4	1															1
3	F 3					1			1	3							5
4	F 4												1				1
5	G 3	1									1			1			3
6	G 5													1			1
7	H 3			1													1
8	H 4							1									1
9	H 5										1						1
10	H 6	1															1
11	I 4									1							1
12	I 5										1	1					2
13	I 6									1							1
14	I 7							2		2			1				5
15	I 8	1								1							2
16	J 5									1							1
17	J 6					1				2		1					4
18	J 7	1								2	1	1					5
19	J 8					1				4					1		6
20	J 10										1						1
21	J 11							1									1
22	K 6									2							2
23	K 7	3										1	2				6
24	K 8									3	1						4
25	K 9											1					1
26	K 10	1					1			1	2	1					6
27	L 7	1									2						3
28	L 8									2		1					3
29	L 9							1		2	1						4
30	L 12	1															1
31	L 15					1											1
32	L 17									1							1
33	L 18									1							1
34	M 9					1				1							2
35	M 10									1	1						2
36	M 15							1									1
37	P 1									1							1
38	P 10	2															2
39	P 15										2						2
40	P 17											1					1
41	P 23									1							1
42	SB 1 伊						1			8			1				10
43	SB 1 (J 7)							1		3		1					5
44	SB 1 (K 7)									2							2
45	SB 1 SK											1					1
46	SB 1 P 1									1	1						2
47	SD 4									1							1
48	SI 1				1		1			5			1				8
49	SI 2									1	1						2
50	SK 2									1							1
51	SK 3										1						1
52	SK 4									1	1						2
53	SK 5					1	1				1						3
54	SK 10									1							1
55	SK 15									1							1
56	SK 17	1									1						2
57	SU 1	2	1					1	2		6	1					13
58	SX 2										1						1
59	表様			1	1	2			1		10	3	1				19
	合計	16	1	1	1	8	6	12	2	4	83	9	14	5	2	1	165

石器計測表

地盤の性質と地盤改良工法										地盤改良工法と地盤改良効果										
地盤の性質					地盤改良工法					地盤改良効果					地盤改良工法					
地盤番号	地盤名	地盤構成	地盤厚(m)	地盤強度	地盤改良工法	改良率(%)	地盤改良工法	改良率(%)	地盤改良効果	地盤改良工法	改良率(%)	地盤改良工法	改良率(%)	地盤改良工法	改良率(%)	地盤改良工法	改良率(%)	地盤改良工法	改良率(%)	
1	H-6	III	3.865	3.4-4.1	27.5	2.4	0.7	0.8	0.9	b	10	A	無	6%	2	43	4	4	次	
2	H-6	III	1.142	3.4-4.1	27.5	15	3.8	0.6	1.0	b	6	A	無	6%	1	46	1	3	薄	
3	G-3	II	2	3.6-3.9	23.1	14.2	3	0.7	0.9	b	5	B	無	5%	2	28	1	1	次	
4	I-8	III	6.682	3.2-3.5	22.8	18.8	6.3	1.7	0.9	2	b	3	B	不明	5%	5	27	1	1	次
5	G-3	II	1.225	3.6-3.9	18.9	14.4	3	0.5	0.9	0.6	a	5	B	不明	6%	3	32	1	1	次
6	L-12	II	6.616	3.2-3.5	21.8	11.6	3	0.7	1	1	b	3	B	有	4	42	1	1	次	
7	G-3	II	1.142	3.4-4.1	16	12.6	3.2	0.4	0.7	b	2	B	無	4%	2	52	1	1	次	
8	P-10	III	3.844	3.4-4.1	21.6	14.3	3.2	0.7	0.9	0.5	f	6	B	無	4%	2	39	3	1	薄
9	S-5K7	III	6.699	3.4-4.1	19.2	16.9	3.7	1	1	1	b	6	B	無	4%	1	75	3	2	次
10	E-1	II	1.142	3.4-4.1	18.6	13.8	4.7	1	1	1	b	3	B	無	4%	4	77	3	1	次
11	SU-1	III	1.142	3.4-4.1	17.2	18	3.5	0.8	0.9	c	3	B	無	4%	1	77	1	1	次	
12	SU-1	III	1.142	3.4-4.1	13.9	5.2	0.7	0.9	0.7	c	3	B	無	4%	2	32	5	4	次	
13	L-7	II	6.621	3.2-3.5	27.5	17.2	3	0.5	0.7	0.8	d	3	B	無	4%	1	30	5	4	次
14	P-10	III	3.845	3.4-4.1	21.2	14.9	5	1.2	0.8	1	g	3	C	無	1	30	5	4	次	
15	K-10	II	6.667	3.4-4.1	24	19.2	5.6	2.3	0.9	2.4	d	3	D	無	4%	1	84	3	2	次
16	K-7	II	6.688	3.4-4.1	20.5	17.4	5.3	1.7	1	1.7	e	3	E	無	4%	6	76	4	2	次
17	T-3	II	1.177	3.4-4.1	18.9	17	4.7	1	1	1	e	3	F	無	4%	3	53	1	1	次
18	実測				23.7	20.1	7.3	1	3	3	g	3	G	無	4%	1	74	1	1	次

七

1

石匙	番号	出土土地点	施位	取上番号	石 村	全长(mm)	最大幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存率	材	特徴番号	備考
	1	SU1	M1	445	チャート	21	28.6	6.3	3.2	0.3	横長削片	318	つまみ部のみ
	2	SK5	M1	チャート		34.7	34.6	10.6	6.5	0.5	横長削片	319	つまみ部付近

卷之三

RF・UF

番号	出土地點	層位	石	材	取上番号	石	材	全長(mm)	最大幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	打面	打角	加壓方向	端部	調整面	調整	被	素材	神田番号	備考
1	L15	II	926	チャート	50	7	30.9	13.9	17.3	R F	つぶれ	a	b	d	背面	無	無	無	無	無	327	
2	F 3	III		チャート	56	23.5	12.3	16.8	R F	点状	90	b	c	背面	面無+下端部	無	無	無	無	326		
3	SU1	M1		チャート	46	2	28.1	8.9	12.8	R F	点状	92	a	c	背面	面無+下端部	無	無	無	無	無	
4	SB1P	M1	940	チャート	25	1	19.7	6.8	3.5	R F	点状	a	a	d	背面	面無+下端部	無	無	無	無	無	
5	K10	II		チャート	22	3	15.7	6.2	1.8	R F	点状	a	a	d	背面	面無+下端部	無	無	無	無	無	
6	SK5	M1	1030	安山岩	83.8	58.6	19.8	76	UF	单面	d	d	a	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無		
7	SI1	M1	743	チャート	53	3	43.4	13.7	28	UF	单面	47	a	a	背面	面無	無	無	無	無	328	
8	J11	II	706	チャート	41	8	35	12.6	13.5	UF	单面	80	a	a	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
9	SU1	M1		チャート	34	2	23.7	9.8	7.7	UF	单面	76	a	a	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
10	L7	II		チャート	33	8	36.7	9.7	7.6	UF	单面	a	b	a	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
11	L9	II	794	チャート	26	5	16	6.8	2.6	UF	点状	a	a	d	背面	面無	無	無	無	無	331	
12	H4	III		チャート	26	6	18.8	8.4	4.7	UF	单面	76	b	a	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
13	M15	II	925	チャート	25	4	22.5	6	2	UF	单面	a	a	d	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
14	E 3	I		チャート	33	8	23.8	14	11.4	UF	单面	96	a	a	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
15	I 7	III		チャート	41	2	18	8.2	5.7	UF	点状	b	a	a	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
16	I 7	II	503	チャート	28	9	26.2	8	4.3	UF	点状	c	a	d	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
17	SU1	M1	444	チャート	29	8	21.6	5.3	2.7	UF	点状	a	b	d	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
18	SK4	M1		チャート	21	3	16.9	5.1	1.4	UF	点状	a	a	b	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	
19	SB1	II		チャート	22	8	19.6	5.8	2.2	UF	点状	a	b	d	背面	面長制片+下端部	無	無	無	無	無	

石核

番号	出土地點	層位	石	材	取上番号	石	材	全長(mm)	最大幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	作業面数	打面	打角	打面調整	原礫形状	打面	神田番号
1	I 4	III	チャート		56.1	41.7	28	80.5	A	11	72.8	無	無	b	点状	77	無	334	
2	SK15	M1	チャート	644	78	64.7	27.2	125.1	B	8	72.3	有	無	a	無	68	無	333	
3	K10	II	チャート	718	45.3	32	18.9	28.2	C	5	73.6	有	無	a	無	78	無	335	
4	M10	II	チャート	627	38.7	29.8	17.2	16.6	D	3	79	不明	無	a	無	無	無	無	

剝片

番号	出土地點	層位	石	質	取上番号	石	質	全長(mm)	最大幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	分類	打面	打角	端部	打面	打角	打面	神田番号
1	K 6	II	663	チャート	50.9	36.3	11.2	20.7	b	77	無	無	無	無	無	77	無	336	
2	SR1P	M1	チャート	34.8	27.4	10.4	11.5	a	68	無	無	無	無	無	68	無	337		
3	L 8	II	593	チャート	30.6	43.3	7.4	10.5	a	78	無	無	無	無	78	無	339		
4	SU1	M1	チャート	34.9	35.8	14	17.4	a	つぶれ	無	無	無	無	無	83	無	338		
5	L18	I	チャート	23.8	24	9.1	7.2	a	無	無	無	無	無	無	83	無	340		

15

致石·凹石·磬石

番号	出土地点	樹種	石 材	全長(m)	最大幅(m)	厚さ(cm)	重量(t)	残存率		分類	部位	根き部位	根き面	根付部分	考
								左上番号	右上番号						
1	G 5	Ⅰ	砂岩	135.8	103.9	49	100	1	C	枝+断	層平側円形	側根	平出面	側根+平出面	一部熱
2	I 7	Ⅲ	砂岩	113.5	100.9	42	61.4	1	C	枝+断	不定形体	側根+平出面	平出面	側根+平出面	357
3	J 7	II	安山岩	69.3	99.4	47	467.2	0.5	C	枝+断	層平側円形	側根	平出面	側根+平出面	356
4	G 3	Ⅰ	安山岩	93.9	62.9	47.4	407.4	1	D	枝+回+断	層平側円形	側根+平出面	平出面	側根+平出面	356
5	SB 1	II	193 安山岩	99	76.3	43.8	536.7	1							

10

番号	出土地点	層位	石材	全長(cm)	最大幅(cm)	厚さ(cm)	重量(kg)	残存状	研磨面	裏面	鉄直標	鉄直番号
1	S11	M1	砂岩	19.5	11.5	5.87	1.83	0	凹面	亜角礫	359	
2	SB1	床面	砂岩	30	25	5.6	6.04	0.8	平面	角礫	360	

戰形石器

番号	出土地点	層位	上層号	石	材	全長(m)	幅(横幅)(m)	厚さ(mm)	重量(t)	万葉面形		調整面	加工部位	素 材	被削部分	備 考
										内 容	外 形					
1	J	II	534	サヌカ	1	39.8	20.7	3.8	2.3	1	50.5	外側面 湾曲	内側面 湾曲	鋼線	被削片	361 三月形
1	J	II	534	サヌカ	1	39.8	20.7	3.8	2.3	1	50.5	外側面 湾曲	内側面 湾曲	鋼線	被削片	361 三月形

第3節 その他の時代の遺物

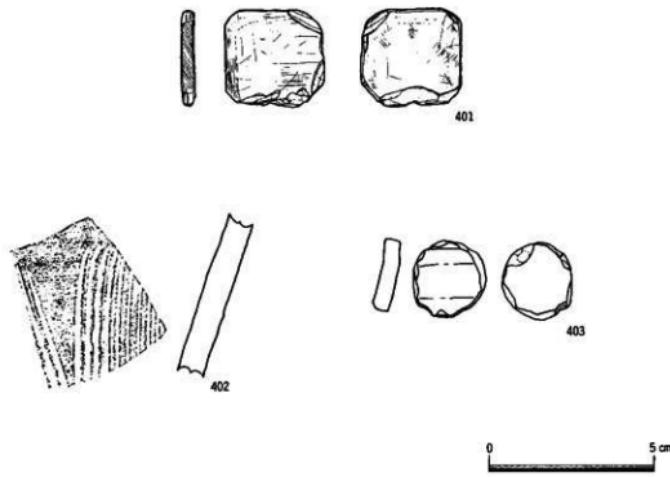
石製模造品（第39図、図版20、第14表）

(401) 石材は滑石で1点のみ出土している。鏡の模造品と思われる。長方形で全面研磨しており穿孔はない。縦方向と横方向の磨れが見える。右側縁と下部が折損している。5世紀～6世紀のものと思われる。当遺跡の発掘調査範囲から土師器、須恵器は出土していない。出土層はIII層で北の山側からの流れ込みと考える。

当遺跡周辺の字名は小関である。これは不破の関を大関とすることに対する小関であるらしい。また小関御祭田遺跡の地名は蜻蛉谷であるが当遺跡の南東方向で梨の木川の対岸付近には御祭田という地名の所がある。石製模造品に関連するような古墳、古道、水などに対する祭りの場がこの近くにあった可能性がある。

陶磁器（第39図、図版20）

(402・403) 402は近世のおろし目のついたすり鉢で全面に銷釉が付く。出土地点は町道西側のM23である。403は加工円盤で内面に長石釉、外面の上部にわずかに長石釉が見られる。外面の下方は回転ヘラ削りで煤が付着している。出土地点は町道西側のL18である。出土層位は両方ともI層である。



第39図 石製模造品、陶磁器

第14表 石製模造品計測表

番号	出土地点	層位	石材	全長(mm)	最大幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	残存率	掉図番号	備考
1	K11	III	滑石	30.5	30.6	4	7.6	0.9	401	全面磨り

第5章 自然科学的・手法による報告

小関御祭田遺跡出土の黒曜石製石片の原材产地分析および非破壊分析による水和層測定

薦科哲男（京都大学原子炉実験所）

分析方法

遺物資料は超音波洗浄器により水洗を行うのみの完全な非破壊で、エネルギー分散形蛍光X線分析装置によって元素分析を行う。分析元素はAL、Si、K、Ca、Ti、Mn、Fe、Rb、Sr、Y、Zr、Nbの12元素をそれぞれ分析した。塊試料の形状差による分析値への影響を打ち消すために元素量の比を取り、それでもって産地を特定する指標とした。黒曜石ではCa/K、Ti/K、Mn/Zr、Fe/Zr、Rb/Zr、Sr/Zr、Y/Zr、Nb/Zrをそれぞれ用いる。今回分析を行った小関御祭田遺跡出土の黒曜石製石片の元素分析結果を表1に示す。

同定方法

相間を考慮した多変量統計の手法であるマハラノビスの距離を求めて行うホテリングの T^2 検定である。これによってそれぞれの群に帰属する確率を求めて産地を同定する。原石群を作った原石試料は直径3cm以上で分析値は誤差が小さく分析することができる。多数の試料を処理するために、小さな遺物試料の分析に多くの時間をかけられない事情があり短時間で測定を打ち切ったとき、得られた遺物の測定値には大きな誤差範囲が含まれ、希に原石群の元素組成のバラツキの範囲を超えて大きくなる。したがって、小さな遺物の産地推定を行ったときに判定の信頼限界としている0.1%に達しない確率を示す場合が見られる。この場合には原石産地（確率）の欄の確率値に変えて、マハラノビスの距離 D^2 の値を記した。この遺物については記入された D^2 の値が原石群の中で最も小さな D^2 値で、この値が小さい程遺物の元素組成はその原石群の組成と似ていると言えるため、推定確率は低いがその原石産地と考えてほぼ間違ないと判断されたものである。産地の同定結果は1個の遺物に対して、黒曜石製では99個の推定確率結果が得られている。今回産地分析を行った遺物の産地推定結果については低い確率で帰属された原産地の推定確率は紙面の都合上記入を省略し、高い確率で同定された産地のみの結果を表2に記入した。分析番号47865番の遺物は珪素の含有量が非常に大きく石英質岩石でプリント様の原材である。黒曜石製遺物は全て霧ヶ峰産原材と判定された。

非破壊分析による黒曜石製造物の水和層測定

分析は黒曜石の表面に顕微鏡を通して光を照射したときに、黒曜石の表面で反射する光と、水和層で反射する光で生じる干渉波の波長から水和層の厚さを求める方法。光の反射を利用するため、遺物の表面にできた使用痕および埋土中にできた磨耗傷などが水和層測定の障害になり測定できない場合がある。また、水和層と新鮮面との境界面での反射光が非常に弱いため、境界面が明確に発達した部分を探して測定しなければならない。従って、傷のない場所を顕微鏡下で探して分析を行うため、

試料によっては1個に3時間以上かかることもある。今回、遺物の異なる場所について3ヶ所を分析し、平均値と標準偏差を求めて表2に記した。遺物の水和層の厚さを経年年代に換算するには、水和層を分析した黒曜石の経年年代を炭素-14法、フィッシュントラック法で求めた絶対年代から、関ヶ原地区における水和速度を求めて行う。今回分析された5.717、5.670 μm の水和層厚さは、遺物の埋まっていた近くに温泉などがあり地中温度が高いなど異常な状態でないかぎり、縄文早期～前期の厚さに相当すると思われる。まだ、研究は緒についたところで、今後分析データーを積み上げることにより、古代の各時代（水和層厚さ）における地域間交流（産地分析結果）を明らかにする重要な資料が与えられると思われる。

表1 小間御祭田遺跡出土黒曜石製造物の元素比分析結果

分析番号	元素比									
	Ca/K	Ti/K	Mn/Zr	Fe/Zr	Rb/Zr	Sr/Zr	Y/Zr	Nb/Zr	Al/K	Si/K
47862	0.159	0.068	0.118	1.304	1.091	0.390	0.271	0.067	0.018	0.243
47863	0.161	0.072	0.113	1.410	1.092	0.431	0.238	0.062	0.013	0.247
47864	0.150	0.075	0.096	1.287	1.053	0.374	0.300	0.044	0.017	0.251
47865	0.123	0.494	0.199	5.399	0.599	2.847	0.141	0.000	0.000	5.505
JG-1	0.768	0.228	0.077	3.674	1.002	1.320	0.261	0.058	0.016	0.226

JG-1: 標準試料-Ando, A., Kurasawa, H., Ohmori, T. & Takeda, E. 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granodiorite and JB-1 basalt. *Geochemical Journal*, Vol. 8 175-192 (1974)

表2 小間御祭田遺跡縄文時代中期出土の黒曜石製造物の原材产地推定結果
(岐阜県不破郡関ヶ原町)

分析番号	遺物番号	遺物出土地区、層	原石产地(確率)	判定	3ヶ所の水和層厚さ(μm) 平均値±標準偏差	遺物品名 (参考)
47862	I-1	P15, M1	飛ヶ峰(10%)	飛ヶ峰		剝片
47863	2-2	P15, "	飛ヶ峰(0.3%)	"	5.717±0.063	"
47864	3-844.SB1P3	"	飛ヶ峰(4%)	"	5.670±0.006	石器
47865	3-845.SB1P3	"	フリント?			"

挿図番号

47862→341

47863→342

47864→305

47865→313

第6章 考 察

土器から見ると中期中葉のものがあるが破片数は少ない。また中期後葉～末葉の土器では第II群1類と2類が相当量ある。中心になるのは住居跡出土の第II群土器である。第III群土器の後期と晚期後葉の間にはやや時期差があるよう思う。後期、晚期後葉、弥生前期の土器は少ない。住居跡からはほとんど第II群土器が出土し第I群、第III群、第IV群は第II群土器とは分布する範囲が異なる。このことを土器の重量分布で表した。分布は時期により移動していることが確認できた。黒曜石では縄文時代早期という時期が分析されたが、土器には早・前期のものがない。以下に土器分類に従って本遺跡の時期ごとの様相について以下に述べる。(第40図、第15～17表参照)

I 中期中葉から中期後葉 土器量が少なく破片の大きさも小さい。分布の中心は8～12列の間である。第I群土器北屋敷式、船元III式、船元IV式、里木II式、咲烟式に類似する土器である。サヌカイトはチャートに比べ少量で石鎚などはかなり風化している。サヌカイトの分布はJ 7・8、I 8で土器分布の北隅側になる。中期後半のごくはじめに西の文化が入ってくる。その後か同時期に東海系の咲烟式もみられる。

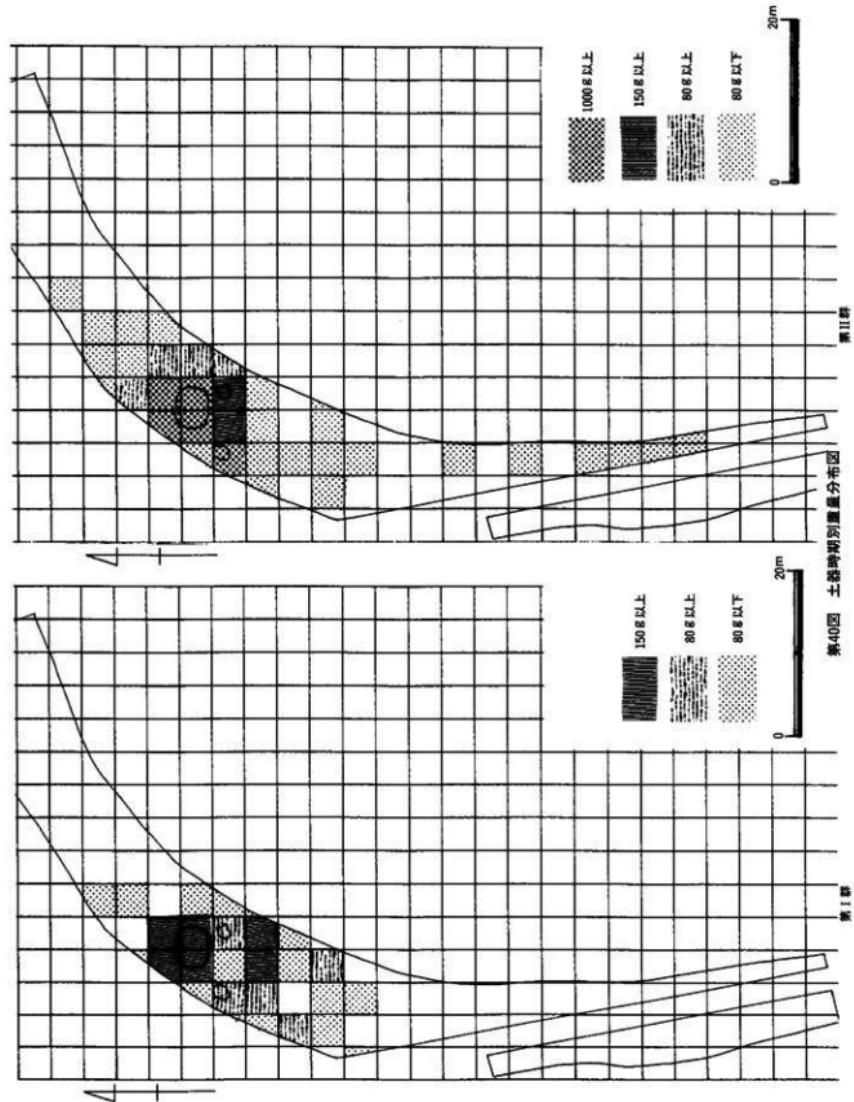
II 中期後葉～末葉 土器量は最も多い。ほとんどは住居跡一軒、集積遺構から出土している。後期には衰退および移動している。分布箇所は住居跡を中心にして3～12列の間と15～22列の間で他の時期に比べると分布の範囲が広がる。第II群土器は貼付隆帯、隆帯区画など隆帯を主とし、突起・把手・橋状把手などで装飾した土器が西日本系土器に取って代わる。加曾利E式など東の土器の文様の影響を大きく受けているが内湾が緩くなり口縁部を肥厚させる(東の影響)キャリバー形土器などの在地の器形に東の文様が付くようである。また文様は隆帯のみでなく半截竹管状工具による沈線、渦巻き文様、刺突なども住居跡から多く出土している。埋甕、副炉、炉跡の中に土器をおくような傾向は東の文化の影響ではないかと思われる。黒曜石は石鎚などごく少量が住居跡周辺から出土している。

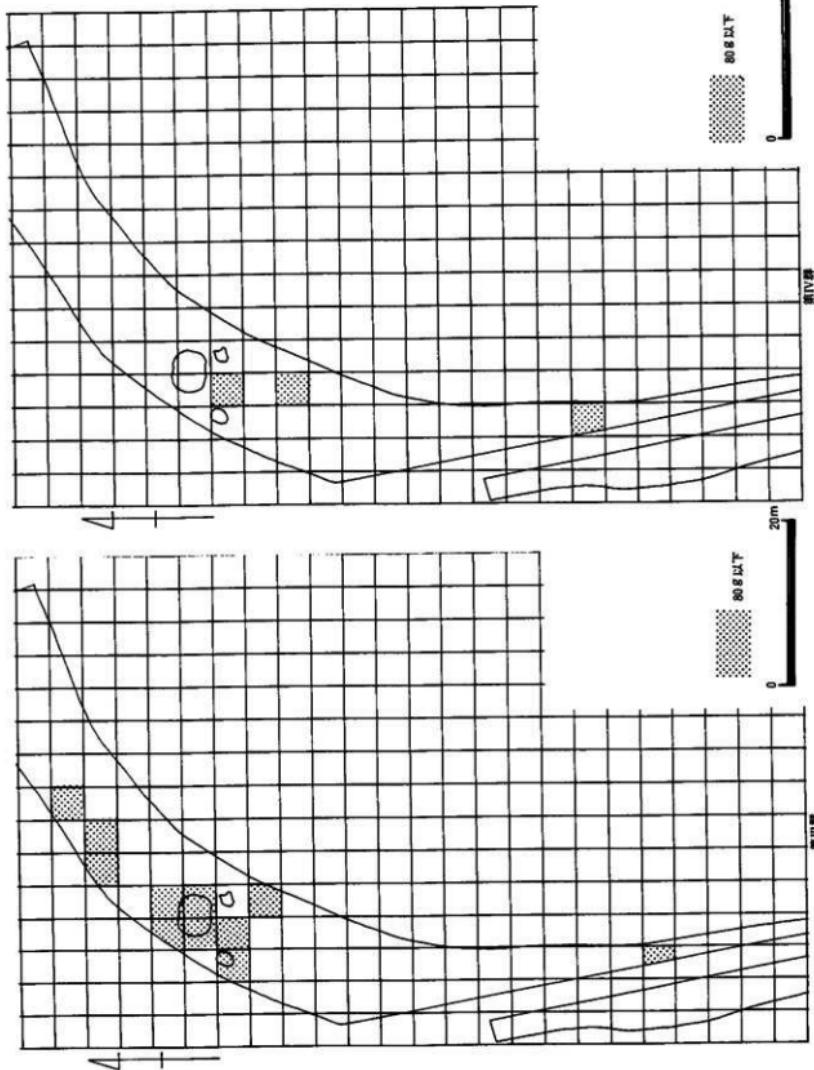
III 後期、晚期後葉 土器量はごく少量で再びこの場所で暮らし始めたようだが中期に比べると分布箇所は3～8列の間と南のL20と2箇所になる。

IV 弥生時代前期 土器量はごく少量でK 8・K 10・L 19で、後期・晚期後葉の分布よりも南側になる。

石器の石材から見るとサヌカイトは出土した石器全体の6%で、黒曜石は4%である。黒曜石は霧ヶ峰産のもので有る。(京都大学原子炉実験所藁科哲男氏分析結果より)サヌカイトは石鎚、スクレイバー、UF、三日月形石器の石製品のみでフレイクなどは確認していない。このことは南西方向1km先の玉の付近でサヌカイトの原石が拾えることや、本遺跡から南東方向2.5km先の藤古川下流にある松尾遺跡からサヌカイトが77%出土していることから比べてもチャートがほとんどでそれらとは傾向が違うといえる。

今回の1,268m²を発掘調査し検出した住居跡は1軒なのでどうしても推測の範囲からは脱せないが中期後半のはじめには西日本系の文化が届き中期後葉には勢い良く東の文化が到達したということになろうか。昭和37年度に発掘調査された中野遺跡から出土した土器の文様によく似ていることもここで付け足しておく。表面採集で縄文土器片や石器が出土する範囲と発掘調査での遺物の出土状況、遺構の検出状況より今回の調査区は小関御祭田遺跡の集落の北端になり更に南の方に範囲が広がるものと考えられる。





第15表 土器時期別造構別重量・点数集計表
重量集計表

遺構名	第I群	第II群	第III群	第IV群	第V群	備考	遺構名	第I群	第II群	第III群	第IV群	第V群	備考
SB1	581	19051	36	0		黒曜石1、サヌ1	K20	0	0	0	0	0	
SI1	3	1652	5	0			K21	0	11	0	0	0	
SI2	17	2	0	0			K22	0	38	0	0	0	
F2	0	0	0	0			K23	0	0	0	0	0	
G3	0	64	20	0			L6	0	52	0	0	0	
G4	0	0	0	0			L7	28	31	0	0	0	
G5	0	0	0	0			L8	53	84	0	0	0	
H4	0	66	8	0		サヌカイト1	L9	100	76	0	0	0	
H5	0	50	0	0			L10	0	30	0	0	0	
H6	0	54	0	0			L11	43	24	0	0	0	
I4	7	66	6	0			L12	23	14	0	0	0	サヌカイト1
I5	5	38	0	0		黒曜石2	L14	0	0	0	0	0	
I6	0	125	0	0			L15	0	14	0	0	0	
I7	39	107	0	0			L16	0	0	0	0	0	
I8	35	101	0	0		サヌカイト1	L17	0	20	0	0	0	
I9	32	0	0	0			L18	0	0	0	0	0	
J4	0	88	0	0			L19	0	11	0	20		
J5	0	116	0	0			L20	0	10	0	0	0	
J8	102	2	0	0		サヌカイト1異形	L21	0	4	26	0		
J9	2	8	11	0			L22	0	34	0	0	0	
J10	6	0	0	0			L23	0	0	0	0	0	
J11	0	43	0	0			M8	6	0	0	0	0	
K5	18	0	0	0			M9	8	23	0	0	0	
K8	30	217	47	56			M10	107	0	0	0	0	
K9	2	61	0	0			M11	31	12	0	0	0	
K10	58	0	0	30			M12	0	0	0	0	0	
K11	134	23	0	0			M16	0	0	0	0	0	
K12	0	0	0	0			N12	64	0	0	0	0	
K19	0	0	0	0			表様	26	78	16	0	0	

点数集計表

遺構名	第I群	第II群	第III群	第IV群	第V群	備考	遺構名	第I群	第II群	第III群	第IV群	第V群	備考
SB1	46	337	3	0	296	黒曜石1、サヌ1	K20	0	0	0	0	1	
SI1	10	51	1	0	83		K21	0	1	0	0	2	
SI2	3	7	0	0	13		K22	0	2	0	0	3	
F2	0	0	0	0	3		K23	1	0	0	0	5	
G3	0	3	1	0	6		L6	0	3	0	0	4	
G4	0	0	0	0	2		L7	5	3	0	0	18	
G5	0	0	0	0	5		L8	5	7	0	0	21	
H4	0	4	1	0	6	サヌカイト1	L9	6	4	0	0	12	
H5	0	3	0	0	4		L10	0	3	0	0	4	
H6	0	2	0	0	5		L11	1	2	0	0	11	
I4	1	6	1	0	8		L12	1	2	0	0	5	サヌカイト1
I5	1	3	0	0	10	黒曜石2	L14	0	0	0	0	1	
I6	0	5	0	0	7		L15	0	1	0	0	1	
I7	4	5	0	0	7		L16	0	0	0	0	6	
I8	4	6	0	0	15	サヌカイト1	L17	0	1	0	0	4	
I9	1	0	0	0	0		L18	0	0	0	0	2	
I4	0	2	0	0	0		L19	0	2	0	1	3	
I5	0	4	0	0	7		L20	0	1	0	0	2	
I8	9	13	0	0	11	サヌカイト1異形	L21	0	1	1	0	1	
I9	14	1	1	0	10		L22	0	1	0	0	0	
J10	1	0	0	0	4		L23	0	0	0	0	1	
J11	0	2	0	0	0		M8	1	0	0	0	1	
K5	2	0	0	0	2		M9	1	2	0	0	2	
K8	4	11	2	1	31		M10	2	0	0	0	7	
K9	10	6	0	0	19		M11	2	1	0	0	3	
K10	4	0	0	1	11		M12	0	0	0	0	2	
K11	8	2	0	0	3		M16	0	0	0	0	3	
K12	0	0	0	0	2		N12	1	0	0	0	0	
K19	0	0	0	0	2		表様	1	4	1	0	13	

第16表 土器分類別造構別重量計測表 (1)

種別 通称名	層位	北里数	(2)船元・里木式系					灰烟系	(4)区画系					
			船元Ⅰ		船元Ⅲ	並行	船元里木系		a種	b種	c種	d種	頭部破片	e種
			単沈線	複合多用										
1 SB1	2			16	61	133		40	2943	32	133	1012	26	
2 SB1燒	M1	10				49		5	95	36	87	816		
3 SB1覆土	1		26	31		33		8	279	40	175	556	35	
4 SB1SK	M1				38	58		12	1101	119	437	865	94	
5 SI1	M1		4	6		59		16	23	30	42	311	175	
6 SI2	M1	7				10					28			
7 SK2	M1									19		20		
8 SK4	M1													
9 SK10	M1					5								
10 SK13	M1				27									
11 SK14	M1													
12 SK15	M1											26		
13 SK17	M1					23								
14 SK27	M1													
15 SK28	M1													
16 SK33	M1													
17 P18	M1													
18 P29	M1													
19 P43	M1													
20 P49	M1													
21 P55	M1													
22 PS9	M1													
23 SU1	M1													
24 SD1	M1													
25 SD2	M1													
26 SD3	M1													
27 SX2	M1													
28 H4	1											18		
29 H5	1											9		
30 H6	1								44		10			
31 I4	2					7					18	10		
32 I5	2													
33 I6	2											64		
34 I7	2	10			5	24			14			57		
35 I8	2					16	19					7		
36 I9	2						32							
37 J4	2								56	32				
38 J5	2								81					
39 J6	2						31		4	5				
40 J7	2						9							
41 J8	2	10					92			22		287		
42 J9	2			11	28	37	104							

重量の単位は g

		(5)後期	(6)晩期	(7)発生前	(8)	(9) 無文			06 成都	00	重量合計	破片数	
b種	c種	その他	縦書き文系	角書き文系	圓文既系	11縦部	脇部	クン括き	平底	脚台			
78	144	1599	19	7		1142	129	3036	241	481	11	33	11316 196
	65	1330	2336			374	62	1386	155	145	189	44	7184 123
	222	708				542	104	1468	382	92		20	4721 165
28	1269	2366				737	161	3479	85	717	67	173	11806 186
	184	887	5			397	299	1925	643	800	171	31	6008 146
	13	127				38			111	15	203		552 23
	25			20					88		29	44	245 10
									23				23 2
		8											13 2
		12							15				42 3
									17				12 1
		9							41				43 3
		4							13				73 6
		22							26				13 2
									7				30 2
									2				7 1
									12				22 2
									5				2 1
									5				12 1
									38				5 2
						11			9				49 2
									27				9 2
									40				123 3
									43	12			40 3
									36				55 3
									26				36 1
	48		8						126			6	158 5
	41								79	11		46	210 11
									54			3	161 8
									45				112 7
	38		6						232		11		331 16
	30								64				227 9
	40	21							36				285 8
	36								10			4	364 17
	94								49			13	565 26
													32 1
													88 2
	35								152			35	303 13
	20											8	68 7
													9 2
	67								36			33	919 33
	8		11						152	5			376 23
									20				

土器分類別遺構別重量計測表(2)

遺構名	種別	層位	(1)		(2)船元・里木式系				(3)		(4)区画系						
			北厚数	船元Ⅲ	船元・里木式系		船元里木系	船元系	灰縁系		主文隣帶						
					単	沈	縁	複合多用			a種	b種	c種	d種	側部破片	e種	
43 J10	2								6								
44 J11	2																43
45 K5	2								18								
46 K6	2								13								
47 K7	2								4								
48 K8	2	5							25		63						45
49 K9	2	5		16		25		128									26
50 K10	2	6					15	4	33								
51 K11	2	4	88						42								
52 K19	2																26
53 K20	2																47
54 K21	2																5
55 K22	2																
56 L6	2								28								15
57 L7	2																16
58 L8	2			5				33		15	11						49
59 L9	2				6	6			79	9							
60 L10	2																
61 L11	1		43														12
62 L12	1																
63 L14	1																
64 L15	1																
65 L16	1																
66 L17	1										20						
67 L18	1																
68 L19	1																
69 L20	1																
70 L21	1																
71 L22	1																34
72 L23	1																
73 M8								6									
74 M9	1							8									
75 M10	1							107									
76 M11	1	21						10									12
77 M12	1																
78 M16	1																
79 N12	1							64									
80 表採								26				17					61
合 计		78	172	108	256	1184	112	109	4688	375	19	937	4287	485			
		78			1832			109			10306						

重量の単位は g

			(5)後期	(6)晩期	(7)後生前	(8)	(9) 無文			(10) 底部	(11)	重量合計	破片数		
主文沈線	その他	縦帶文系	縦帶文系	横文捺系	口縁部	脚 部	クシ書き	平底	脚台	不詳					
b種	c種	脚部破片					74		66		146	5			
											43	2			
				5		16					39	4			
											13	1			
			10								14	2			
109			47	56	160	13	382	11	49	43	1008	49			
13					267		190	10		61	741	33			
				30	176	132	65		75		536	16			
11							82				227	12			
						13					13	2			
					11						11	1			
11					6	12					29	3			
12						27					65	5			
5				5		68					125	7			
26				172	38	70	19	33		25	416	26			
42						331	24	218		12	722	33			
27				58	7	132	25	29			427	22			
30				77							107	7			
12				72	72		12			45	268	14			
5				29							34	4			
						8					8	1			
14				50							64	2			
				23		9	11			43	4				
						41	12				73	4			
						19	21				40	2			
7			20			23					50	4			
10						14		61			85	3			
4			26			18					48	3			
											34	1			
					2						2	1			
				6							12	2			
23						32					63	5			
				44		88				24	263	9			
						33					76	5			
						18					18	2			
						38					38	3			
											64	1			
			16		13	13	171		18	104	20	459	19		
106	1967	7866	2336	24	151	106	4873	1058	15583	1745	3183	665	600	53073	1398
10424			2336	24	151	106	4873		18386		3848	600			

		(5)後期	(6)晩期	(7)弥生前	(8)	(9) 無文			(10) 底部	(11)				
主文沈線	その他	縦帶文系	条痕文系		網文系	口縫部	脇 部	クシ描き	平底	脚台	不詳			
b種	c種	割部破片									点数合計			
	1	9	39		1	1	23	6	31	9	7	1	4	196
	5	23	1				15	5	24	5	4	2	3	123
	8	35					21	7	28	12	3		2	165
I	9	32					20	4	31	3	13	2	7	186
	12	16		1			20	7	27	13	12	1	3	146
	1	5					3		7	1	2			23
	1			1					4	1	1		10	
									2				2	
	1												2	
	1								2				3	
	1												1	
	1								2				3	
	1								4				6	
	1								2				2	
	1								1				1	
	2								1				2	
										1			1	
										1			1	
										1			2	
							1			1			2	
									2				2	
									2				3	
									3				3	
									2	1			3	
									1				1	
							1		3		1		5	
	3		1					4	1	1		1	11	
	2					3		1			1		8	
						3		2					7	
	3		1			1		6		1			16	
	2					3		4					9	
1	1					1		3					8	
	1					1		6			1		17	
	5					3		10	1	1	1		26	
													1	
													2	
	2							7			2		13	
	1										2		7	
													2	
	6						3		5	1	2		33	
	1			1		6	1		1				23	

土器分類別遺構別点数集計表（2）

種別 遺構名	種別 層位 北星數	(1)	(2)元・單木式茶				(3)	(4)區面系					
			船元III	船元IV	董行	船元里木系		a種	b種	c種	d種	胸部破片	a種
			単沈縁	隆荷多用									
43 J10	2					1							
44 J11	2					2							2
45 K5	2					1							
46 K6	2					1							
47 K7	2					1							
48 K8	2	1				3		1					5
49 K9	2	1		1	1	7							3
50 K10	2	1			1	2							
51 K11	2	1	3			4							
52 K19	2												
53 K20	2												
54 K21	2												
55 K22	2												1
56 L6	2												2
57 L7	2					5							1
58 L8	2			1		2		2	1				2 1
59 L9	2			1	1			3	1				3 1
60 L10	2												
61 L11	1		1										1
62 L12	1												
63 L14	1												
64 L15	1												
65 L16	1												
66 L17	1											1	
67 L18	1												
68 L19	1												
69 L20	1												
70 L21	1												
71 L22	1												1
72 L23	1												
73 M8	1					1							
74 M9	1					1							
75 M10	1					2							
76 M11	1	1				1							1
77 M12	1												
78 M16	1												
79 N12	1					1							
80 表株					1				1				1
合 計		10	7	9	13	96	5	11	46	17	1	29	147 15
		10			130			11			240		

		(5)後期	(6)晩期	(7)共生前	(8)	(9) 無文			(10) 底部	(11)	点数合計
主文沈線	その他	縦書き文系	横書き文系		縦文無系	口縁部	脇部	クシ括き	平底	脚台	
b種	c種	胴部破片						3	1		5
											2
						1	1				4
											1
				1							2
	5		2	1	9	1	12	1	2	6	49
	1				7		7	1		4	33
				1	4	3	3		1		16
	1							3			12
							2				2
						1					1
	1					1	1				3
	1						3				5
	1					1	3				7
	2				9	1	5	1	1	1	26
	3					11	3	6		1	33
					4	1	4	2	1		22
	3				4						7
	1				4	3		1		3	14
	1				3						4
								1			1
	1				1						2
					2		1	1			4
							2	1			4
							1	1			2
	1			1			2				4
	1						1		1		3
	1		1				1				1
							1				1
							1				2
	2						2				5
						2		4		1	9
								2			5
								2			2
								3			3
											1
	2			1		1	1	8	1	1	19
2	47	210	1	2	10	3	180	43	318	61	60
									422		11
										71	44
274			1	2	10	3	180				1398

主要参考文献

- 1 大岡明臣『関ヶ原町遺跡調査報告』1982。
- 2 岐阜県教育委員会『岐阜県史』原始編 1972。
- 3 関ヶ原町教育委員会『関ヶ原町史』通史編上巻1990。
- 4 高橋順之『伊吹山地周辺の縄文遺跡』『起こし又遺跡発掘調査報告書』1993。
- 5 文化庁文化財保護部『全国遺跡地図 滋賀県』1982。
- 6 可児市教育委員会『宮之島遺跡B地点』『川合遺跡群』1994。
- 7 長野県教育委員会『信仰と葬制』『長野県史』1988。
- 8 桜井秀雄『埋甕の用途・機能をめぐる素描』『長野県埋蔵文化財センター紀要4』1995。
- 9 『縄文土器大観』中期II 小林達雄他 1988。
- 10 (財)岐阜県文化財保護センター『戸入村平遺跡』1994。
- 11 各務原市教育委員会『炉畠遺跡』1973。
- 12 豊田市教育委員会『船塚遺跡』1968。
- 13 国際基督教大学考古学研究センター『新橋遺跡』。
- 14 舞鶴市教育委員会『桑飼下遺跡』1975。
- 15 長沢宏昌『山梨県埋蔵文化財センター研究紀要』4 1987。
- 16 (財)岐阜県文化財保護センター『荒城神社遺跡』1994。
- 17 金沢市教育委員会『金沢市新保本町チカモリ遺跡』石器編1984。
- 18 鈴木道之助『図録 石器入門事典』〈縄文〉1994。
- 19 吉朝則富 高山考古学研究会会報「どっこいし」第42号 1993。
- 20 萩原町教育委員会『飛驒 桜洞』1974。
- 21 東日本埋蔵文化財研究会『古墳時代の祭祀』1993。
- 22 日本国有鉄道『東海道新幹線増設工事に伴う 埋蔵文化財発掘調査報告書』20.中野遺跡 1965。
- 23 京都大学北部構内 BF31区発掘調査班『北白川追分町遺跡の発掘調査』『京都大学構内遺跡調査研究年報昭和59年度』1987。

図 版



遺跡遠景写真（南より）



遺跡近景写真（南より）



遺跡より南を望む

図版 2



住居跡検出状況（北より）



住居跡検出状況（南より）



作業風景



炉跡検出状況

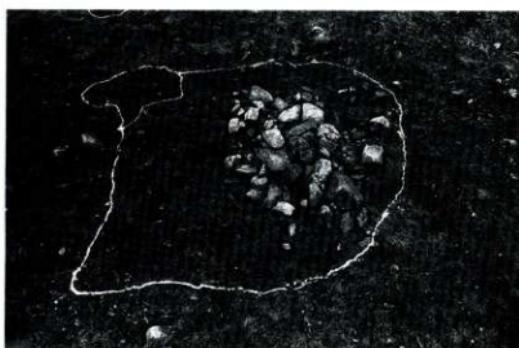


炉内土器出土状況

图版 4



堆积遗構 1 挖出状況



堆积遗構 2 挖出状況



堆积遗構 2 遺物出土状況



埋藏出土状況（東より）

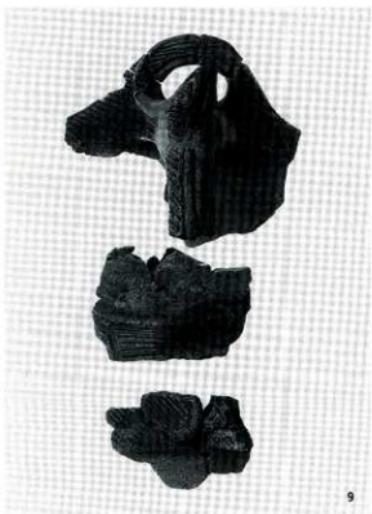


埋藏出土状況（東より）

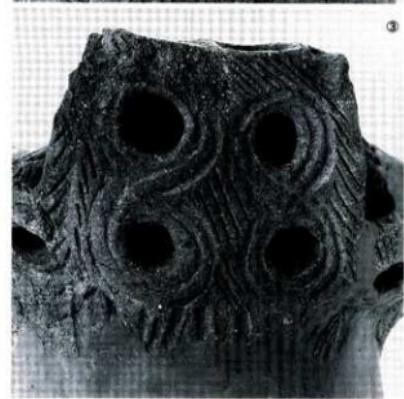


埋藏出土状況（北より）

図版 6



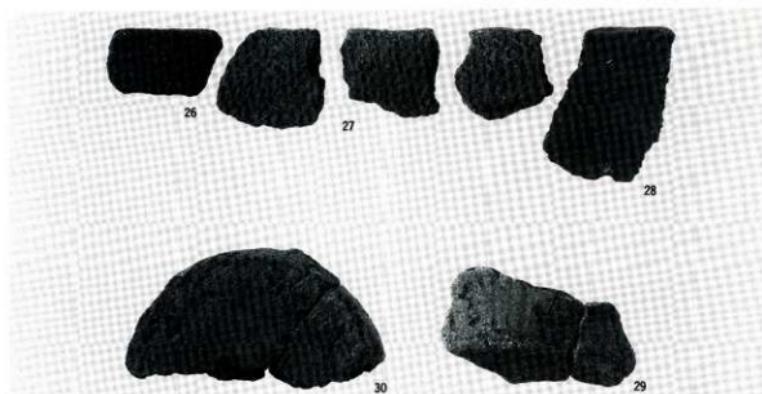
住居跡出土土器（炉内出土土器、床面出土土器、埋甕）



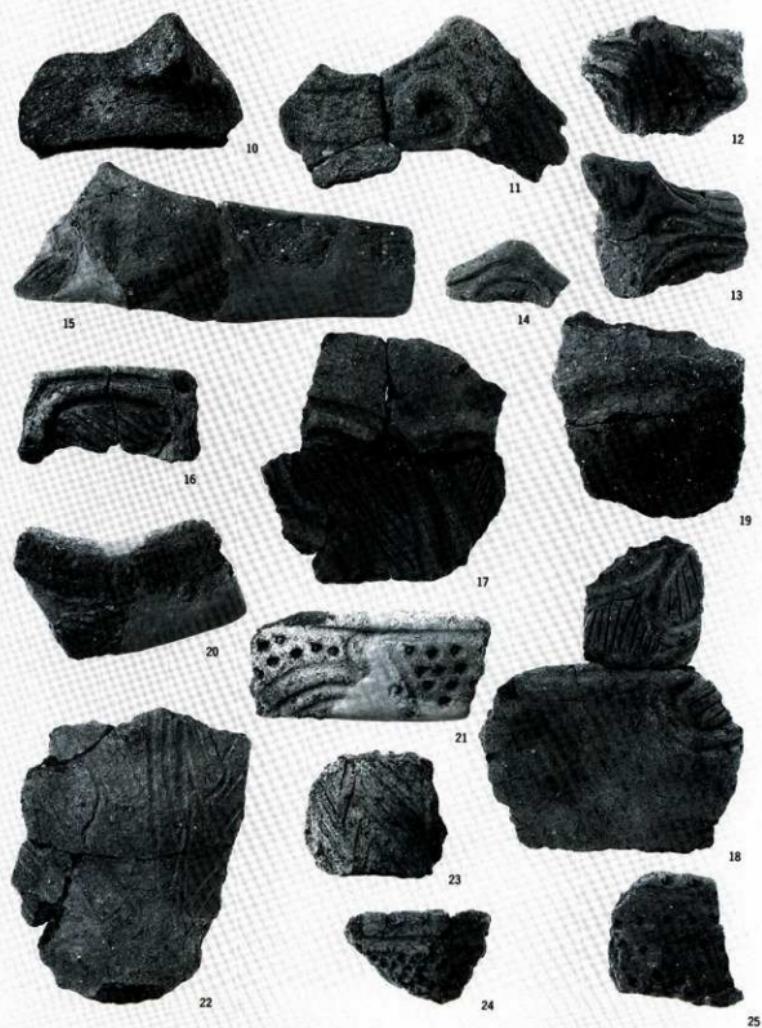
埋棗拡大写真

⑥

図版 8



住居跡出土第 I 、 V 群土器 底部網代痕



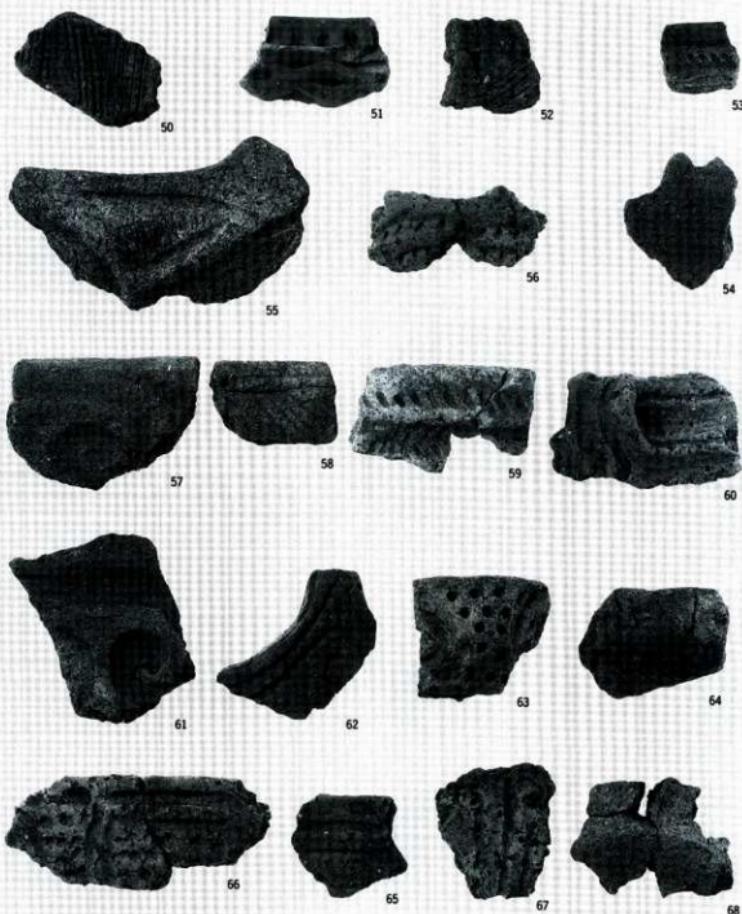
住居跡出土第II群土器

図版 10



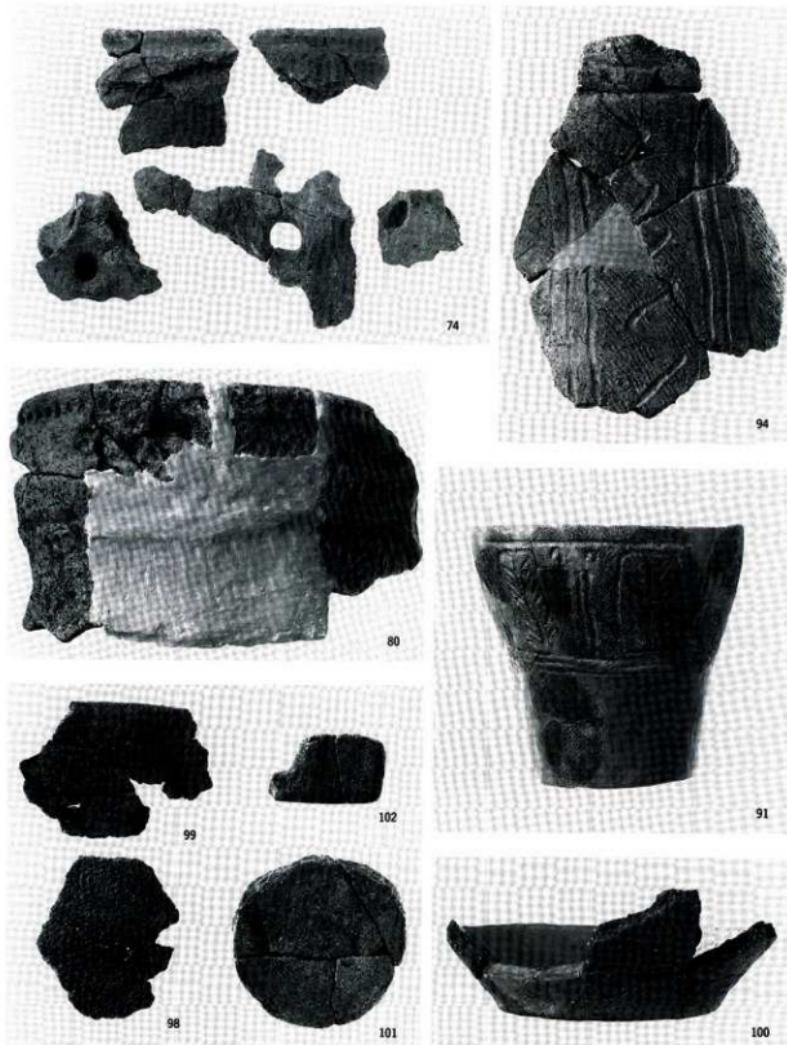
住居跡炉内出土第 I、II、III、V 群土器

図版 11

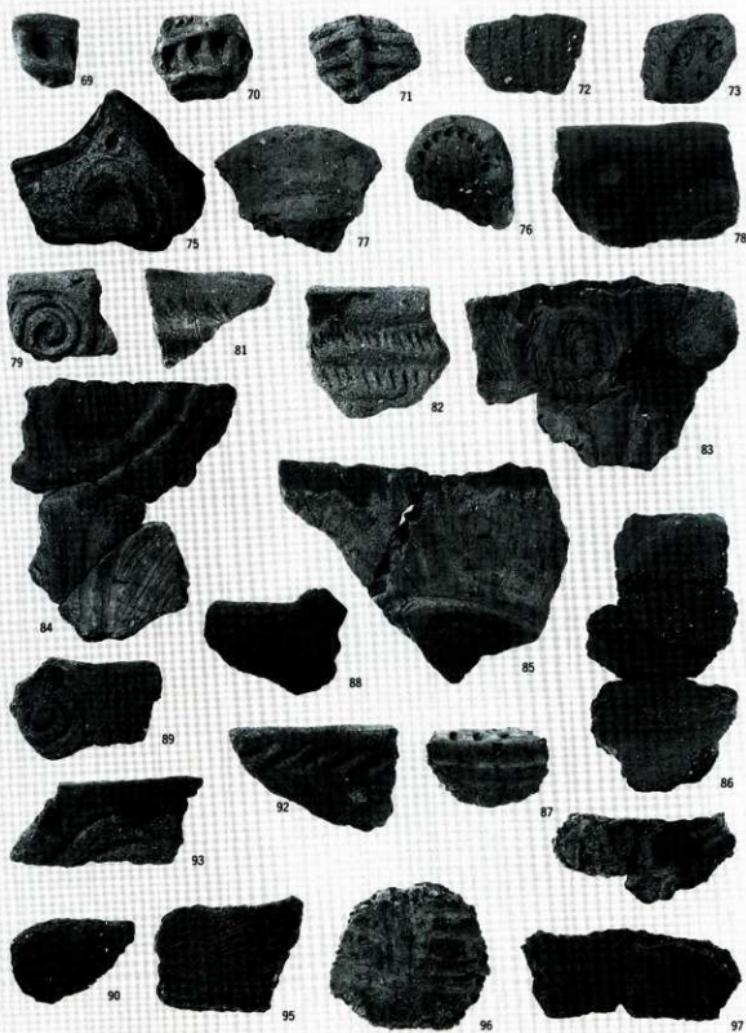


住居跡覆土出土第 I、II、V 群土器

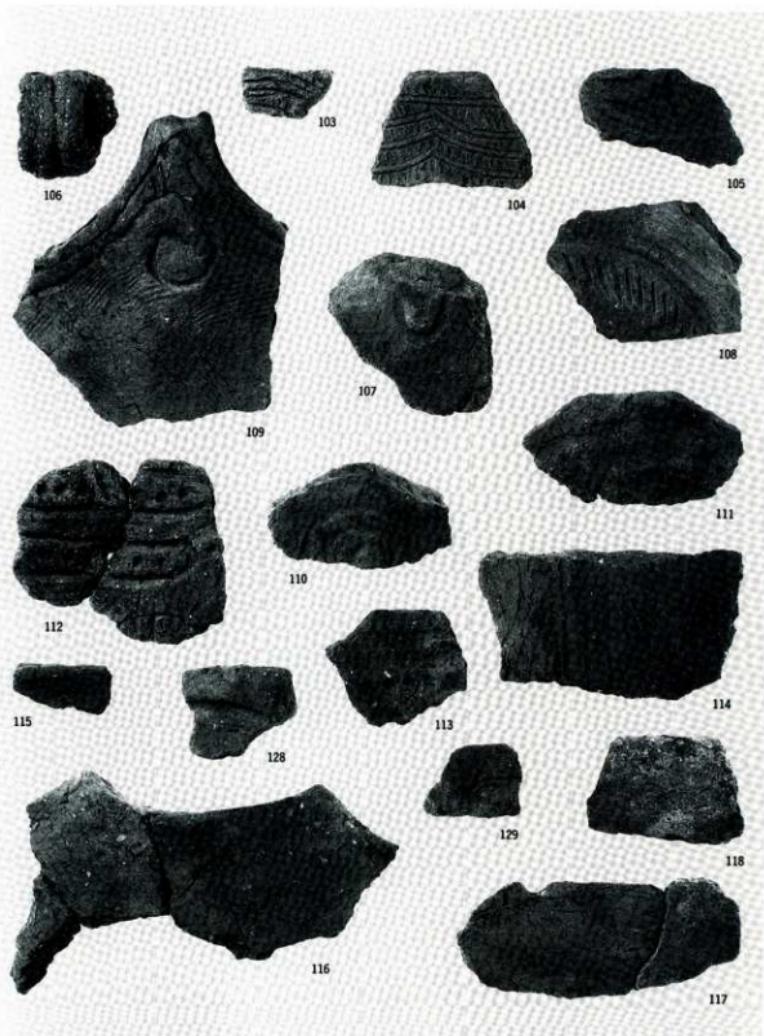
図版 12



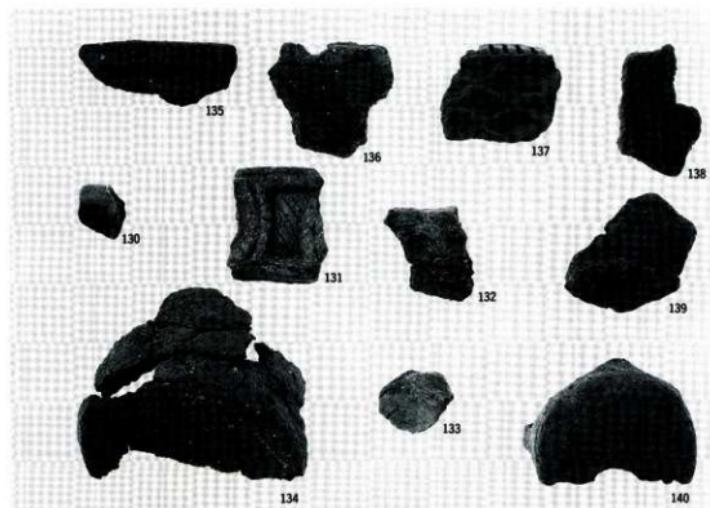
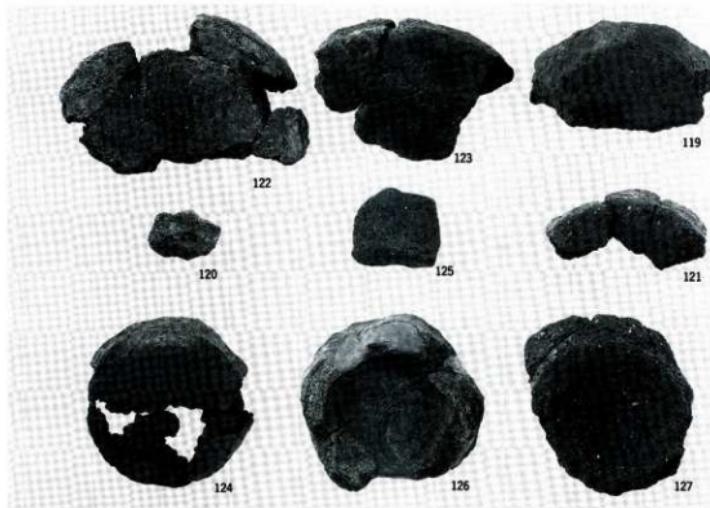
住居跡内SK出土第II、V群土器



住居跡内SK出土第Ⅰ、Ⅱ群土器

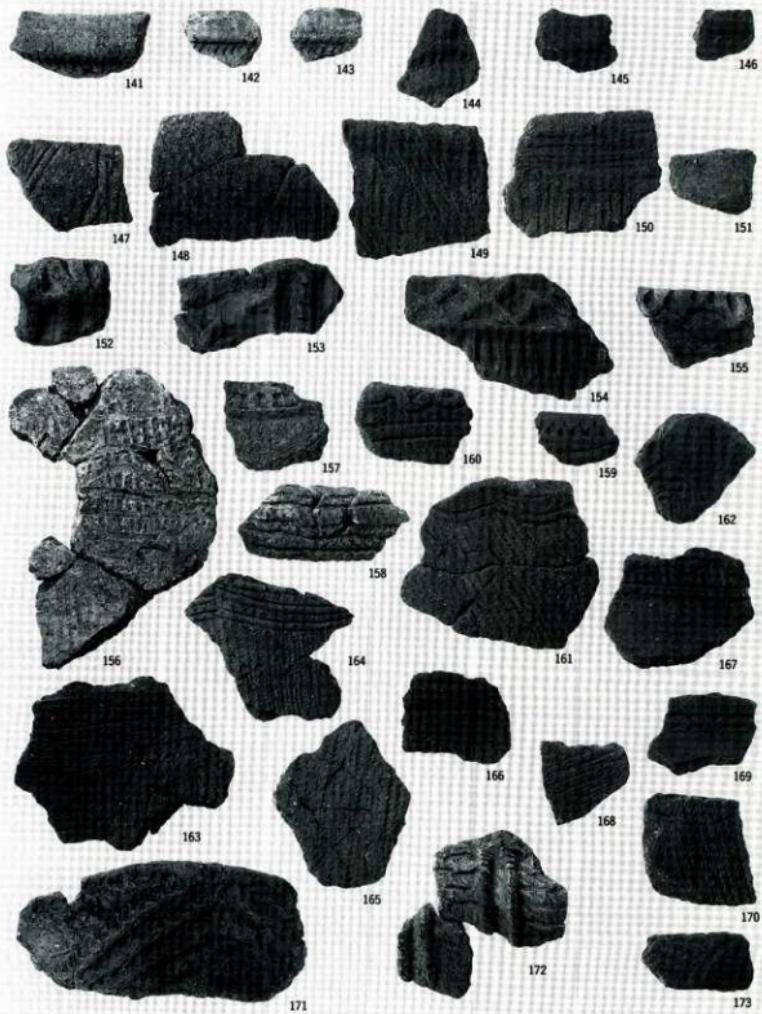


集積遺構 1 出土第Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ群土器

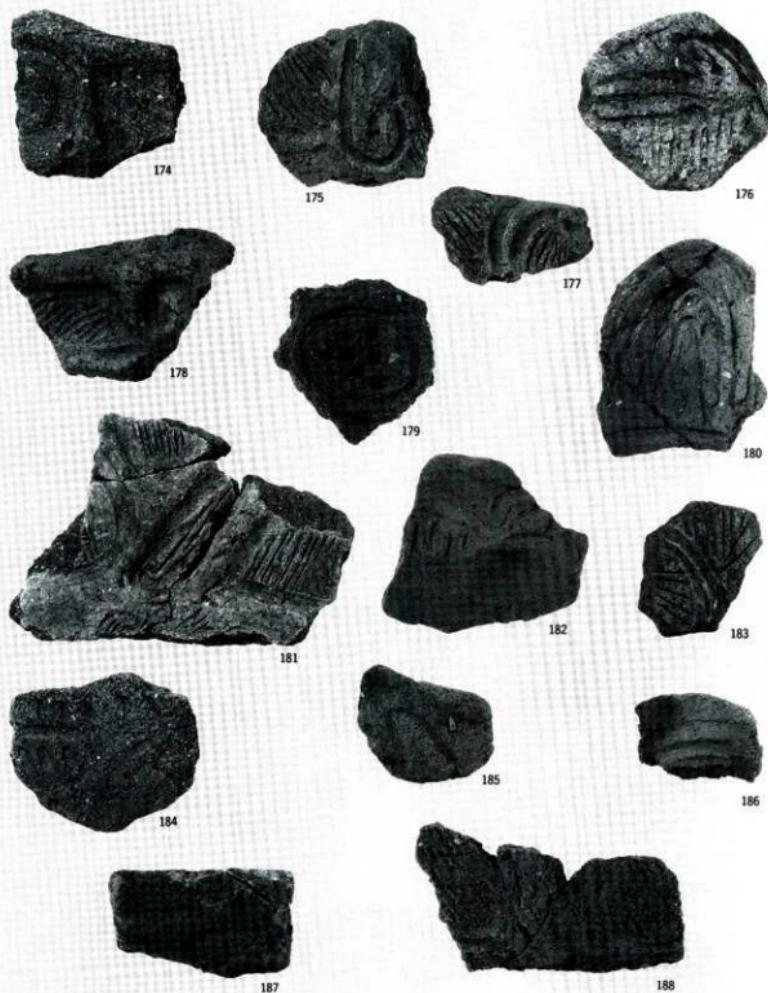


集積遺構 1 出土第 V 群土器 集積遺構 2、SK、P 出土土器

圖版 16

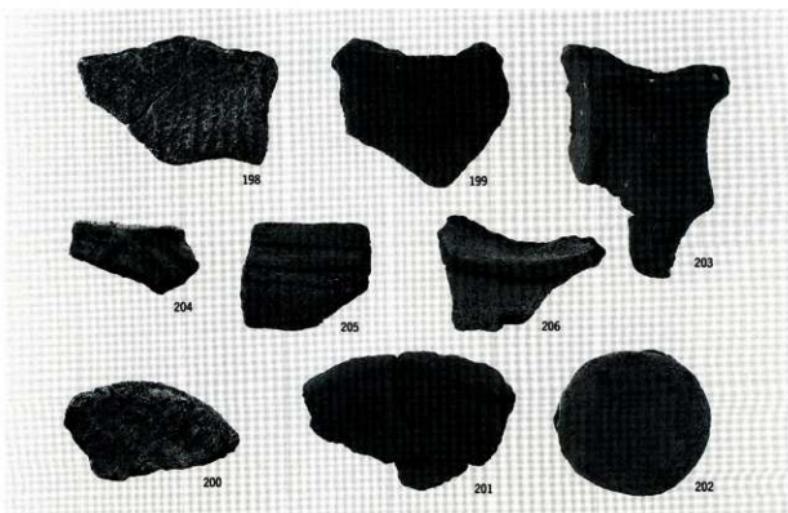
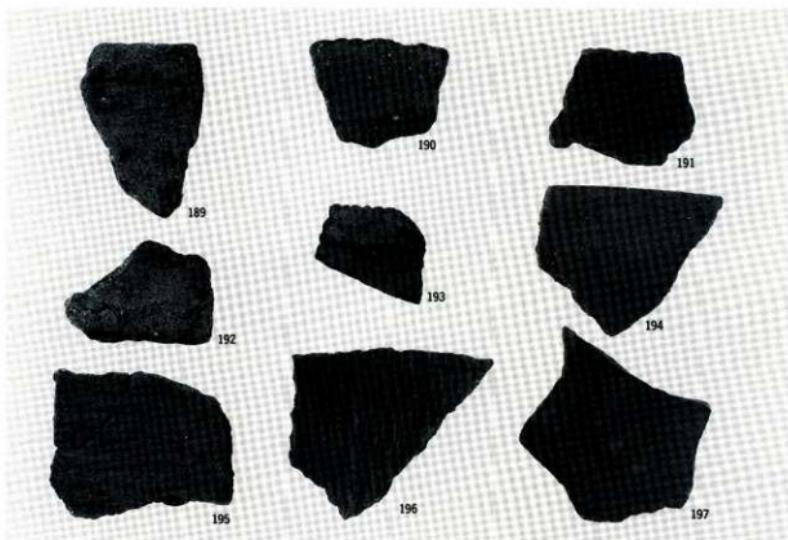


包含層出土第 I 群土器

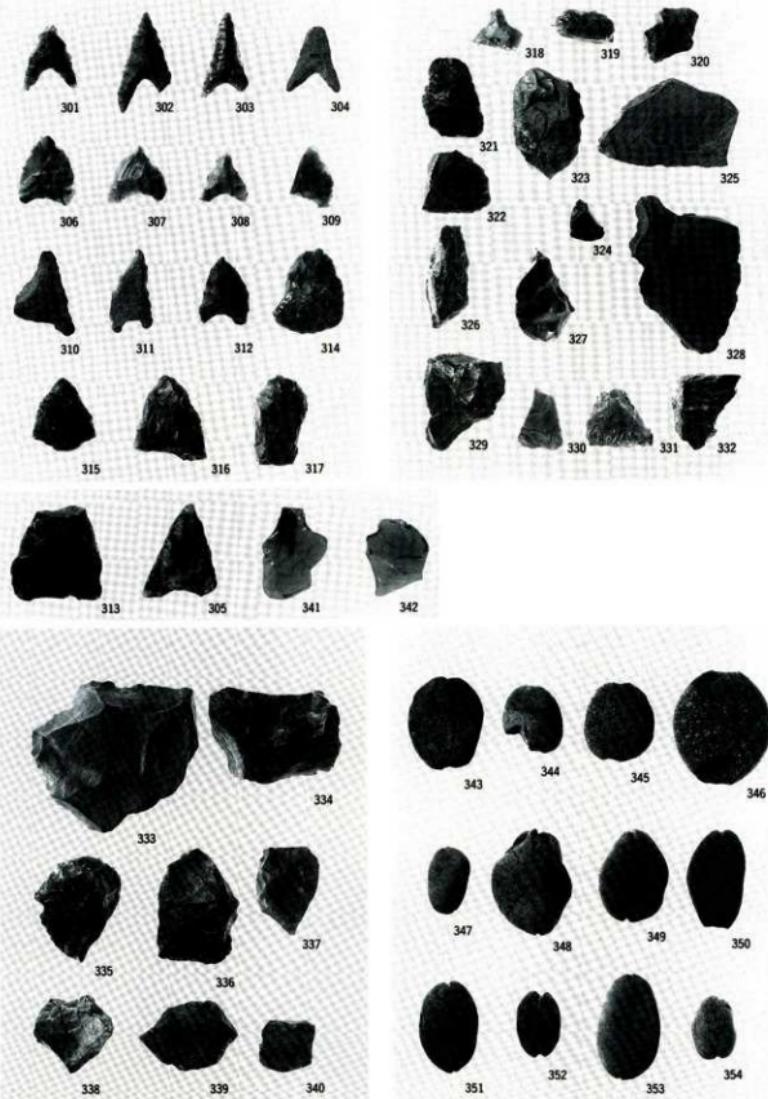


包含層出土第II群土器

圖版 18



包含層出土第III、IV、V群土器



石器（1）石鏃 スクレイパー 石核 フレーク 石錐

図版 20



355



356



357



358



359



361



360



401



402



403

石器（2）敲・凹・磨石 石皿 异形石器 その他の時代の遺物

報告書抄録

ふりがな	こぜきごさいいでんいせき						
書名	小関御祭田遺跡						
副書名	大規模林道関ヶ原八幡線工事に伴う緊急発掘調査報告書						
卷次							
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書						
シリーズ番号	第31集						
編著者名	大知正枝・藤井哲男						
編集機関	財団法人岐阜県文化財保護センター						
所在地	〒500 岐阜県岐阜市司町1(岐阜総合庁舎内)TEL058-(264)-1111(814)						
発行年月日	西暦1997年3月17日						
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間 調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在名	市町村	遺跡番号				
こぜきごさいいでんいせき 小関御祭田遺跡	岐阜県不破郡 関ヶ原町関ヶ原 字蜻蛉谷	362 003	G31S 06966	35° 22' 17"	136° 27' 11"	19960510 19960931 1268m ²	大規模林道 関ヶ原八幡 線建設工事 に伴う事前 調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項	
小関御祭田遺跡	集落	绳文	堅穴住居跡1軒 集積遺構2基 土坑・ピット	绳文土器 石器 石製模造品 陶磁器		绳文中期後半の土 器が主である。石 器はチャートが主 になる遺跡であ る。異形石器、石 製模造品出土	

岐阜県文化財保護センター調査報告書 第31集

小関御祭田遺跡

大規模林道関ヶ原八幡線建設工事に伴う
緊急発掘調査報告書

1997年3月10日 印刷

1997年3月17日 発行

編集・発行 財団法人 岐阜県文化財保護センター
岐阜県岐阜市司町1 (岐阜総合庁舎内)

印 刷 西濃印刷株式会社

『小関御祭田遺跡』発掘調査報告書 正誤表

頁	訂正箇所	誤	正
報告書抄録	副書名	――岡ヶ原八幡神工事に伴う――	――岡ヶ原八幡線建設工事に伴う――